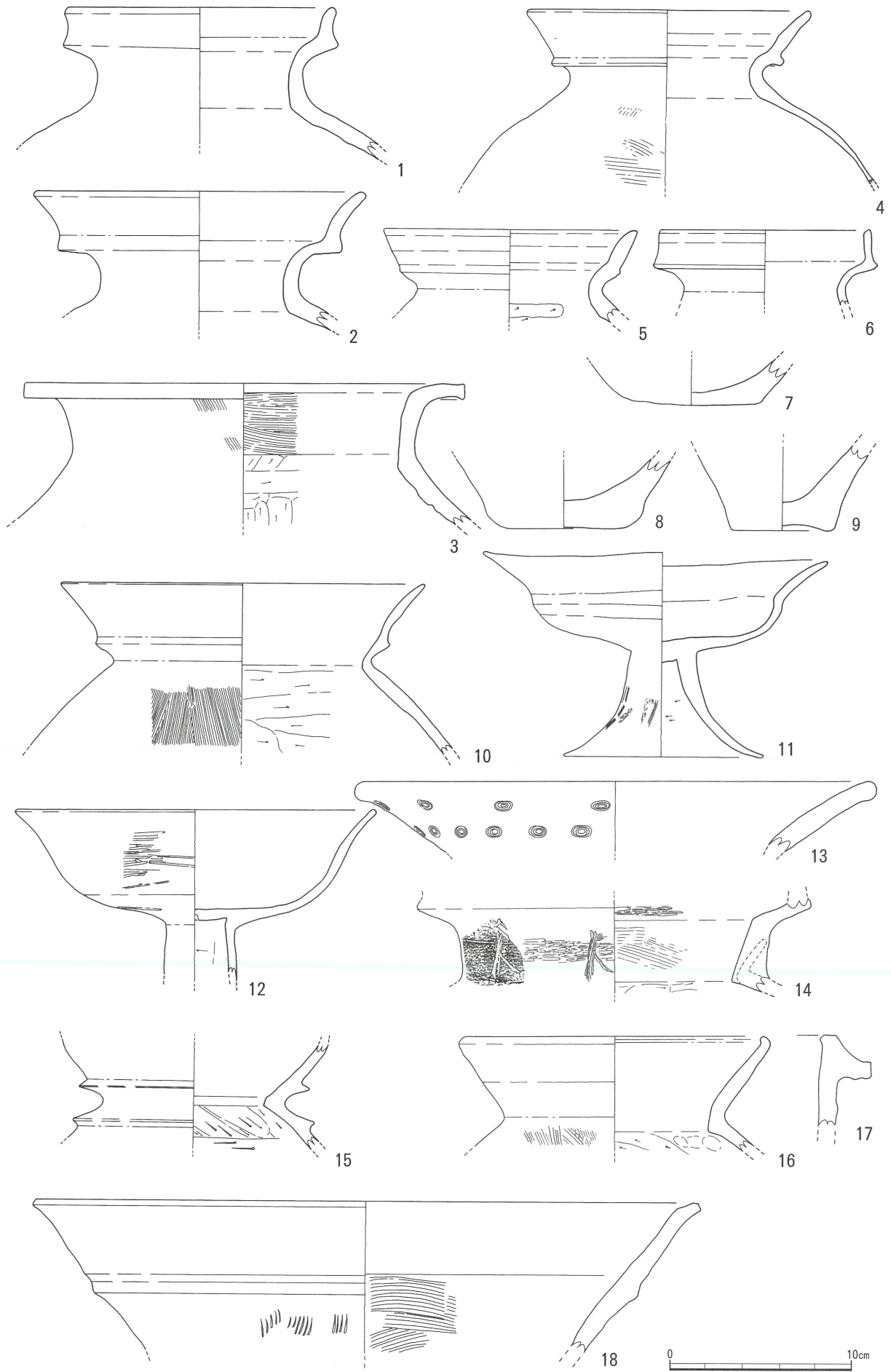
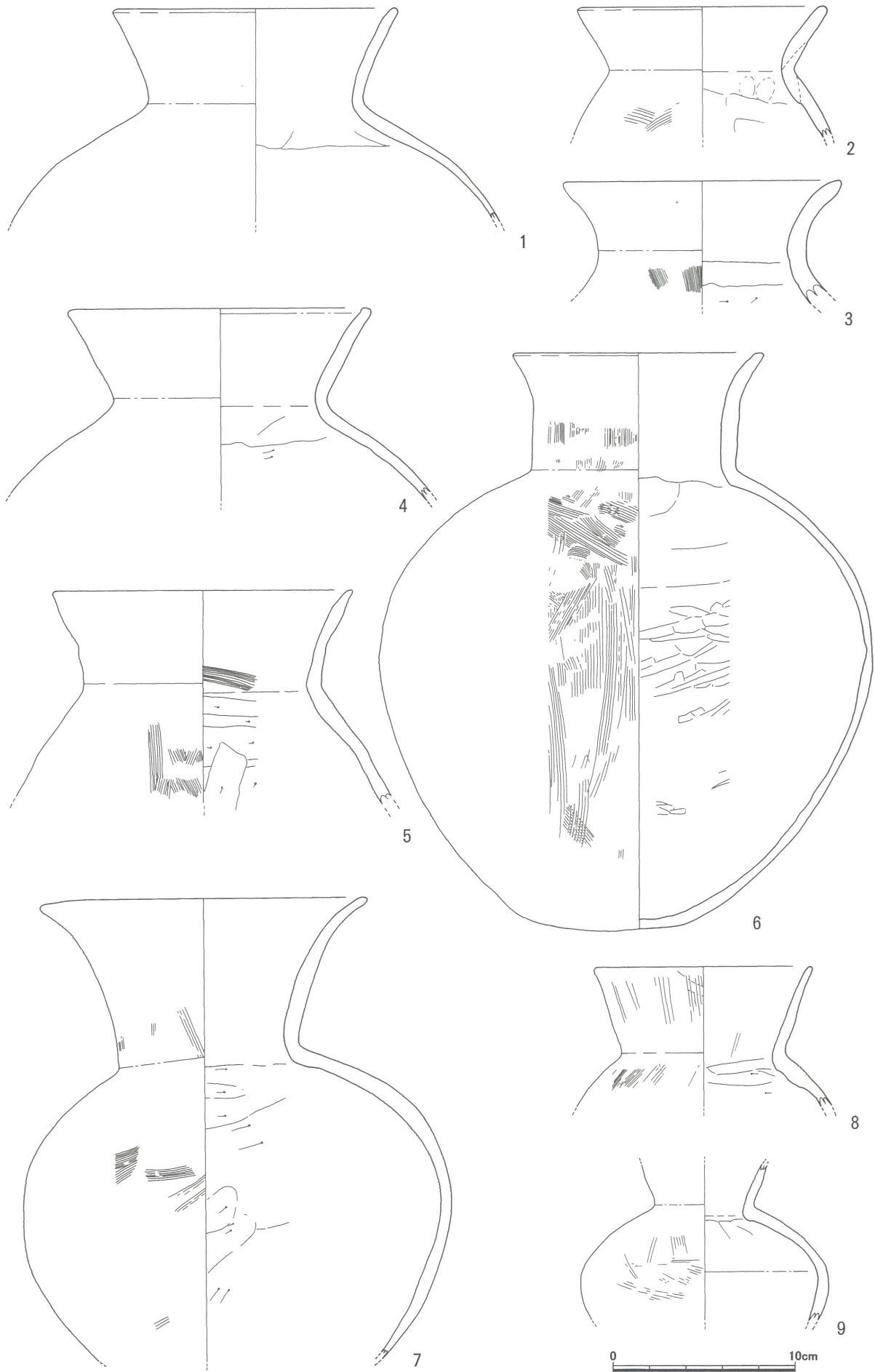


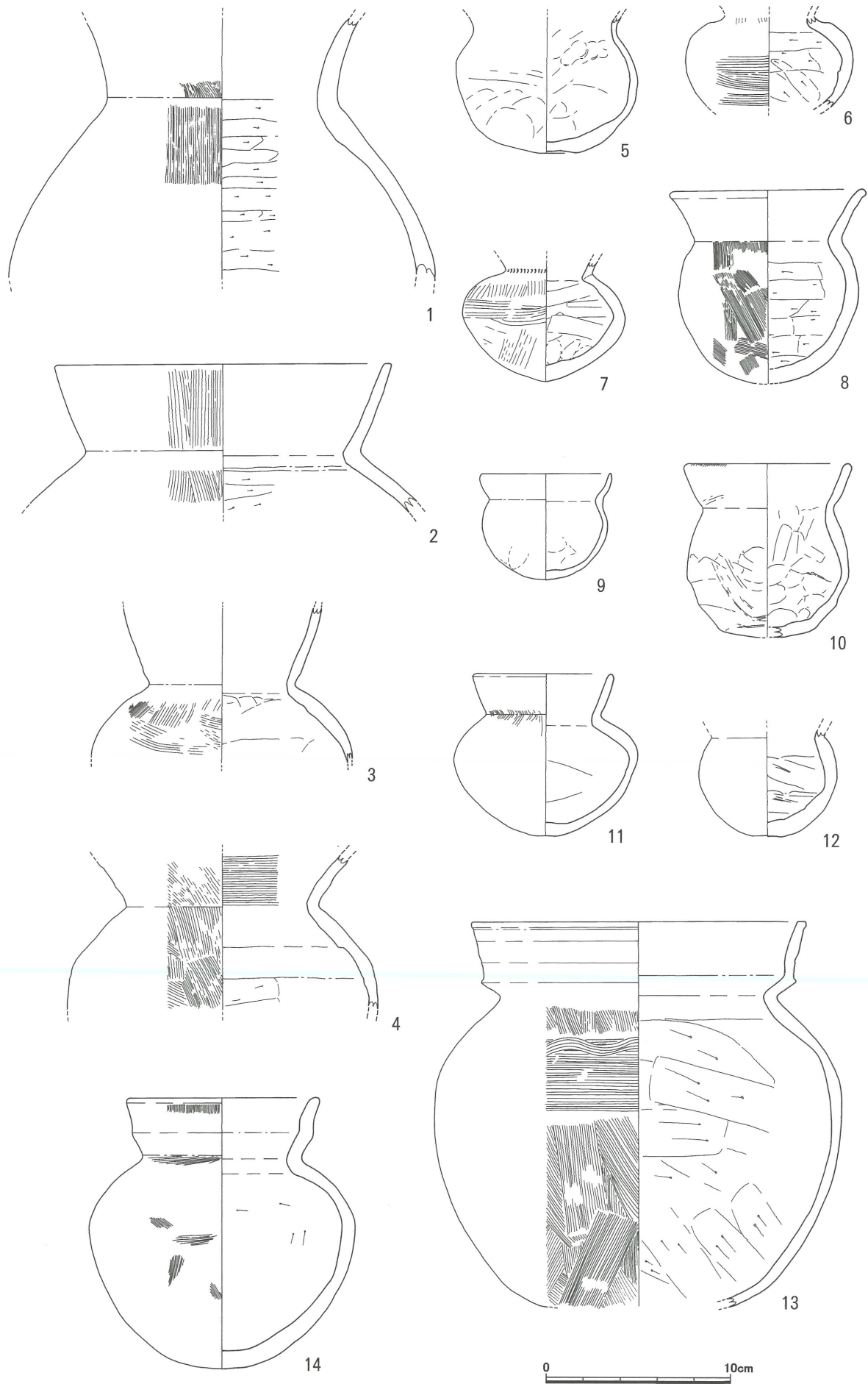
第64図 2 D区 4層出土遺物実測図1 (S=1/3) (弥生土器)



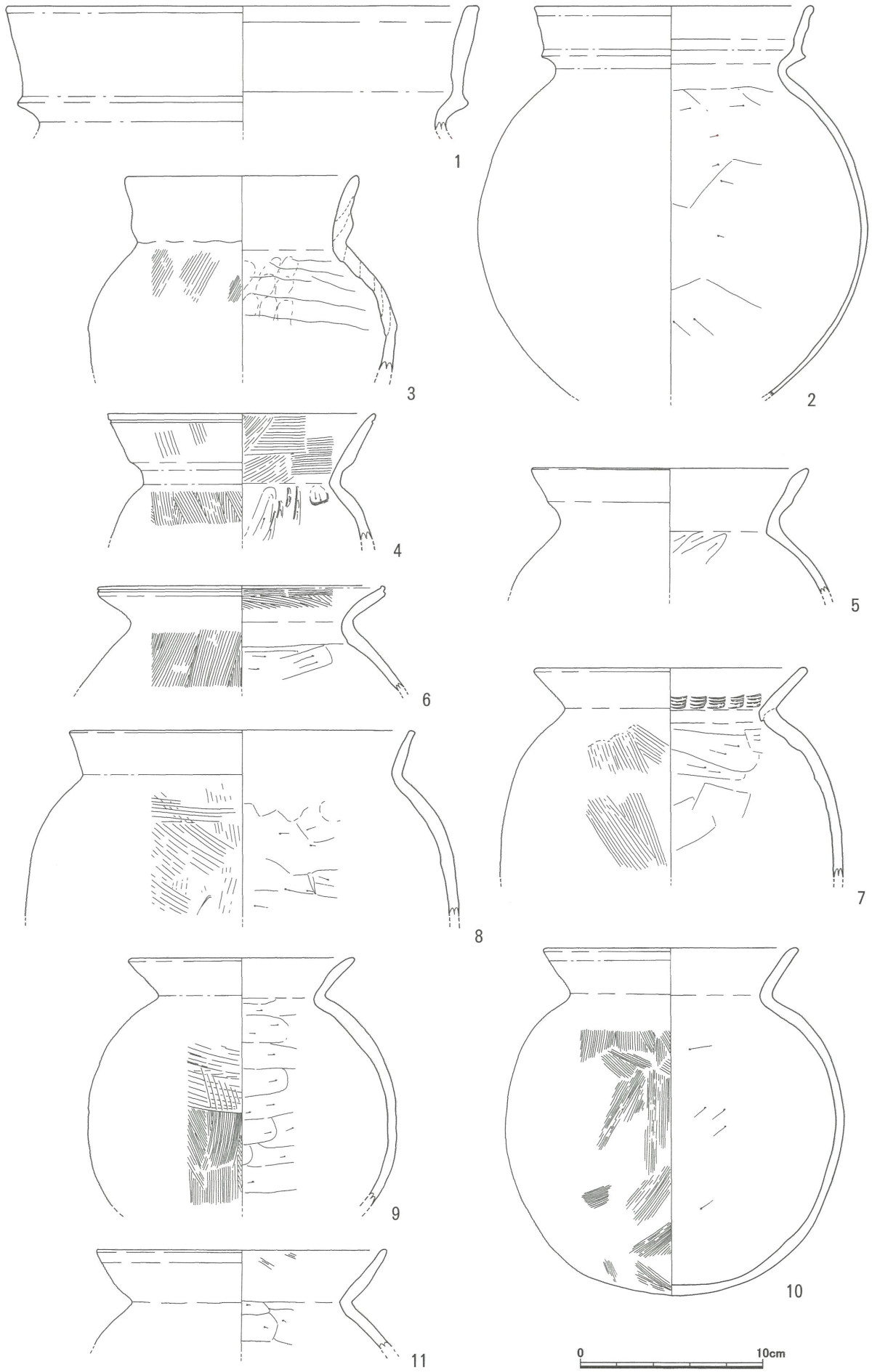
第65図 2D区4層出土遺物実測図2 (S=1/3) (土師器甕、壺、高坏、器台ほか)



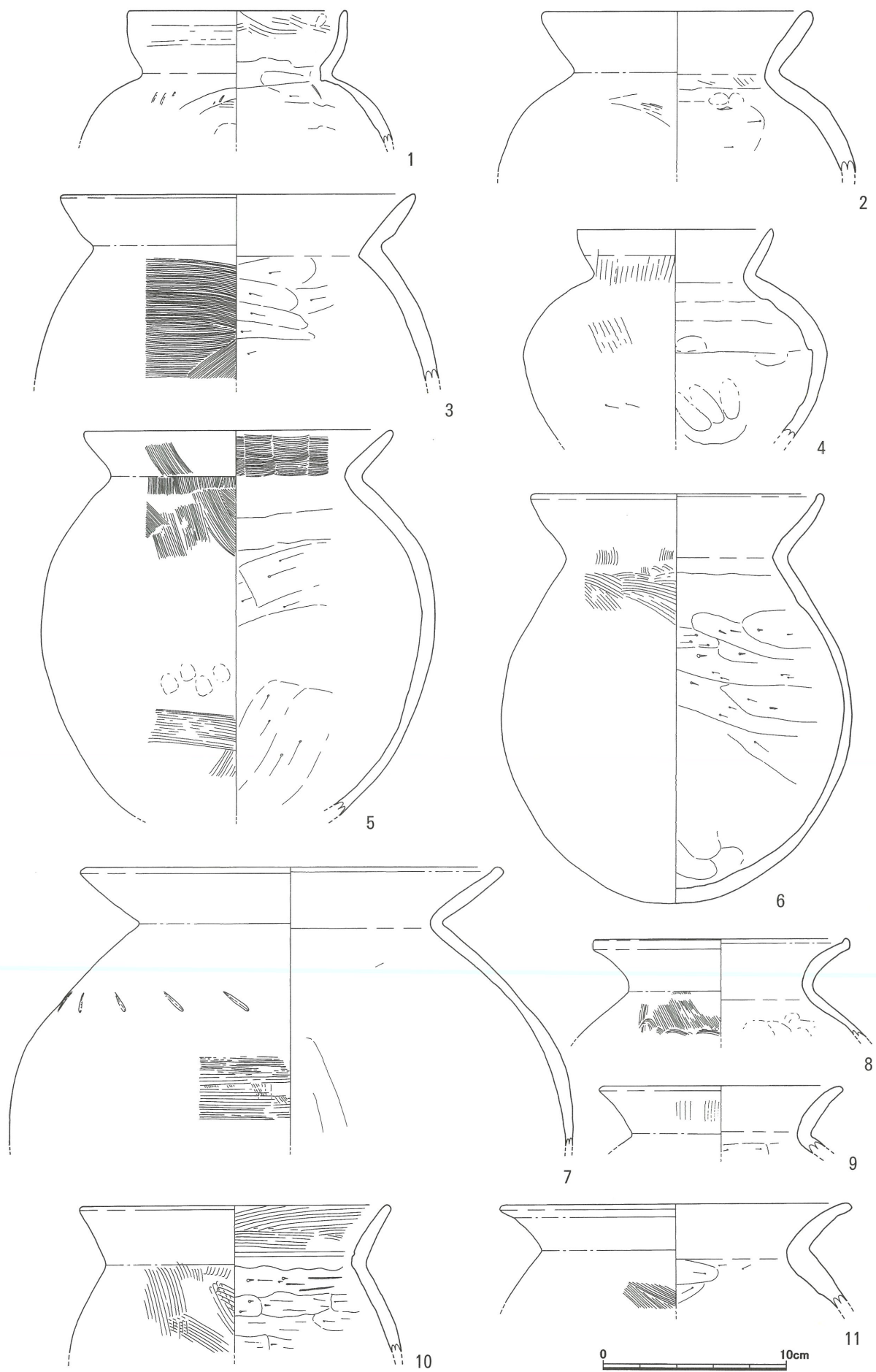
第66图 2 D区 4層出土遺物実測図3 (S=1/3) (土師器壺)



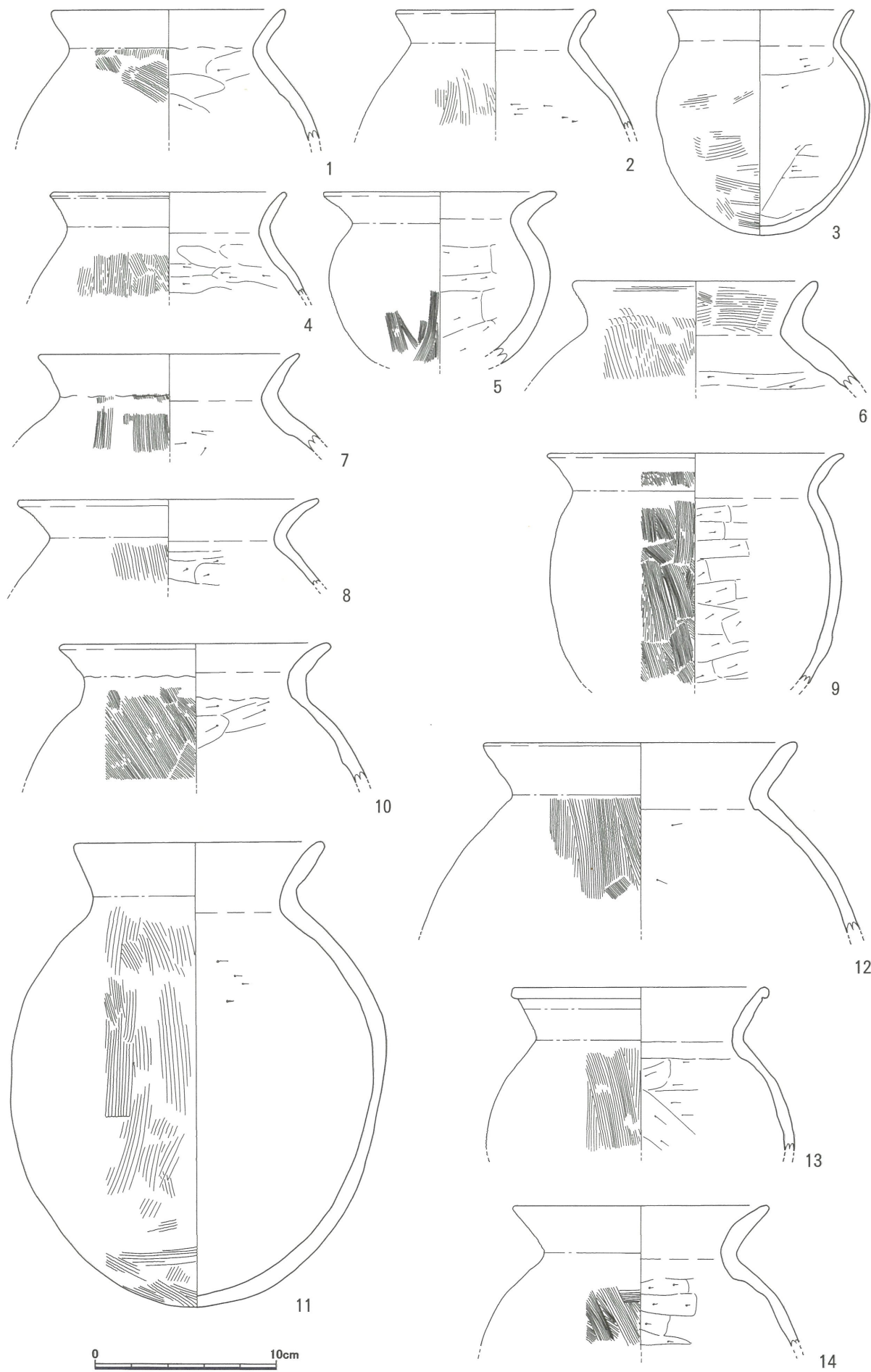
第67図 2 D区 4層出土遺物実測図4 (S=1/3) (土師器甕、壺)



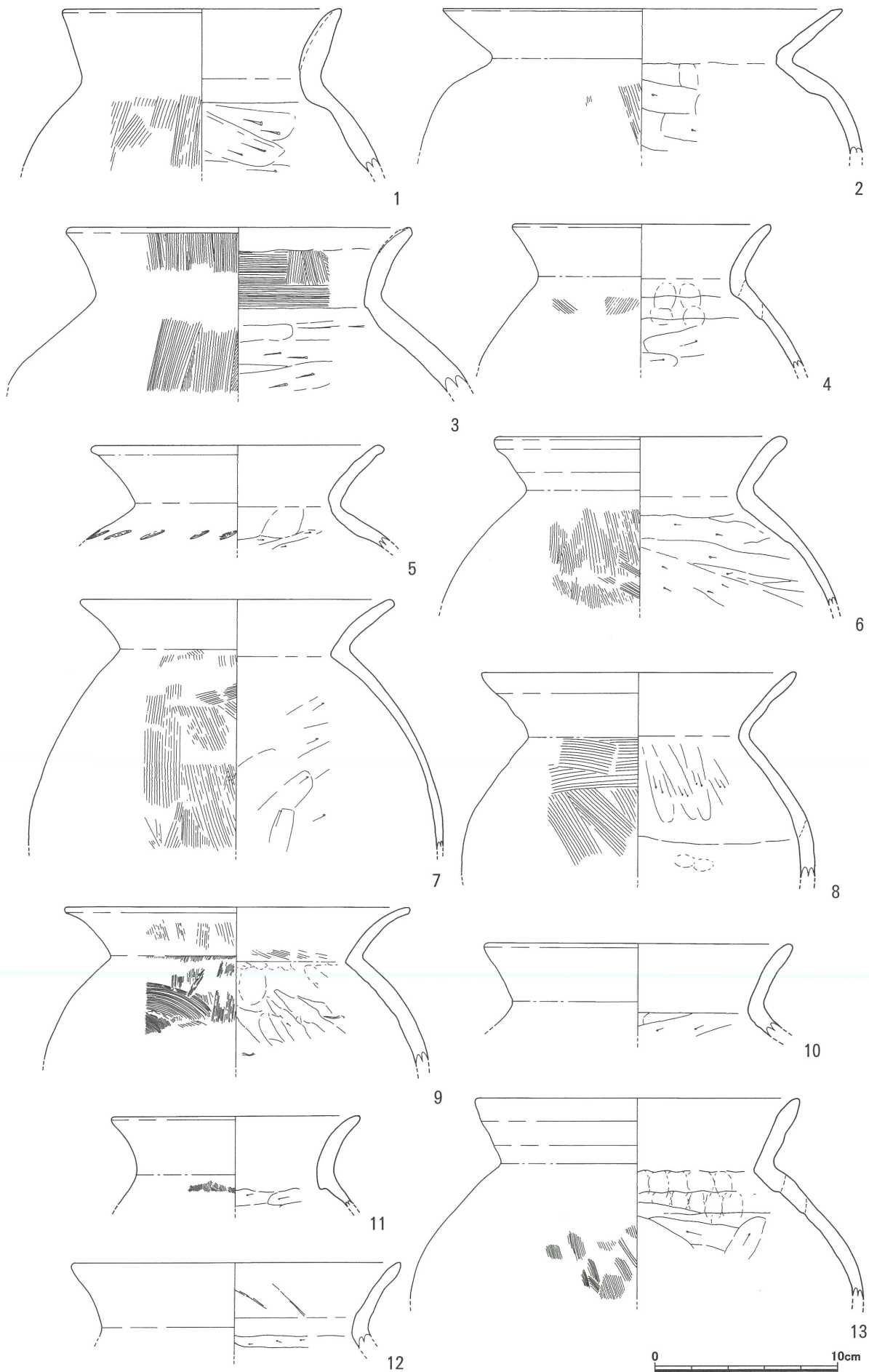
第68図 2 D区 4層出土遺物実測図5 (S=1/3) (土師器甕)



第69図 2 D区 4層出土遺物実測図6 (S=1/3) (土師器甕)

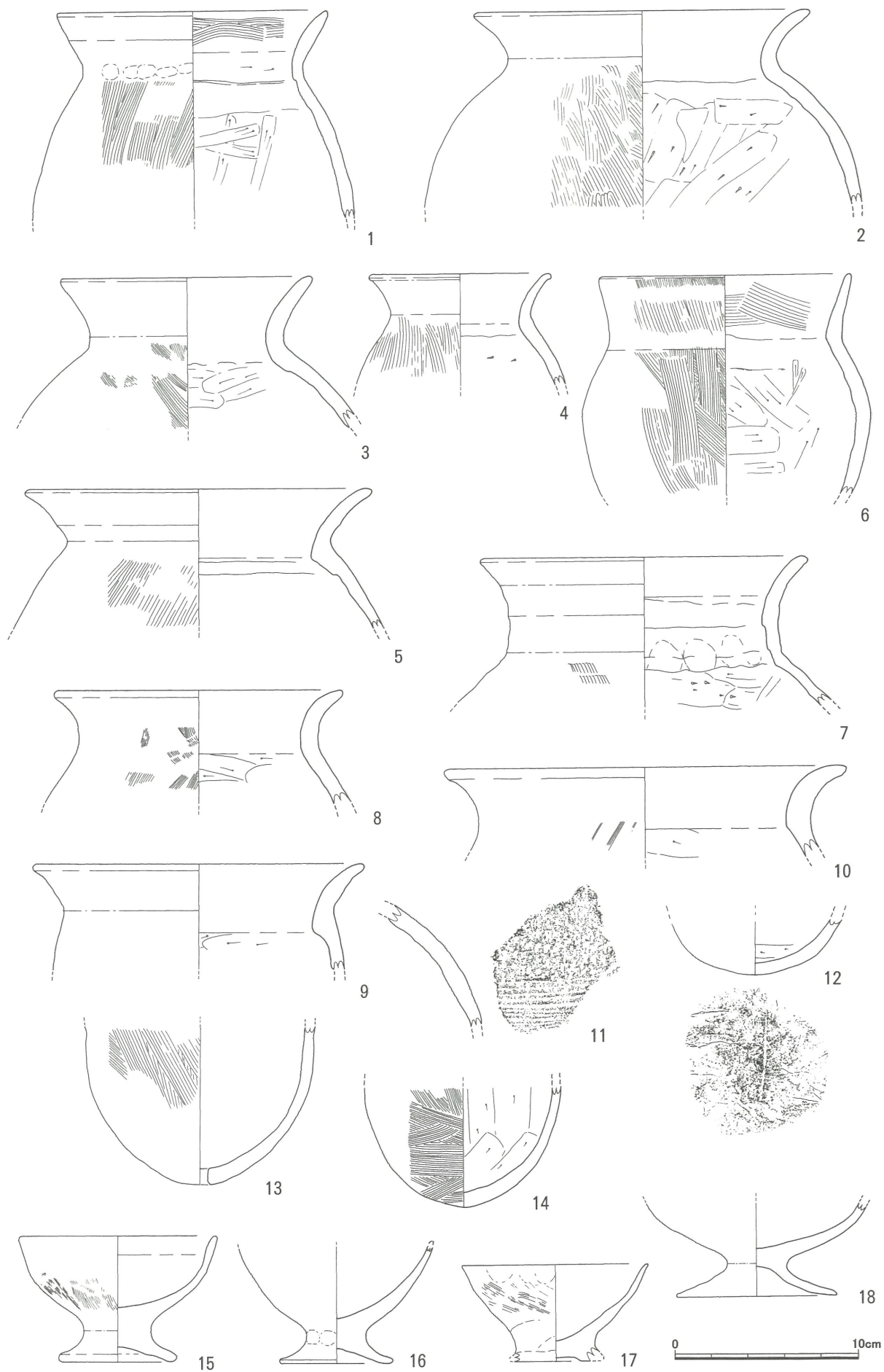


第70図 2 D区 4層出土遺物実測図7 (S=1/3) (土師器甕)

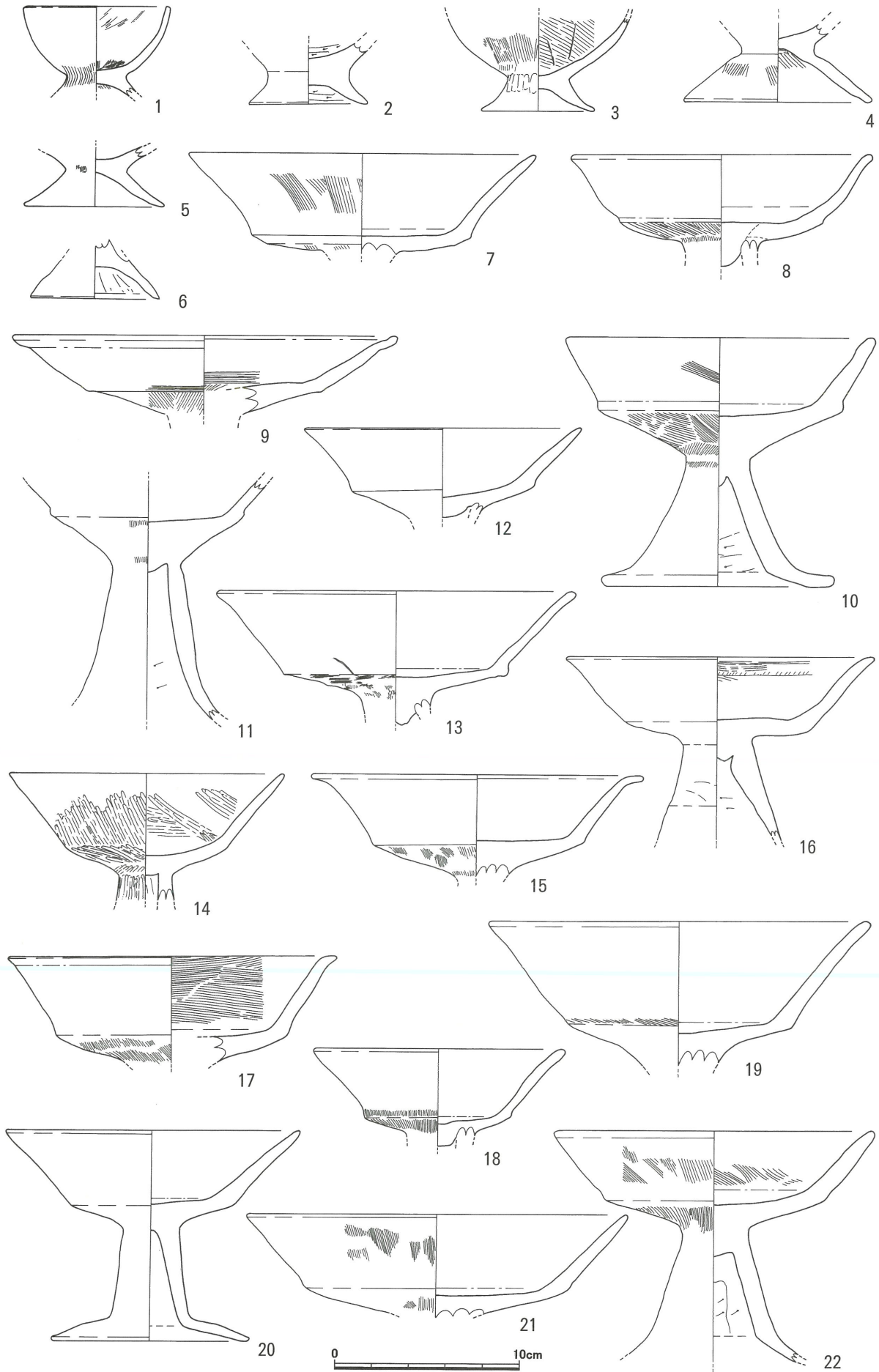


第71图 2 D区 4層出土遺物実測图 8 (S=1/3) (土師器甕)

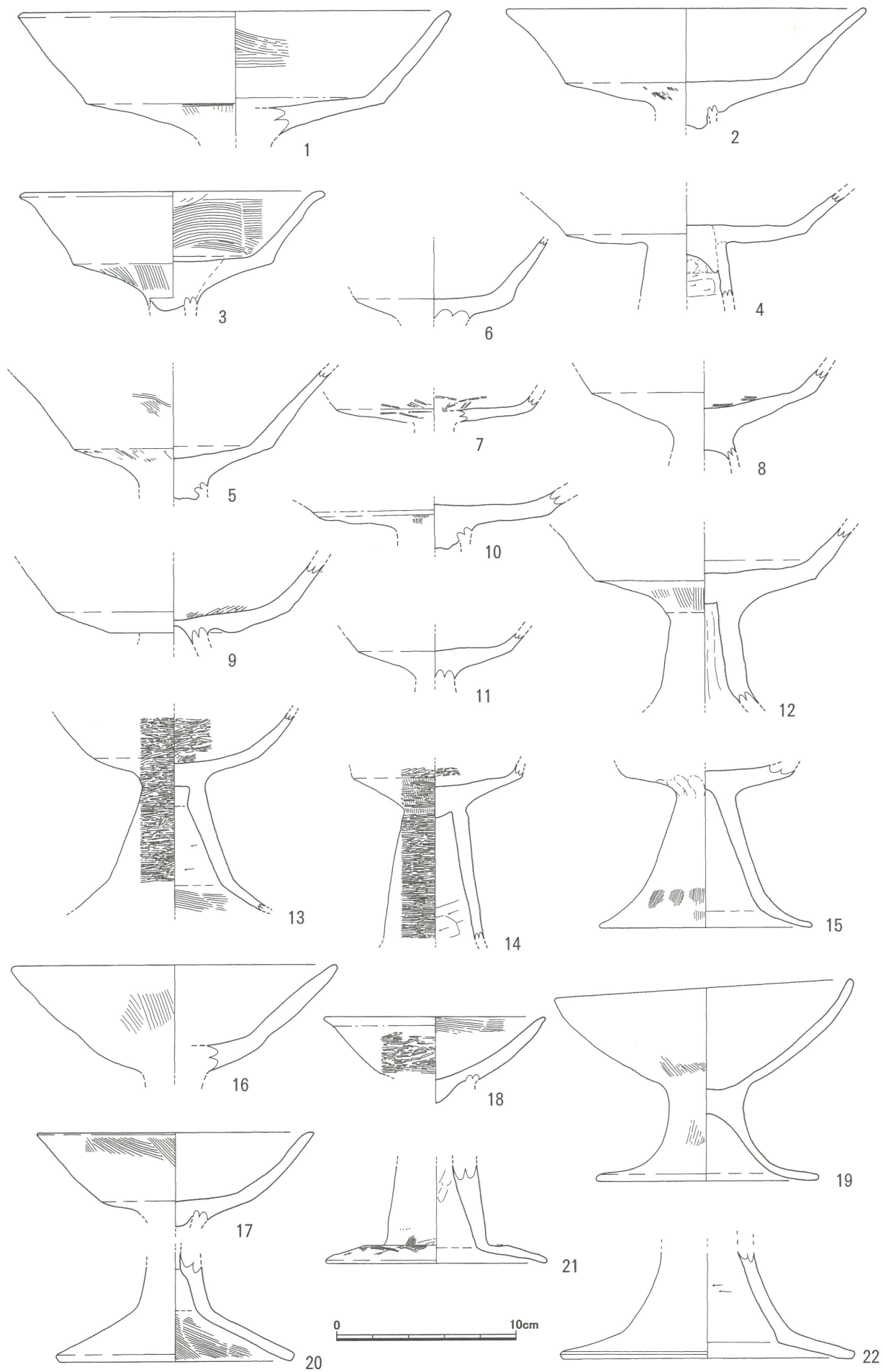




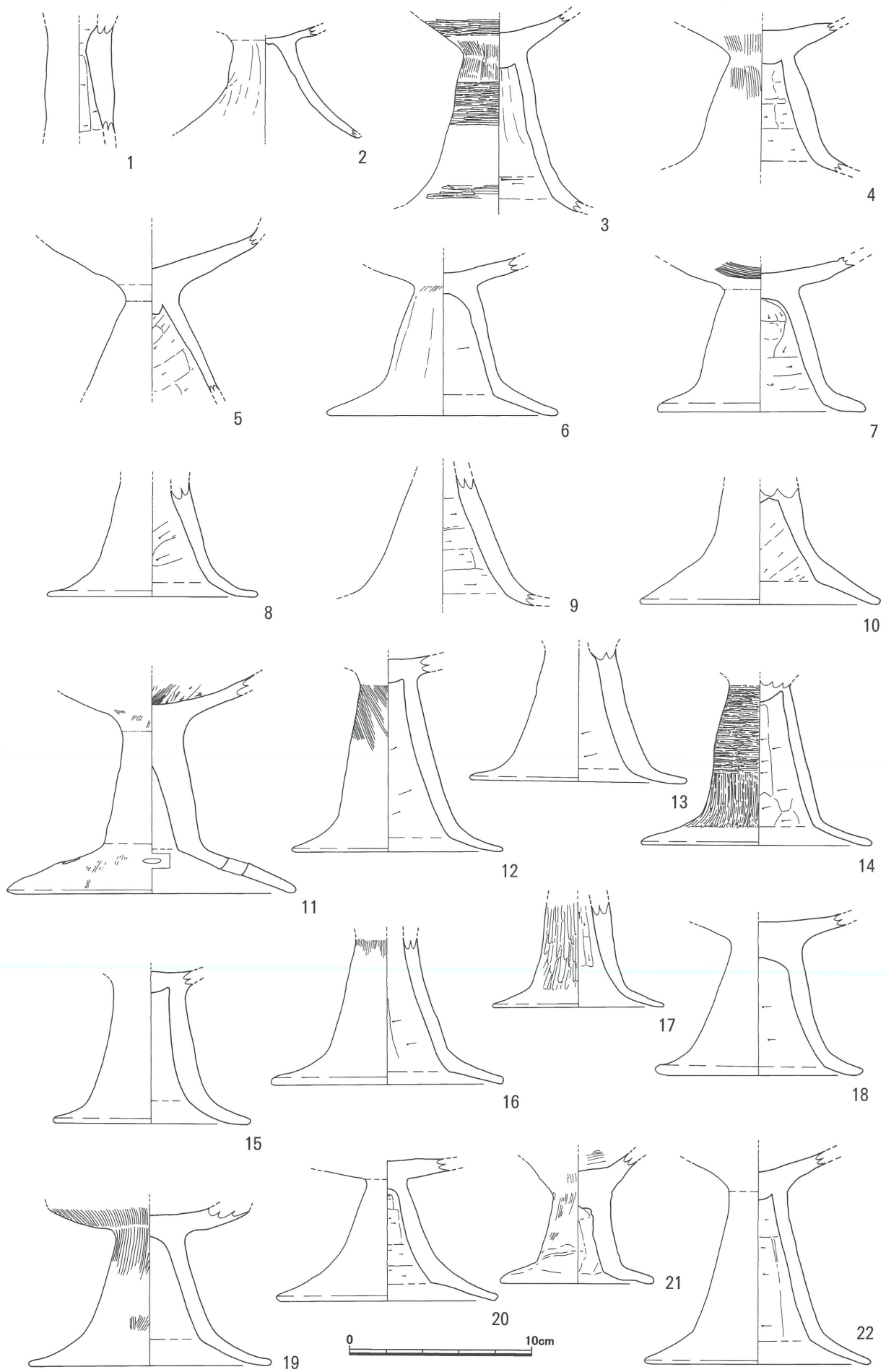
第72图 2 D区4層出土遺物実測図9 (S=1/3) (土師器甕、壺、低脚坏)



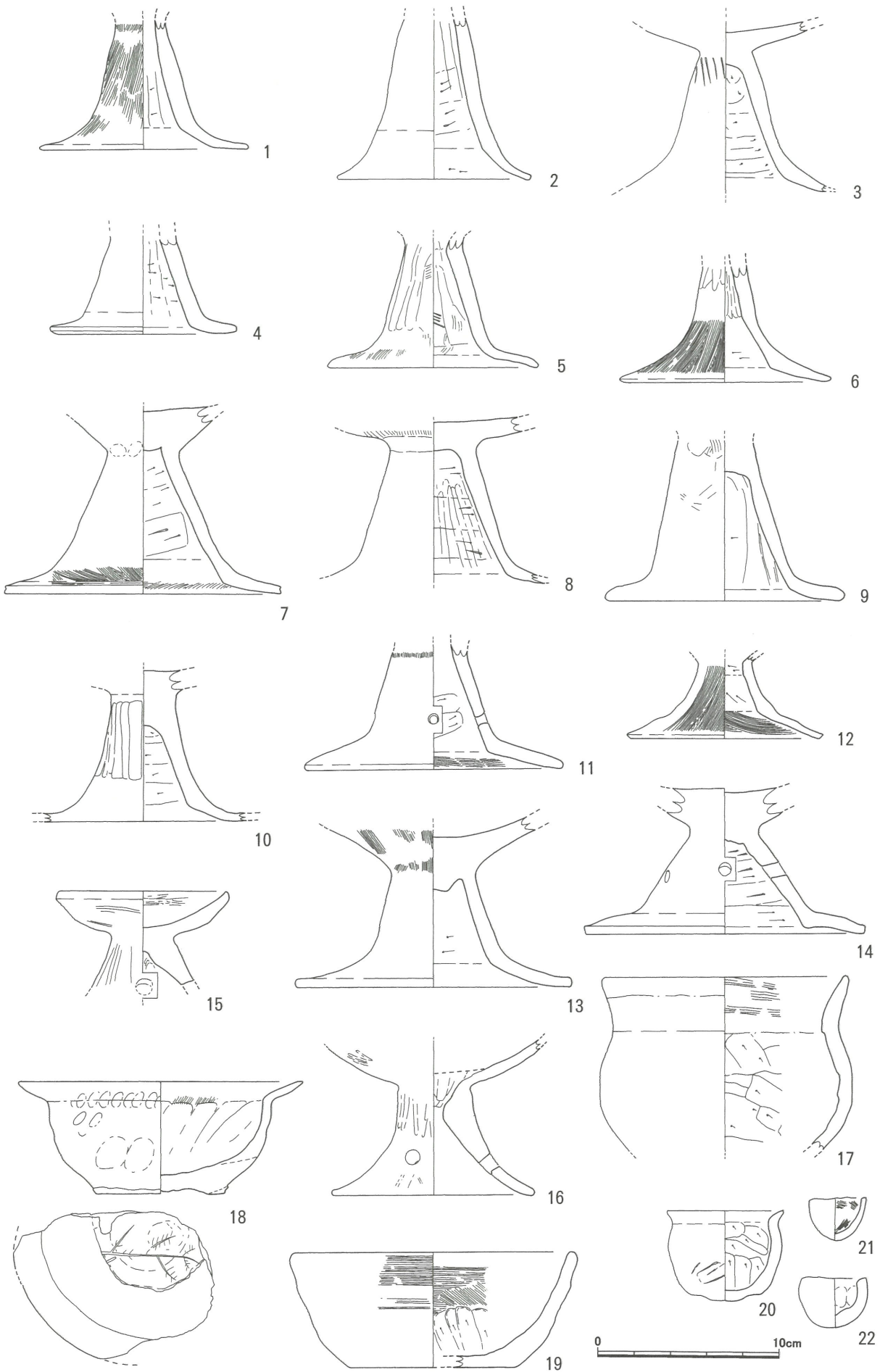
第73図 2 D区 4層出土遺物実測図10 (S=1/3) (土師器甕、低脚杯、高杯)



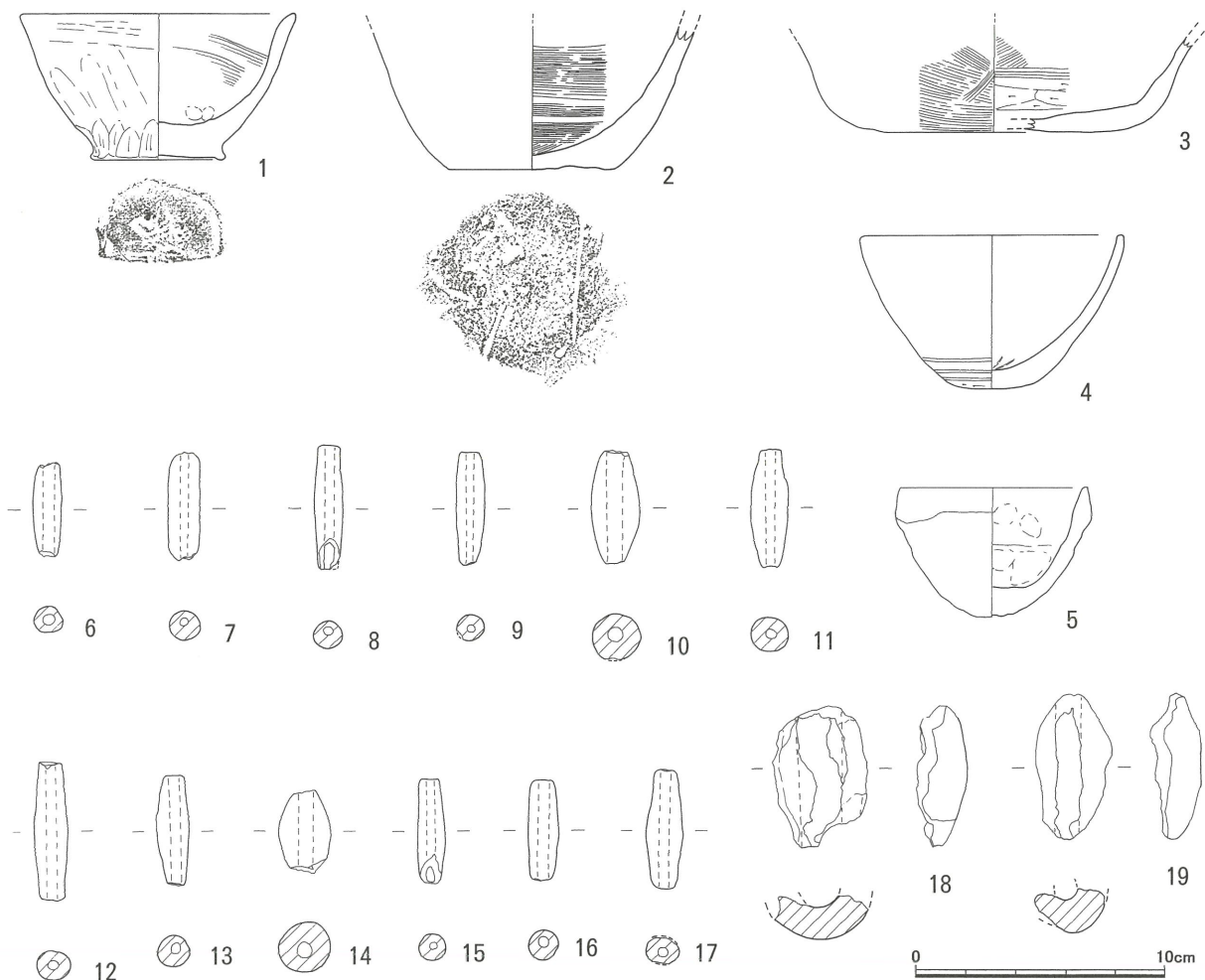
第74图 2 D区4層出土遺物実測图11 (S=1/3) (土師器高坏)



第75图 2 D区4層出土遺物実測図12 (S=1/3) (土師器高坏)



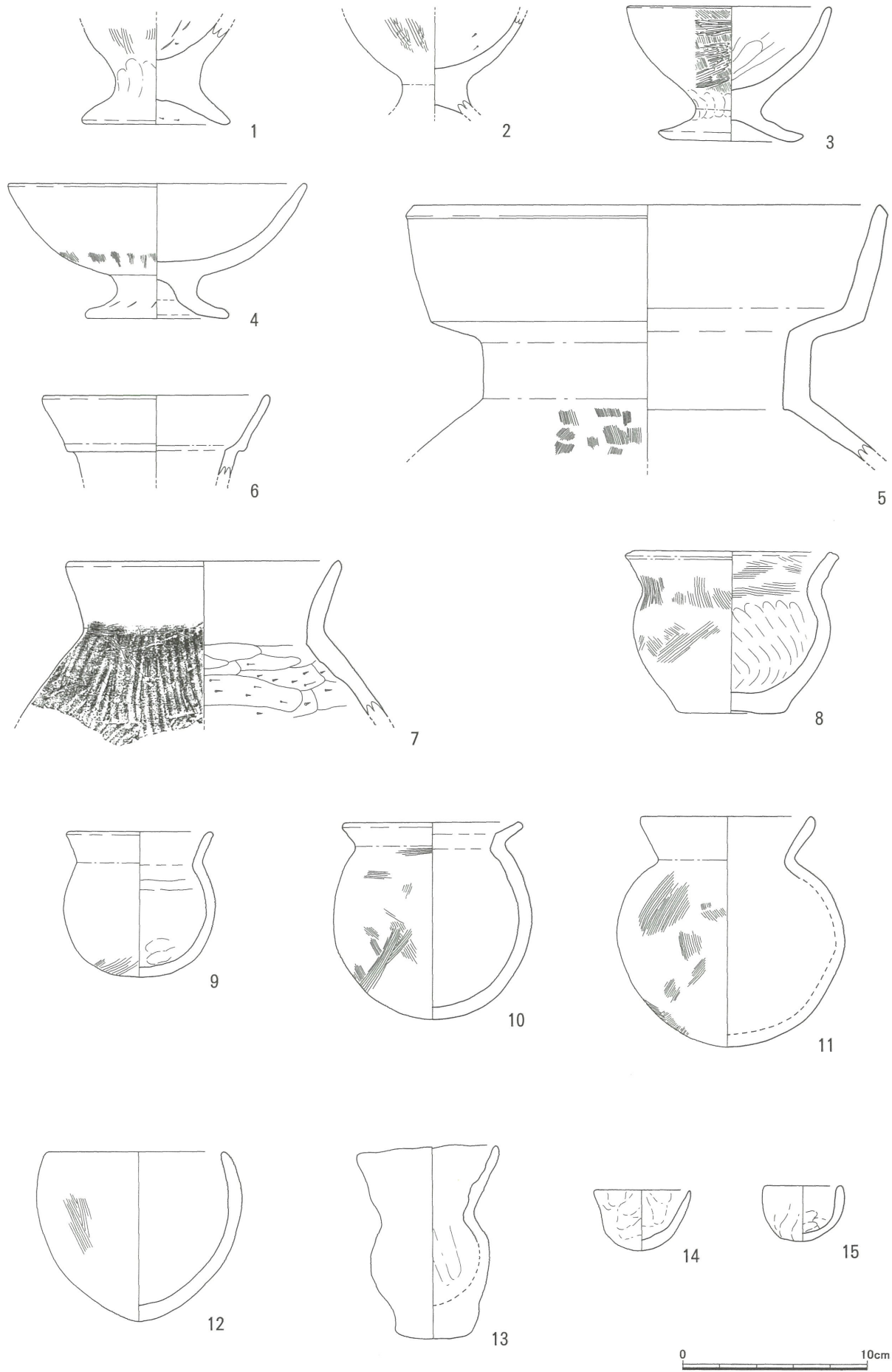
第76图 2 D区 4層出土遺物実測图13 (S=1/3) (土師器高坏、器台、壺、鉢、手捏土器)



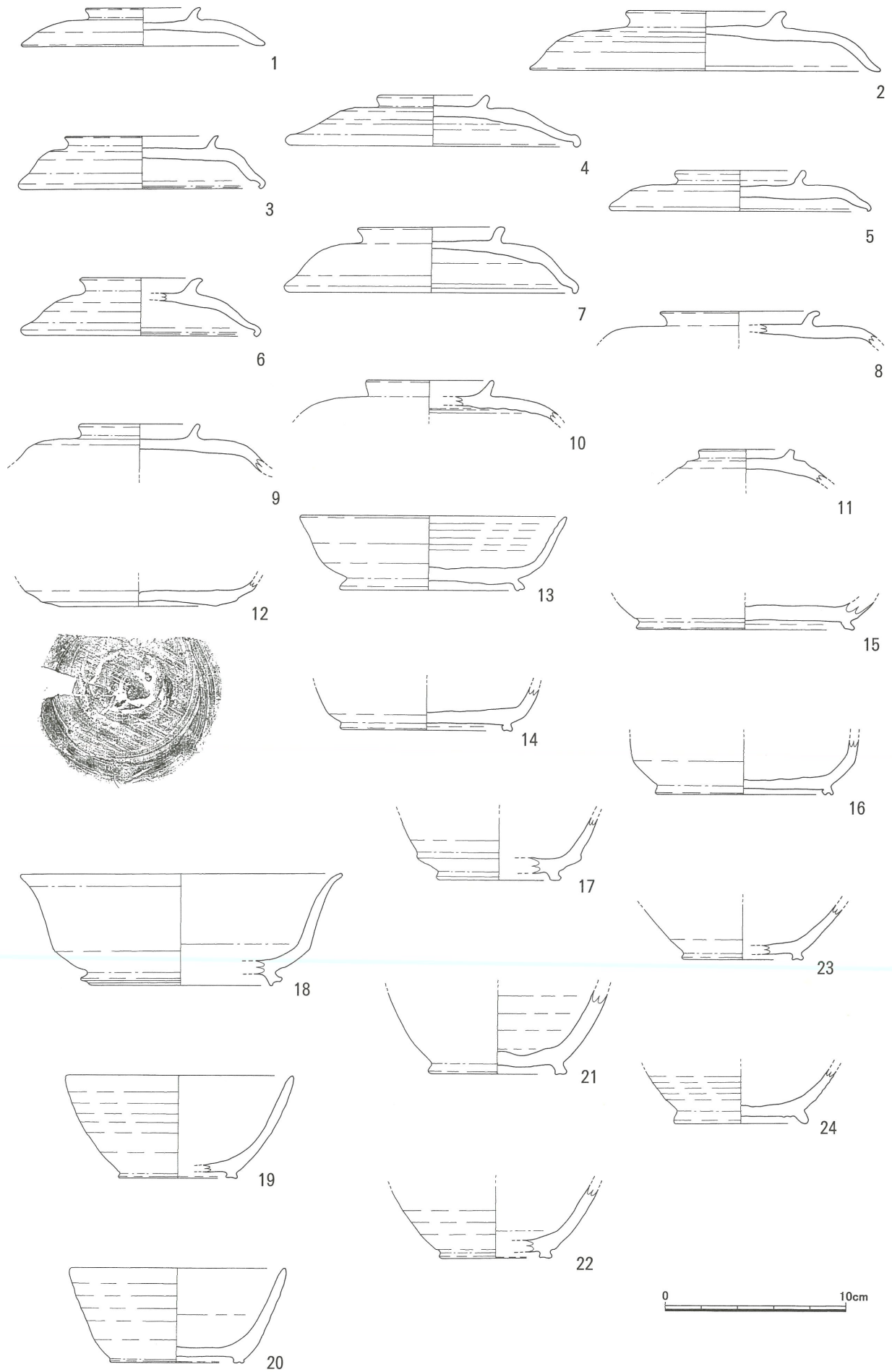
第77図 2D区4層出土遺物実測図14 (S=1/3) (土師器鉢、土錘)

**手捏土器** (第76図20~22・第77図5・第78図13~15 図版61・63) いずれも凹凸が著しく、指押圧による整形痕がよく残る。第76図20が甕形、第76図21・22、第77図5、第78図14・15は碗形、第78図13は壺形である。

**土錘** (第77図12~19 第81図 図版62・65) すべて管状土錘で、長さが3~4cmの小形品、長さ5cm前後の中形品、直径3cmを超える比較的大形の太形品がある。18の内外面には茶褐色の釉がかかる以外は、すべて土師質である。全体の器形は、円柱形(6~9、12、13、15、16)と中部位が膨らむ器形(10、11、13、14、17~19)がある。10、14、18、19は4層から出土したものであり、それ以外は2・3層から出土したものである。

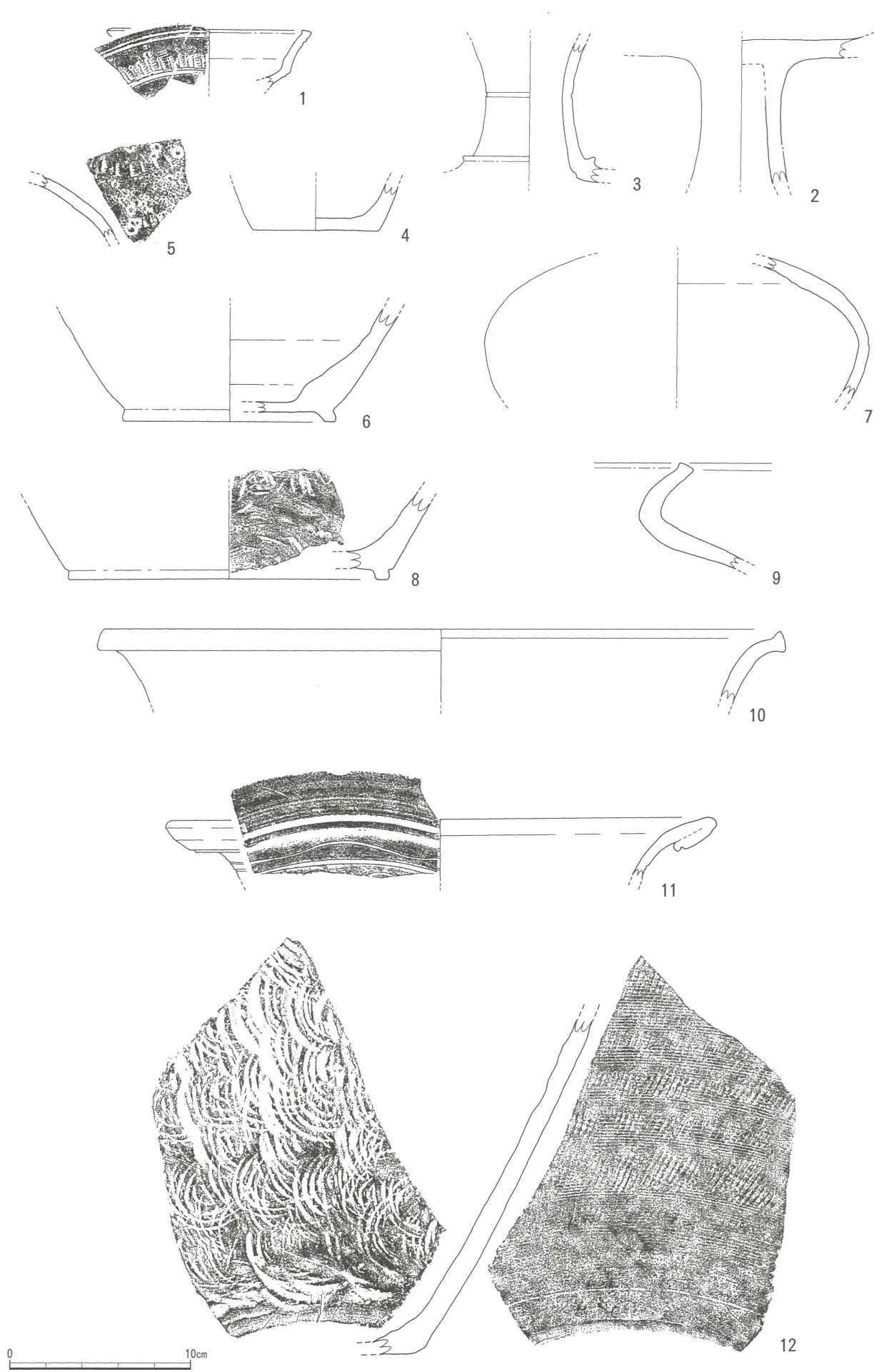


第78図 2 D区4層出土遺物実測図15 (S=1/3) (土師器低脚坏、壺、鉢、手捏土器)

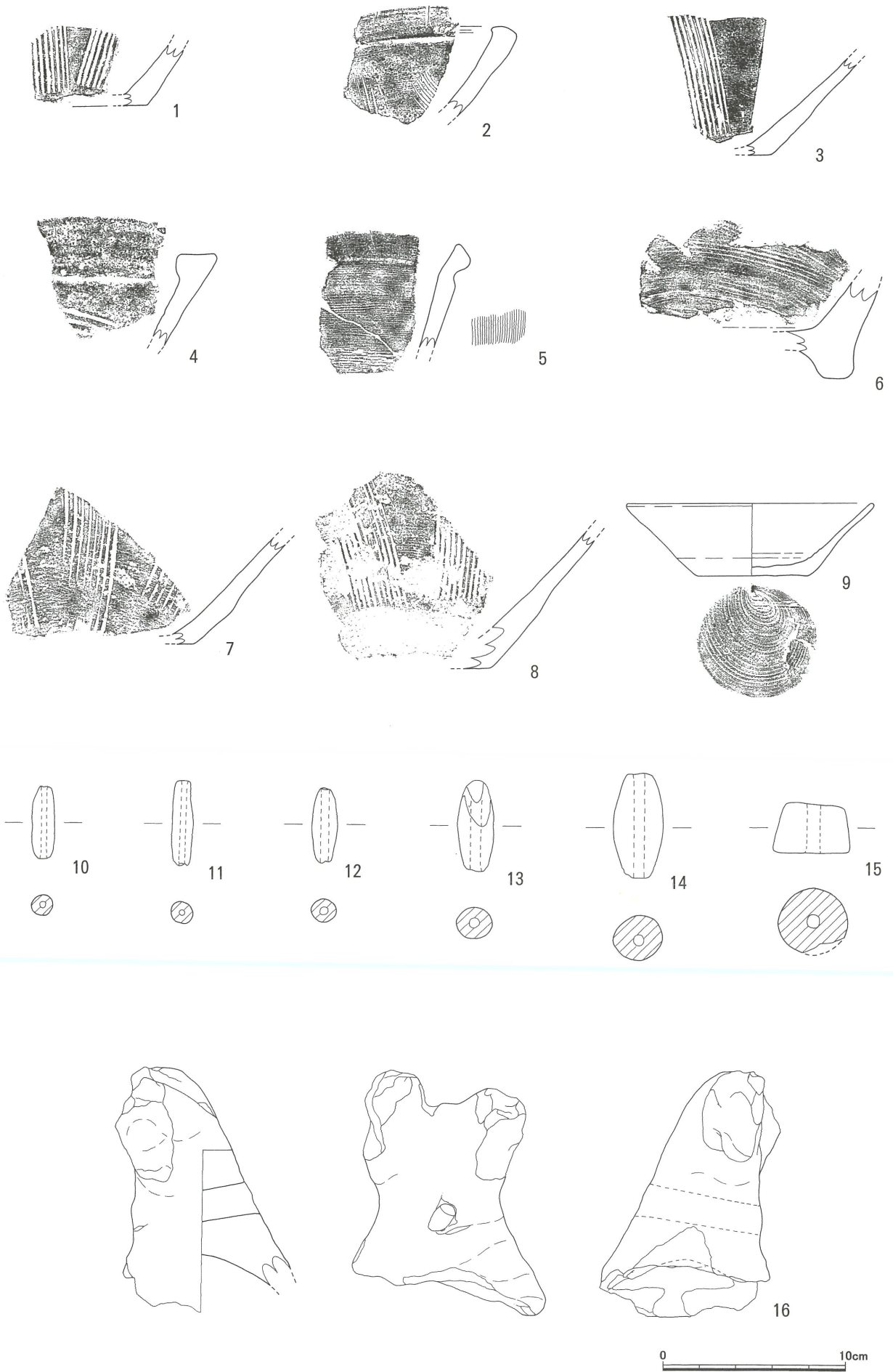


第79图 2 D区 4層出土遺物実測図16 (S=1/3) (須恵器蓋坏)





第80図 2 D区4層出土遺物実測図17 (S=1/3) (須恵器長頸壺、高坏、壺、甕)



第81図 2 D区 4層出土遺物実測図18 (S=1/3) (陶器撞鉢、土師器供膳具、土錘、土製支脚)

## 須恵器 (第79～80図 図版64)

古墳時代の須恵器

第79図12・第80図1・5・10・11は古墳時代の須恵器である。

### 蓋坏

第79図12は坏の底部である。ヘラ切り痕を刷毛目状工具で擦過し、さらに周辺に回転ヘラ削り調整が施されている。古墳時代後期のものと考えられる。

### 甕

第80図1は甕の口縁部である。「く」の字形に屈曲し、口縁端部は平坦面をなす。屈曲部に楯状工具による刺突文と、口縁直下に沈線文2条、屈曲部下に沈線文1条が施文されている。古墳後期でも古い時期のものである可能性がある。

### 壺・甕

第80図5は壺の肩部と思われる。上下に楯状工具による刺突文と沈線文が施され、その間に斜格子文が施文されている。

第80図10・11は壺または甕の口縁部である。10は口縁端部が面をなし、わずかに上方に繰り上がる。11は口縁部に粘土帯を貼り付けて肥厚帯を作る。肥厚帯下部に凹線文が1条入るため、下端は鈍い突線状を呈している。頸部にはヘラ状工具による、波長の長い波状文と直線文が交互に描かれているようである。11は古墳時代のものと考えられるが、10は奈良時代以降のものである可能性もある。

## 8～9世紀前半の須恵器

第79図1～11・13～24、第80図2～4、6～9、12は8～9世紀前半の須恵器である。

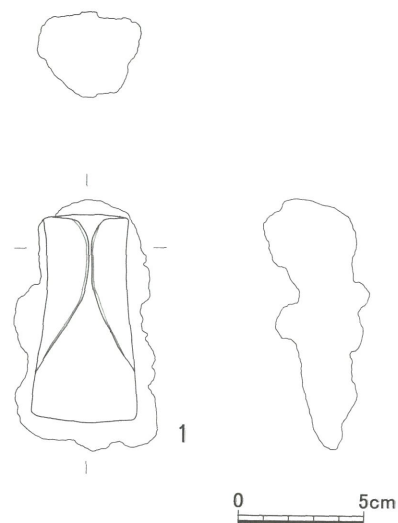
### 蓋坏

第79図1～11は坏蓋である。いずれも天井部に径の大きな輪状つまみを持つ。1、2はつまみが大きく外傾し、口縁端部は屈曲せずにやや外開きになる。8も同様の器形であろう。これらは、皿の可能性もある。同図3～7、9～11は口縁端部が屈曲する蓋である。輪状つまみはやはり径が大きめだが、4と11はつまみ径がやや小さい。3、6、7以外は、つまみ端部が再調整されているように観察できる。いずれも天井部が丁寧に調整され、切り離し痕跡は確認できない。

第79図13～20は坏である。いずれも底部に高台をつけ、高台は接地面が広く凹線状にくぼんでいる。底面は非常に丁寧に調整が施されている。切り離しはヘラ切りと思われるが、ていねいに調整されているため痕跡は確認できない。

13は腰がやや強く張り、口縁部が大きく外傾する器形で、14、15も同様の器形と考えられる。16～18は体部下部に鋭い稜が付き、口縁部が大きく外反する坏である。

19～20は、底部と体部の境界に高台をつけるもので、体部に腰がない。口縁部は内湾して急角度でたちあがる。18などに比べると、口径と高台径の差が小さいのが特徴である。



第82図 2 D区4層出土遺物実測図19  
(S=1/3) (鉄斧)

## 高坏

第80図2は高坏である。坏部は大部分欠損するが、大きく開く器形のものである。脚部に透かしはない。

## 長頸壺、短頸壺、壺

第80図3は、長頸壺である。頸部下端には突帯をめぐらし、頸部中央には沈線文が1条引かれている。頸部と肩部の接合は2段接合で、接合痕は段状となっている。頸部内面には2段の粘土帯接合痕が見られる。

第80図9は、短頸壺である。口縁端部は平坦面をなす。5は壺肩部で、上から櫛状工具による刺突文、直線文、斜格子文、櫛状工具による刺突文、の順で施文されている。同図7は中形の壺胴部、6、8は同じく中形壺の底部で、ともに高台を持つ。6の内面底部には自然釉が風化していることから、比較的広い口縁部かもしれない。8の胴部内面には同心円状の当て具痕が見られる。胴部外面は、ともに削り調整が施されている。4は小形壺の底部である。外面は胴部・底部とも丁寧な削り調整が施される。内面は平滑でロクロ目は見られない。

第80図12は大形の壺底部と考えられる。胴部外面には平行叩きとカキ目が、内面には同心円状の当て具痕がつけられている。底部には内外面ともに胴部に見られるような痕跡は付けられていない。

**瓦質土器**（第81図1～8 図版65） 1～4・7・8は挿鉢で、4以外は8条前後を一単位とした挿目が間隔を空けて上下に施されている。4は口縁部が内側に肥厚する挿鉢で、挿目は斜行して付けられている。5は鍋で、口縁下部を強くナデて口縁部を強調している。そのため、口縁部は玉縁状に肥厚している。外面には縦位の、内面には横位のハケ目が施されている。6は火鉢で、底部に脚が付く。内面には横位に粗いハケ目が施され、外面には煤が付着している。

**土師器供膳具**（第81図9 図版65） 高台の付かない坏である。口縁部が大きく外傾する器形で、底部は回転糸切りのまま調整されない。内面のロクロ目は目立たない。

**土製支脚・紡錘車**（第81図 図版65） 上部には二又の支脚が付き、胴部中央には一方向からの円孔が穿たれ、貫通している。底面は凹面をなす。岩橋孝典氏の山陰地域土製支脚分類案のI B類に分類されるもので、6世紀末から8世紀前半にかけて山陰地域で使用されたものとされている<sup>(1)</sup>。当遺跡でもこの例に入るものと考えられる。なお、山陰地域における当該期の遺跡で土製支脚の出土する遺跡はこの浜寄・地方遺跡が西限と考えられる。

15は土師質の紡錘車である。

## 鉄斧（第82図 図版62）

第82図は袋状鉄斧である。袋部から刃部に至る間に肩部の張り出しを持たないタイプである。

## 註

(1) 岩橋孝典「山陰地域古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』No.11 島根県古代文化センター2003年

## 4. 5層の調査

### 調査概要

5層は肌理の細かな砂質土からなる、古砂丘に由来すると考えられる層である。ほとんど礫を含まず、またやや土壌化の進んだ状況を示している。基本的には水平堆積で、調査区内では起伏はほとんど認められなかった。

5層の調査では東西方向の河道跡を確認したが、ほかに顕著な遺構は確認できなかった。遺物は多量の土師器が出土した。

### 検出した遺構とそれに伴う遺物

#### 竪穴式建物跡

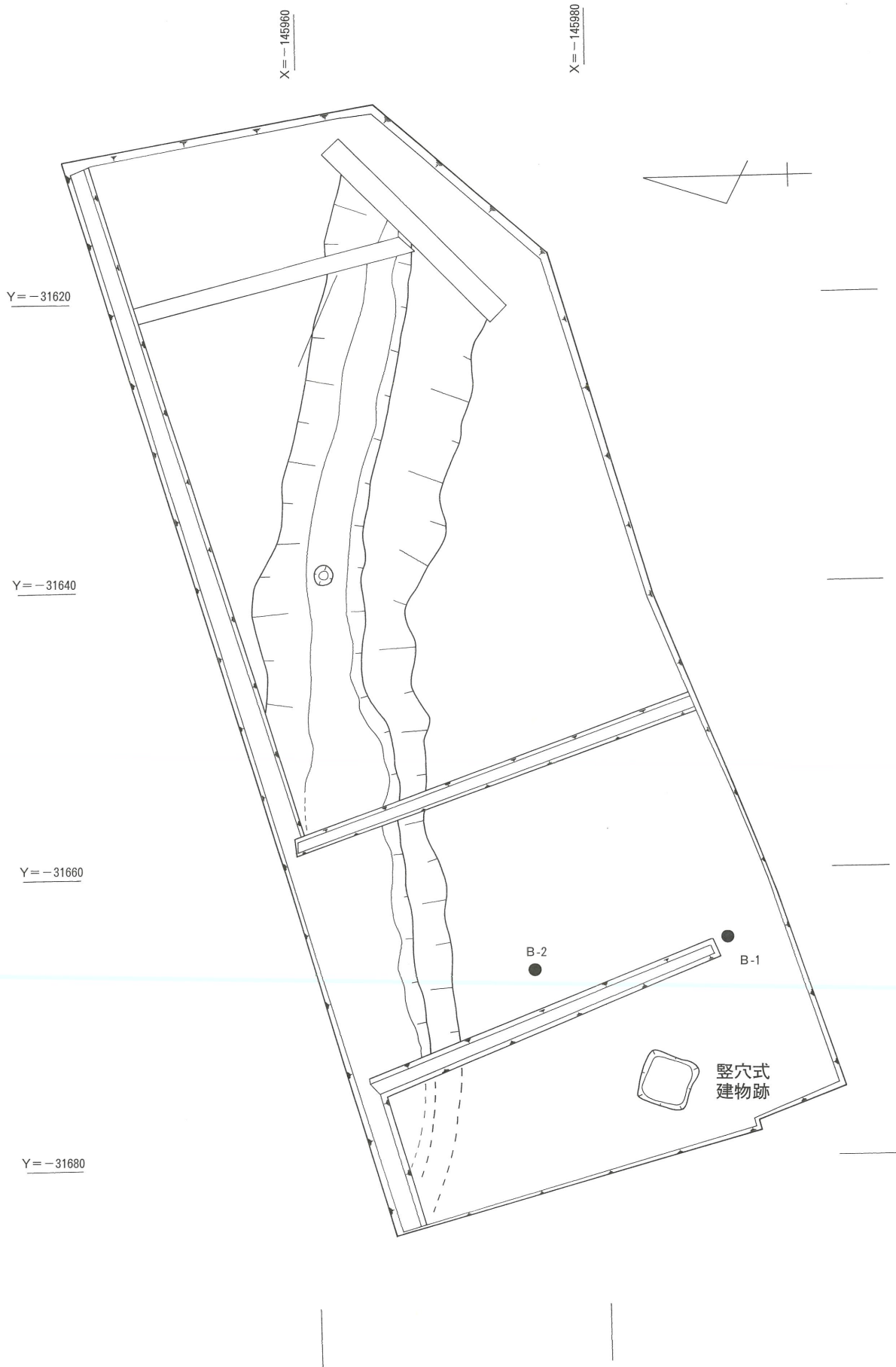
竪穴式建物跡の平面形は隅丸正方形で一辺3.5m、竪穴の深さは30cmを測る。この建物跡の竪穴は、洪水によって高津川から逆流してきたとみられる拳大の垂円礫層を掘り込んでつくられている。また、床面の標高は1.4mと低位置にある。

床面の中央から平面楕円形のピットが1個検出された。中には拳大の円礫や灰、炭を多く含む砂質土が詰まっていた。ピットの形状や深さを見ると柱穴とは考えにくい。しかし、このピットは円礫を充足物でなく竪穴を掘り込んだ基盤、底床と見ればピット自体は小さなくぼみと見える。多少のくぼみであれば、覆い屋を支える程度の支柱には十分であったのかもしれない。また、東壁中央付近の壁体溝際では別のピットが検出された。この壁際のピットは中央のピットよりも不整形な楕円を呈しており、中には、中央のピットと同じように灰、炭を多く含む砂質土が詰まっていた。この壁際のピットについては、その周囲から比較的平坦な面を持つ人頭大の石が出土していることから、竈的な使用が類推されるのではないかと思われる。平面的に小規模な建物跡のためか、検出した床面からも壁体の外側からもその周囲からも柱穴等の痕跡は検出されていない。しかし、床面中央のピットの例もあるように、周囲に散在する石は容易に柱を固定する装置を作る部材となりえるはずで、あえて柱穴を掘る必要には迫られなかった可能性もあったと思われる。

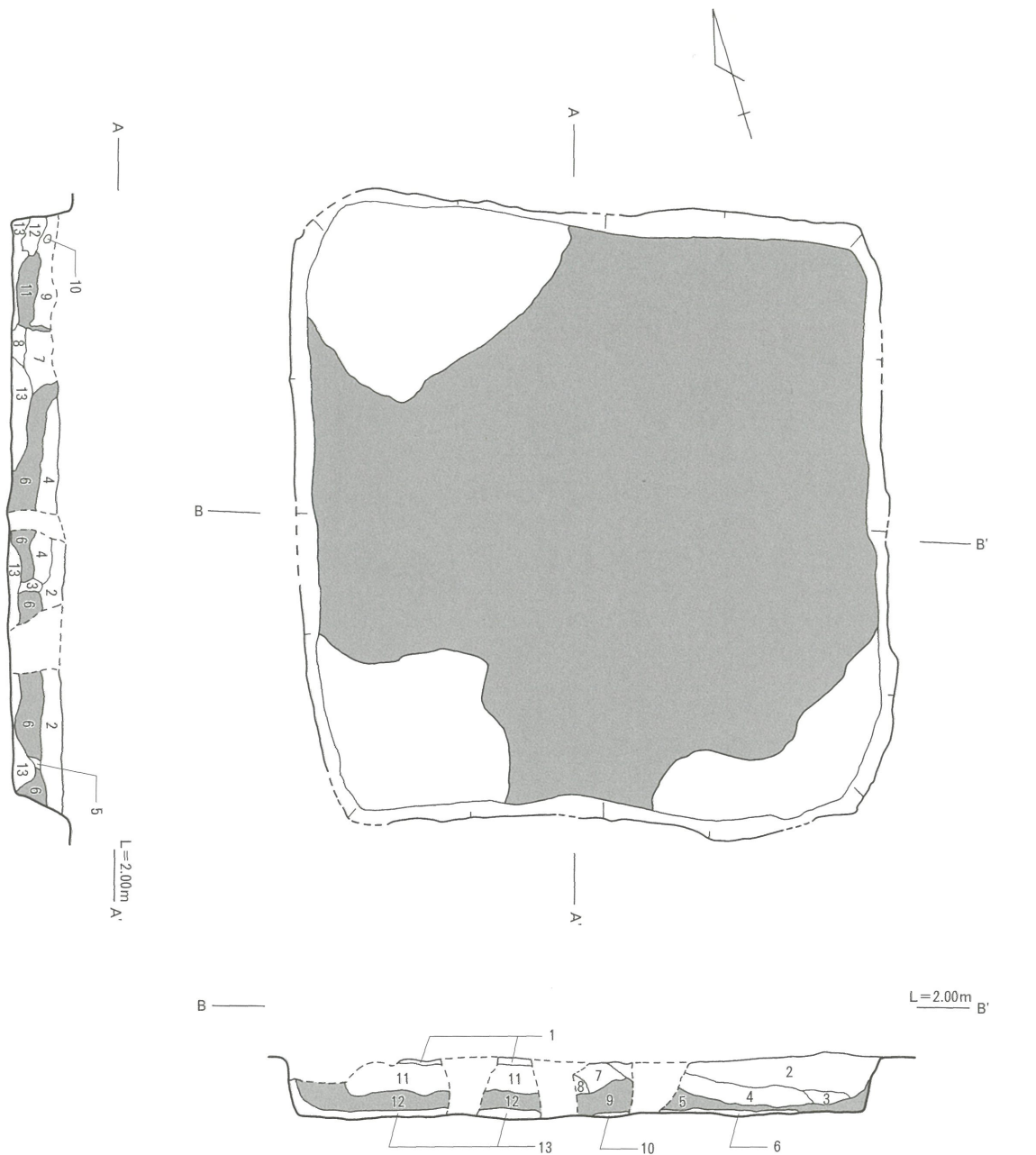
なお、第84図で示すとおり、この竪穴には多量の炭化物や灰が染みこんだ土砂、焼土が堆積しており、建物が廃絶した後にその場所で何度も火を焚いたことがわかる。

竪穴式建物跡から出土した土師器を第86図に挙げた。また、遺物出土状況は第87図に示したとおりであった。第86図1、3は高坏である。2は低脚坏、4は鉢、5は壺の胴部から底部にかけての下半、6は小形丸底鉢、7は壺、8は器台、9は甕である。

1、2の土師器高坏及び低脚坏は受部のみで脚部を欠いている。3は受部から脚柱部まで残っているが脚台部を欠いている。1の受部は皿状を呈し、断面は外面に稜を持たない滑らかな形状である。接合部に半球状に垂下している痕跡が残ることから後述する2よりも口径が小さいが高坏と考えられる。2は1と同様の形状であるが、若干深く、口縁がわずかに内湾する傾向にある。接合部の痕跡が平滑であることから1の高坏よりも口径が大きい低脚坏とも考えられる。3の受部は接合部近くでたるみを見せてわずかにカーブを描き口縁は外反している。脚柱部は受部との接合部からほとんど広がりを見せずに脚台部へとつながっているようである。これらの高坏及び低脚坏は古墳時代前期の様相を呈するものと思われる。4の鉢は大ぶりで成形が粗雑である。胎土も粗い砂粒を多く含んでいる。色調も非常に黒味がかっており、火を受けた可能性もあるのではないだろうか。



第83図 2D区5層遺構配置図 (S = 1/300)



A-A'土層堆積

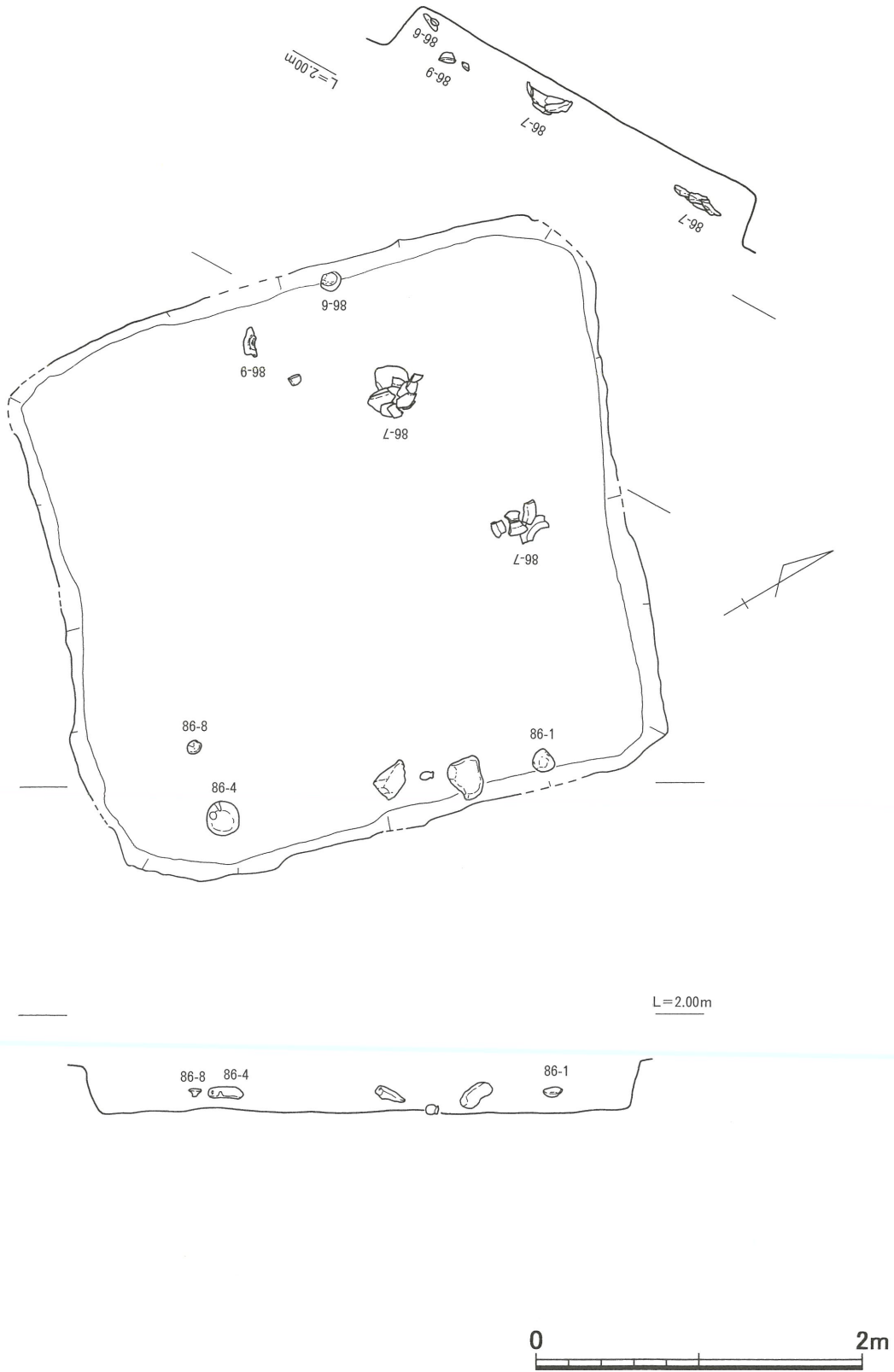
1. 黄褐色土層 (石含む)
2. 灰色砂質土層 (炭少し含む)
3. 黄色砂層
4. 暗灰色砂質土層 (炭、灰多く含む)
5. 灰色砂質土層
6. 黒色砂質土層 (炭、灰ともに多量に含む)
7. 暗茶色砂質土層
8. 黒色砂質土層 (炭多く含む)
9. 暗黄褐色砂質土、暗茶色砂質土混交層
10. 暗灰色粘質土塊
11. 灰色砂質土層
12. 暗灰色砂質土層
13. 黄色砂層 (黒色砂少し含む)

B-B'土層堆積

1. 暗黄褐色土層
2. 暗灰色土層
3. 暗灰色砂質土層
4. 赤茶色土、灰色砂質土混交層
5. 黒灰色砂質土層
6. 黄色砂層 (灰色砂含む)
7. 暗灰色砂質土層
8. 灰黒色砂質土層
9. 黒色砂質土層 (炭、灰ともに多量に含む)
10. 黄色砂、黒色砂混交層
11. 暗灰色砂質土層
12. 黒色砂質土、灰色砂質土、黄色砂質土混交層
13. 黄色砂層

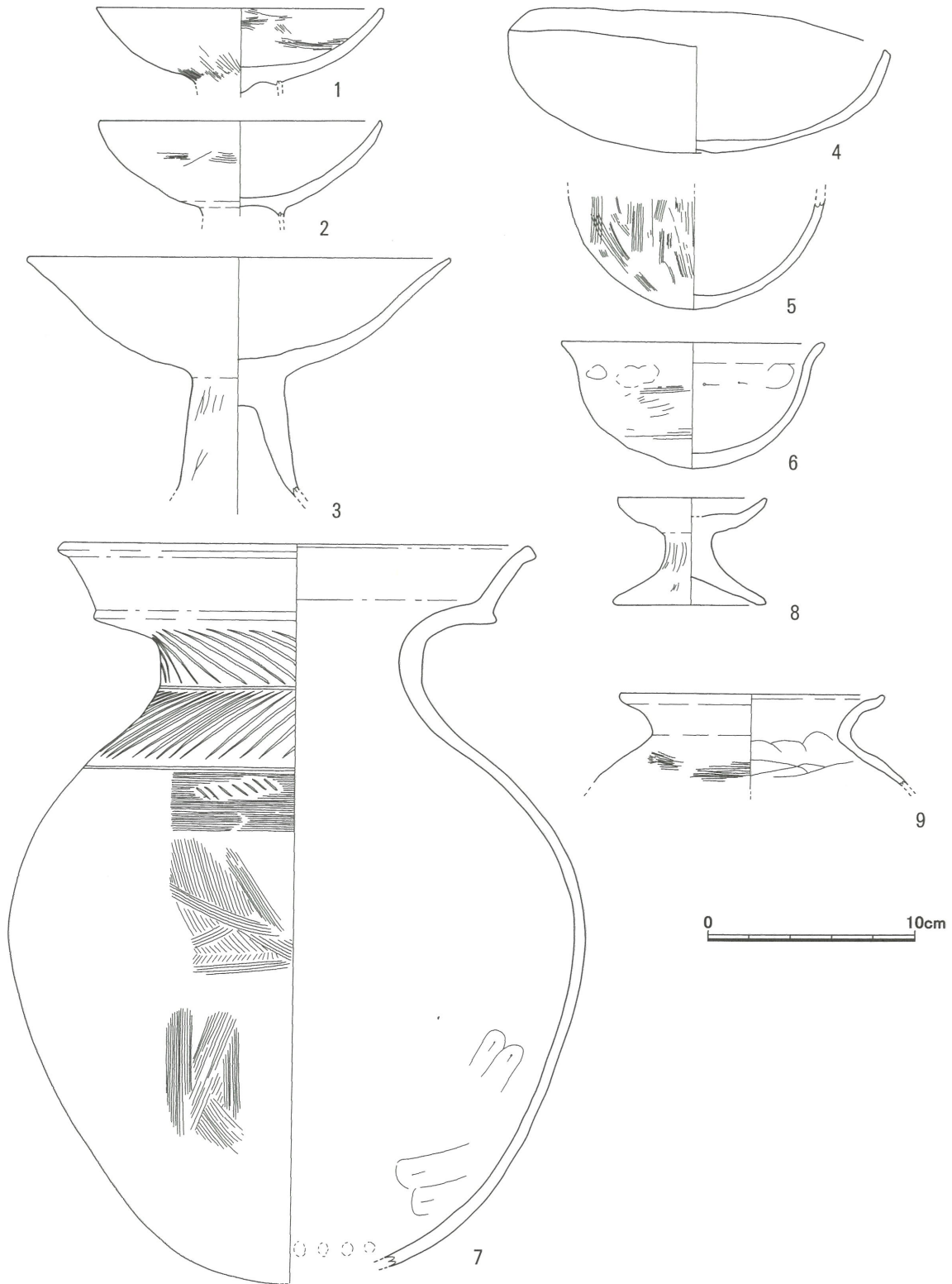
0 2m

第84図 2 D区5層竪穴式建物跡土層堆積状況実測図 (S=1/40)



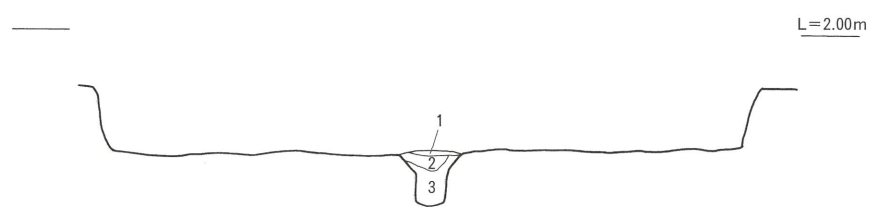
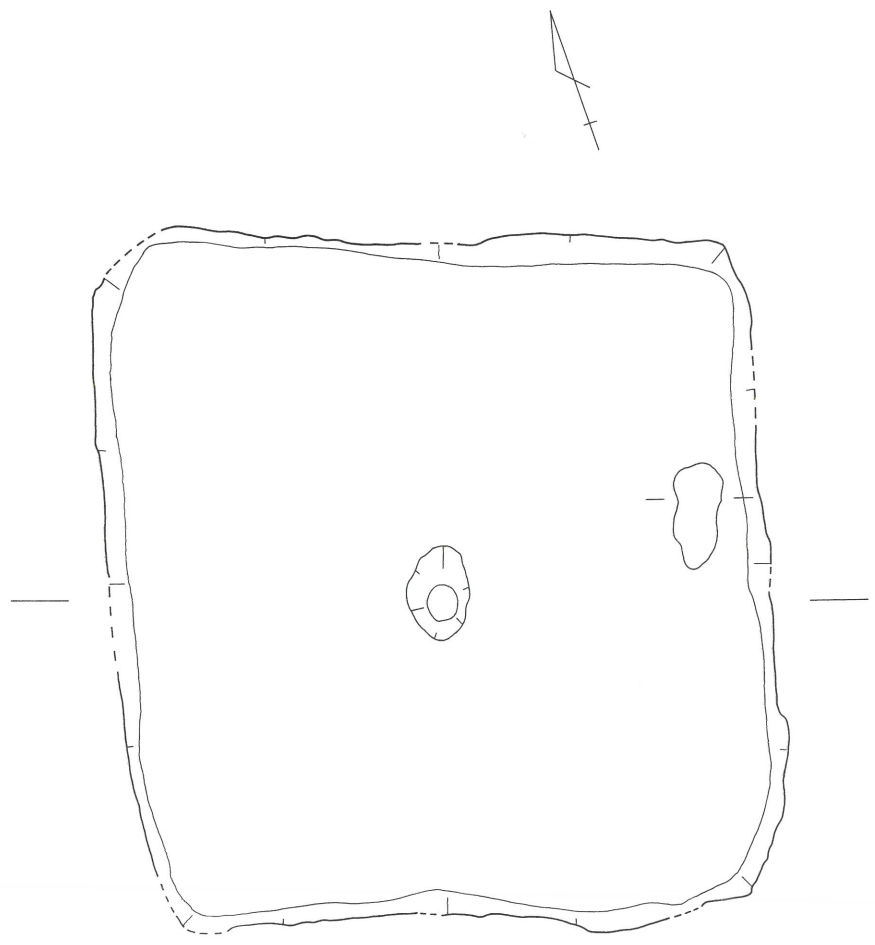
第85図 2 D区 5層竪穴式建物跡遺物出土状況実測図 (S = 1/40)





第86図 2 D区竪穴式建物跡出土遺物実測図 (S=1/3) (壺、甕、高坏、低脚坏、器台、鉢)

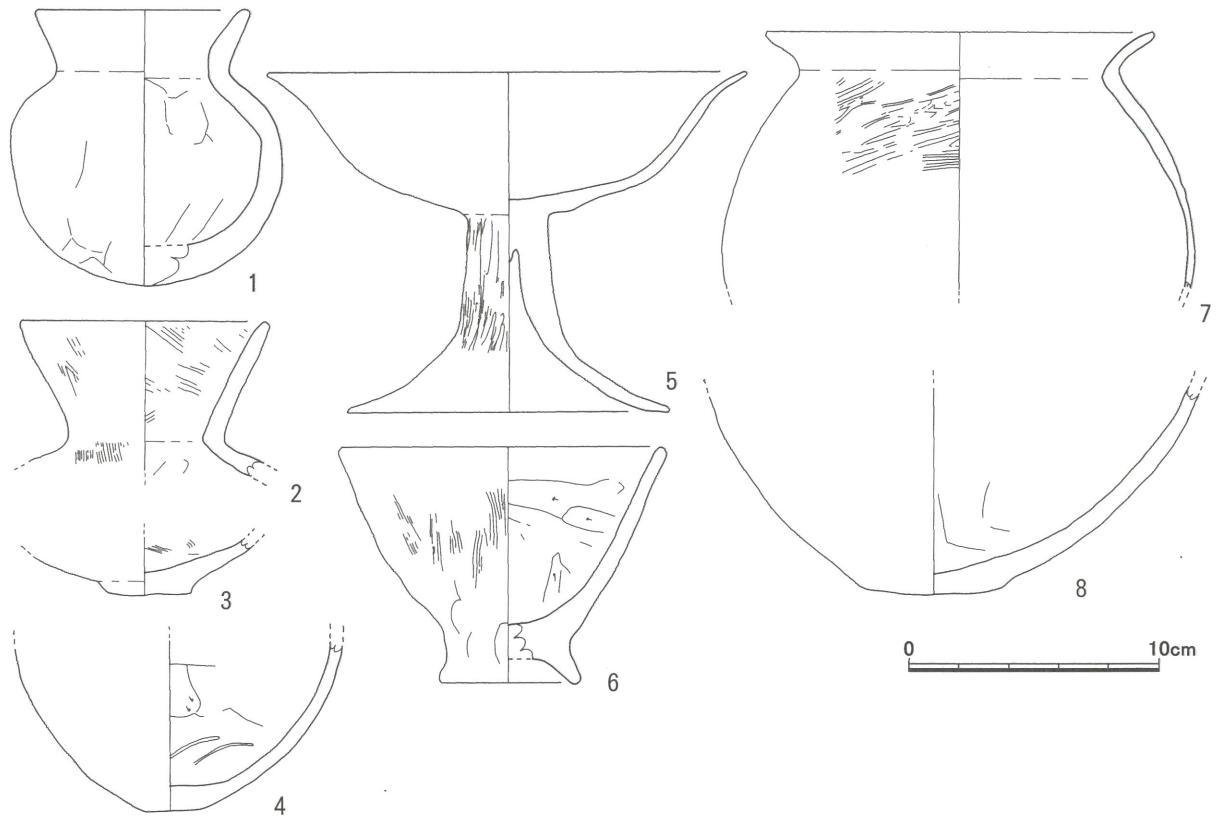
6の小形丸底鉢は丸底から丸みを帯びて立ち上がり、口縁は屈曲外反する。口縁の屈曲部の内外に指頭圧痕が見られる。4の鉢及び6の小形丸底鉢ともに古墳時代中期前半の様相を呈するものと思われる。8は非常に小形の器台であり、大きさとしては6の小形丸底鉢と釣り合いがとれているようにも見える。9は甕の肩部から口縁にかけての部分である。頸部から大きく開いて外反する口縁はその端部をつまみあげて仕上げている。7の複合口縁の壺は口径22.5cm、器高35.7cmを測り、こ



- 1. 黒色砂質土層 (炭、灰ともに多量に含む)
- 2. 灰色砂質土層
- 3. 灰色砂質土層 (垂円礫含む)



第87図 2 D区 5層竪穴式建物跡完掘状況実測図1 (S=1/40)

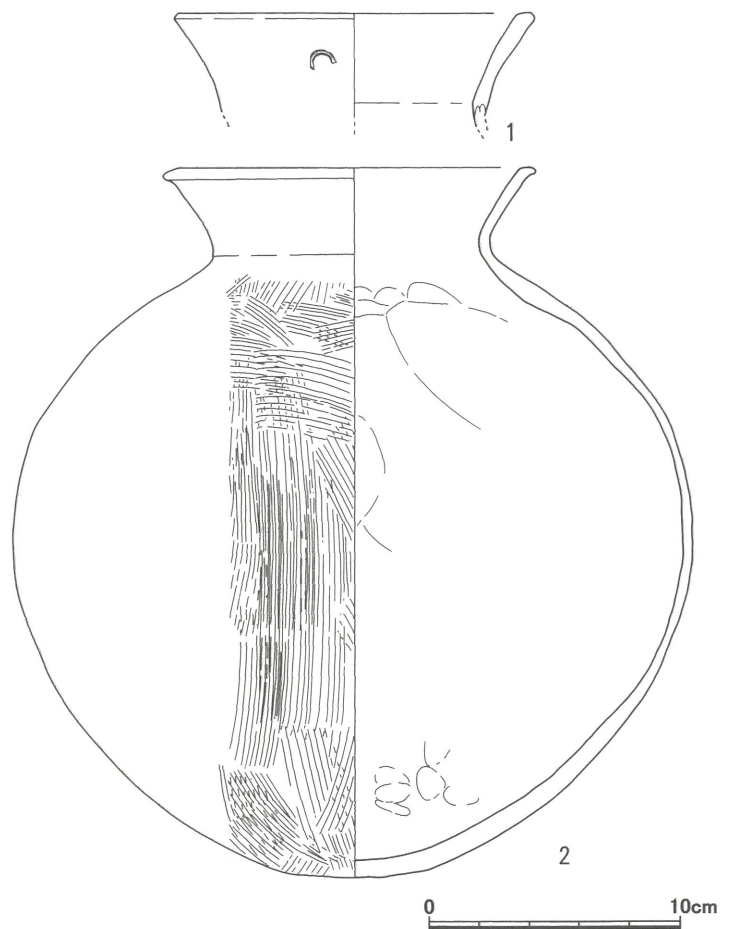


第88図 2D区土器溜りB-1出土遺物実測図 (S=1/3) (壺、甕、高坏、低脚坏、)

れら出土遺物の中では最も大きなものであった。複合口縁は大きく開き口縁上端には外傾する明瞭な面をつくる。口縁直下の頸部から肩部にかけては2段の有軸羽状文を刻む。肩部には全周しない右下がりの列点文を施している。見栄えであろうか。その胴部は最大径が肩部近くではなく胴部中位近くになる優美な曲線を描いて丸底の底部へ至る。有軸であること、上段の羽状文が短く下段の羽状文が長いことなどから出雲地方古墳時代前期後葉の小谷4式期に分類されるものと思われる。これらの堅穴建物出土遺物は古墳時代前期後葉から古墳時代中期前半までの土師器で構成されているようである。

建物跡の立地・性格

この建物跡は川跡から約10mしか距離を置いていない。強固な礫層を掘り込んでつくられており、床面の標高も1.4m以下と非常に低位置にあり、特徴的であ



第89図 2D区土器溜りB-2出土遺物実測図 (S=1/3) (壺)

る。現代のものに比べて強度が劣ると考えられる当時の土木工具を使用して、このような位置に、このような建物をつくらなければならなかった理由が何であったのか、非常に興味深い。また、周囲（調査区内）に同様の、あるいは関連性のある何かの構築物があった痕跡は認められない。通常の居住に使用されていたことは考えにくい。なお、この竪穴式建物跡は、益田市内における古墳時代前半期のものとしては初例と思われる。

#### 土器溜りB-1、B-2

第88図に示した位置で土師器の土器溜りが検出された（図版）。第88図（B-1）1、2は小形丸底壺、3、4は壺の底部、5は高坏、6は低脚坏、7は甕の上半部、8は壺の下半部と思われる。7の甕は外面にタタキ目があり、非常に古い様相を呈していると思われる。ほかの土器は古墳時代中期の様相を呈しているものと思われる。

第89図（B-2）1は壺の口縁部と思われる。外面に竹管文が施されている。2は接合するとほぼ完形になる壺である。色調は灰白色で胴部はほぼ斉一な球形に近い球状を呈する。一方、底部には痕跡的にわずかに平底の様相を残しているように見受けられる。当遺跡においてはこのタイプの壺は希少な例と思われる。

#### 河道跡

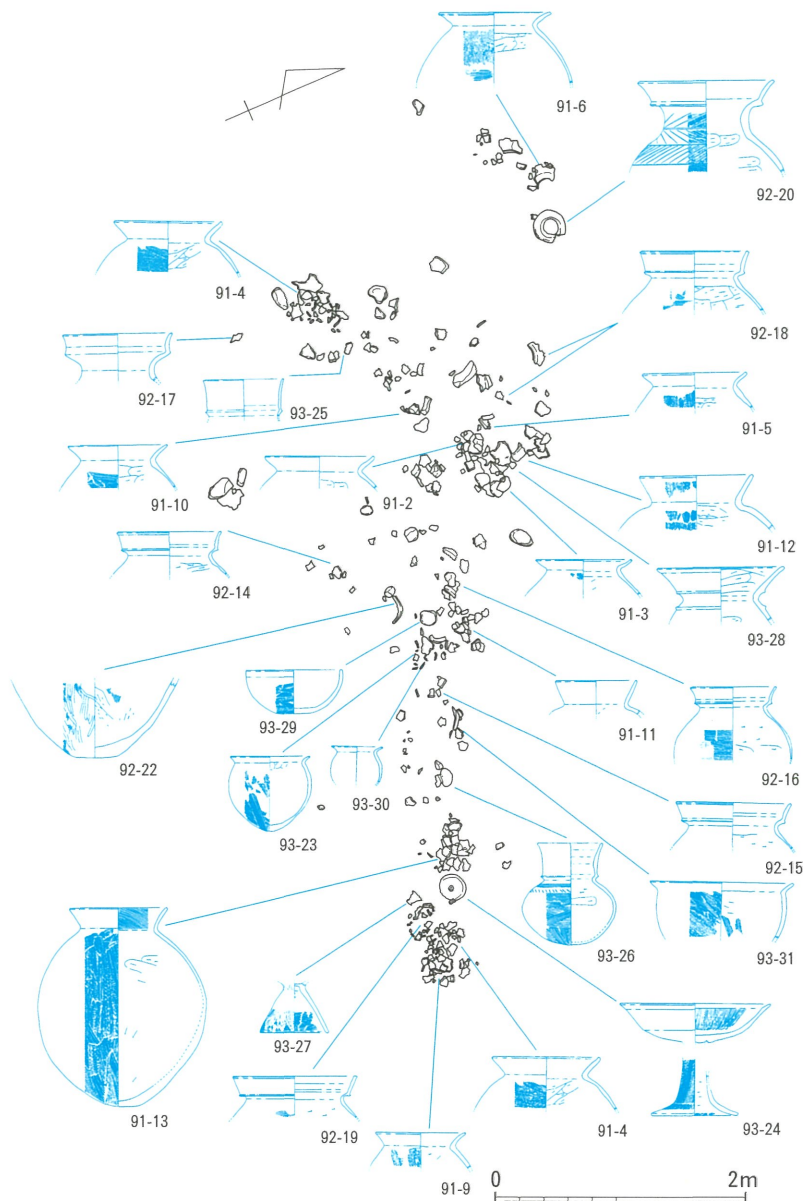
調査区をほぼ横切るように東西方向に伸びる河道跡を検出した。ただし河道跡の堆積土は周辺のものと同じであることなどから、後述する河道の地形を反映したもので、5層の段階では既にその機能は失っていたと判断される。規模は幅が上場で約8m、下場で約2～4mを測る。

遺物は河道跡の上端に沿うように、直線的な広がりを持って出土した。多くは破片での出土であるが、中にはほぼ完形のものもある。河道跡に直接的に伴うものとはいえないかもしれないが、第91図～第93図で一括して報告する。

第91図-1～13は土師器甕と考えられるもので、いずれも単純口縁である。胴部以下を失っている個体が多いため13など一部を除き全形の明らかにできるものは少ない。1～3は口縁部がわずかに内湾し端部は摘まれる。4～7は口縁部が外反し、端部は1～3と同じくわずかに摘みあげられる。8は外反して開く口縁の端部に沈線状の凹みを持つ個体である。11・12口縁部の立ち上がりの長い口縁部を持つものである。13は口縁部から底部までその形態の明らかな個体で、口径が復元で15.4cm、器高31.7cmを測る個体である。口縁部内面及び胴部外面にはハケメが観察され、また赤色顔料が確認できる。

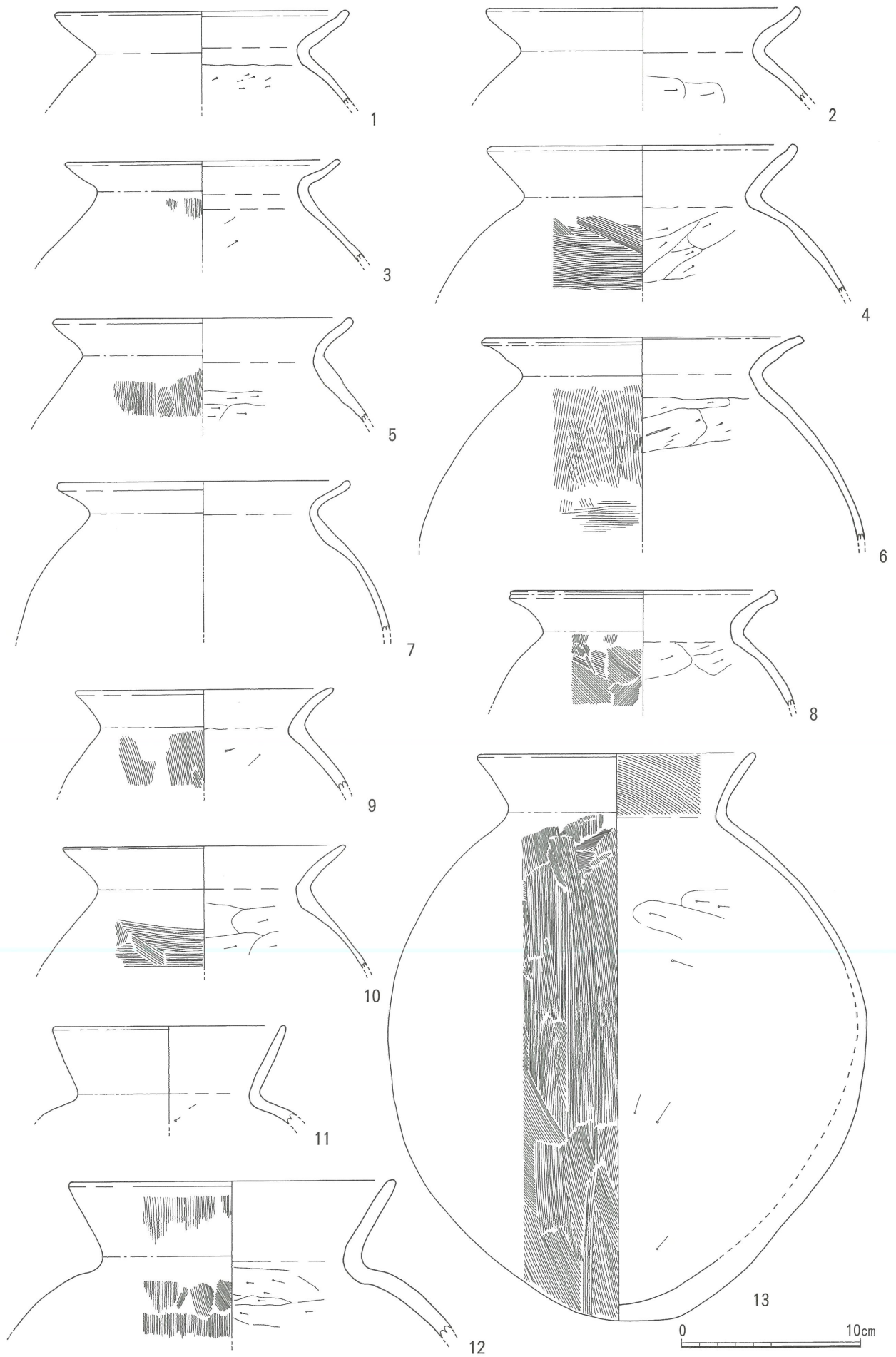
第92図-14～20は土師器壺または甕で、複合口縁のものである。14～16は外反する口縁部を持つ。17は壺と考えられるものである。口縁部は直線的に立ち上がった後、端部が外方に反る。19は逆「ハ」字状に開いて立ち上がる口縁部を持つもので、端部はわずかに平坦面を有する。肩部にはわずかながら波状文が確認できる。20は壺である。頸部から肩部にかけて有軸羽状文が施されている。22底部は平底状の底部である。なお、20と22は胎土や色調などから、同一個体と判断できるものである。

第93図-24は高坏である。坏部から脚部まで出土しておりその形態はほぼ明らかにできるものの、接点は明らかにできなかった。坏部の内面ではヘラミガキ、脚部の外面ではハケメが観察できる。25・26は直口壺である。どちらも複合口縁のもので、そのうち26はほぼ完形である。口径10.4cm、

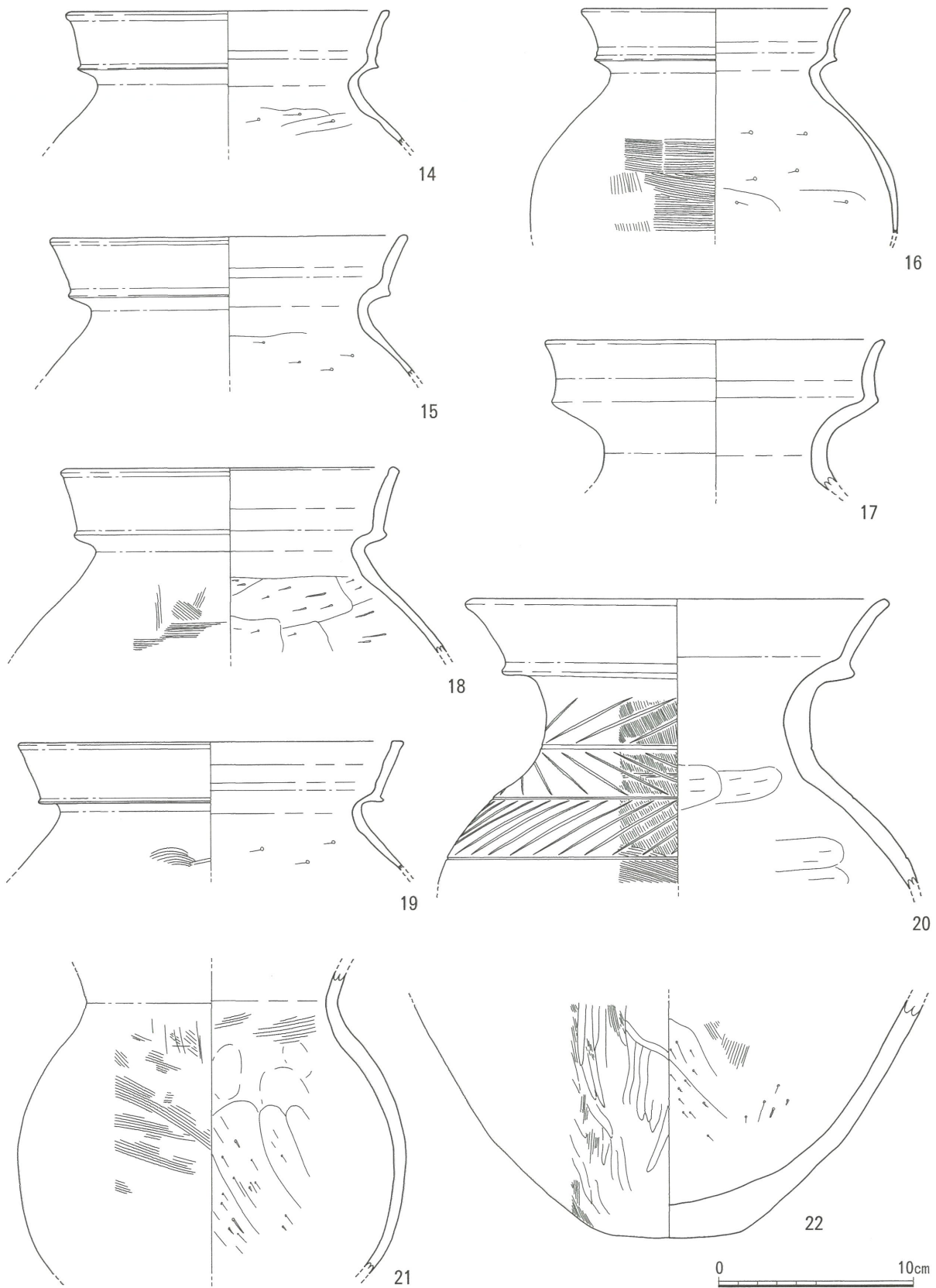


第90図 2D区5層河道跡遺物出土状況（遺構S=1/100，遺物S=1/6）

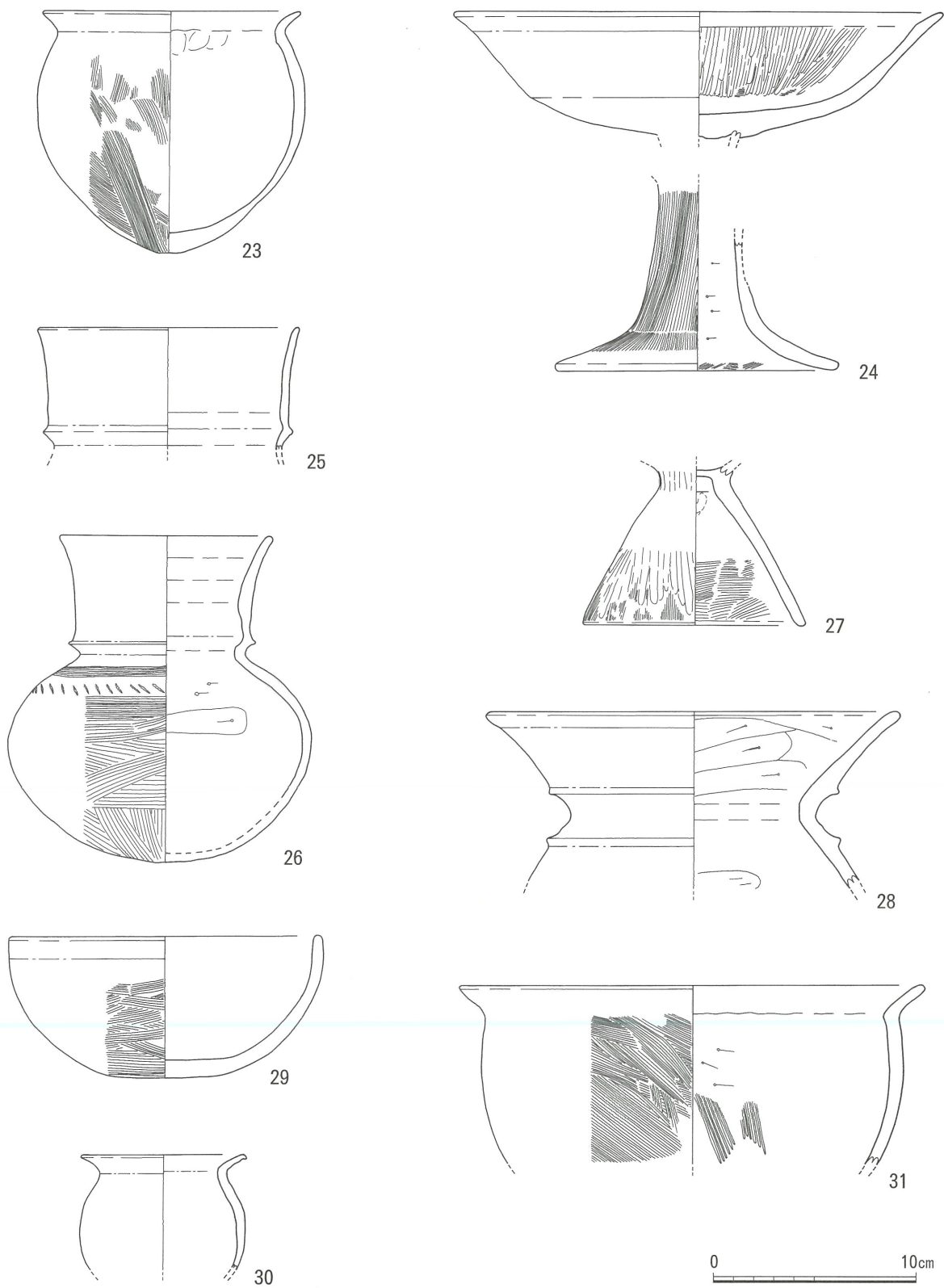
器高が16.2cmを測り肩部には直線文・刺突文が施されている。胴部以下は横方向のハケメ、底部近くでは縦方向のハケメが観察できる。27は上部を失っているものの、器台と判断できる個体である。脚部は「ハ」字状に直線的に開く。外面はヘラミガキ、内面は横方向のハケメが観察できる。28も器台である。鼓型の器台で、脚部は失われている。復元した口径は20.0cmを測る。29は椀と考えられるものである。底部は平底気味で体部は湾曲しながら立ち上がる。外面にはハケメが観察される。31は短く外反する口縁部を持つ個体である。外面はハケメである。



第91图 2 D区5層河道跡出土遺物実測图1 (S=1/3)



第92图 2 D区 5 层河道迹出土遗物实测图 2 (S=1/3)



第93图 2 D区 5 层河道迹出土遗物实测图 3 (S=1/3)



## 遺構に伴わない遺物

5層からは多くの遺物が出土した。弥生土器などもあるがほとんどは土師器である。出土した遺物のうち主なものについて第94図～第103図に掲載した。

第94図-1～3は弥生土器である。1・2は甕の口縁部と考えられるもので、端部にはキザミ目が施される。3は壺または甕の底部と考えられるものである。胎土には1～2mm程度の砂粒を多く含んでいる。また、外面には赤色顔料が確認できる。4～12は土師器壺または甕で複合口縁のものである。4～7は口縁部が外方に開きながら立ち上がる形態のものである。4・5には肩部に不完全な波状文及び刺突文が施されている。5・6は口縁端部にわずかに平坦面を有している。8は接点が見つからなかったものの同一個体のもので、口縁部から底部にかけての形態がわかるものである。口縁部は直線的に立ち上がりその端部にわずかな平坦面を有している。また底部はわずかに平底状を呈する。胴部中央には大きさが1.2cmほどの不整形な形状の穿孔が認められる。

第95図-9～11は中規模の個体群で、復元した口径が22.4cm～33.6cmを測る。12は壺である。頸部には有軸羽状文が施されている。

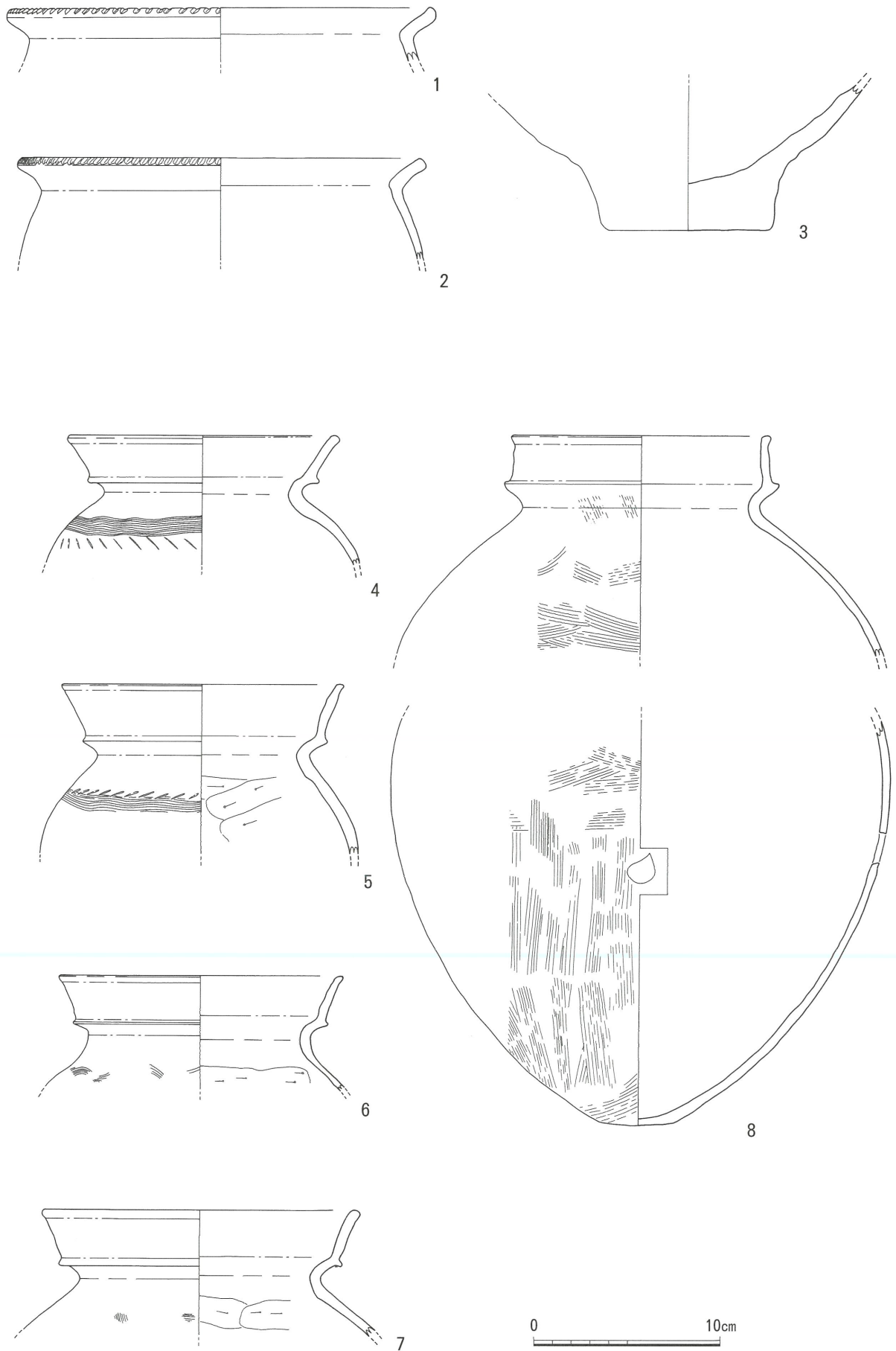
第96図-13～20は土師器甕で単純口縁のものである。13は外反しながらも内湾気味の、14は外反する口縁部をもつ個体で、端部は摘まれる。また14の個体内面ではハケメが認められる。15は外反しながら立ち上がる口縁部をもち、胴部は長めの個体である。16は口縁端部がわずかに面となり、そこに沈線を持つ。17は15と同様胴部が長めの個体である。20は短く開く口縁部に球状の胴部を持つ個体である。

第97図-21～27も土師器甕で、単純口縁のものである。23は直線的に開く口縁部をもつ。内面はハケメ、外面は斜め方向のタキ痕（と判断される）が観察される。25も内面はケズリではなくハケメである。27は底部を失っているが比較的残りのよいものである。外面は縦方向のハケメが確認できる。内面はヘラケズリである。

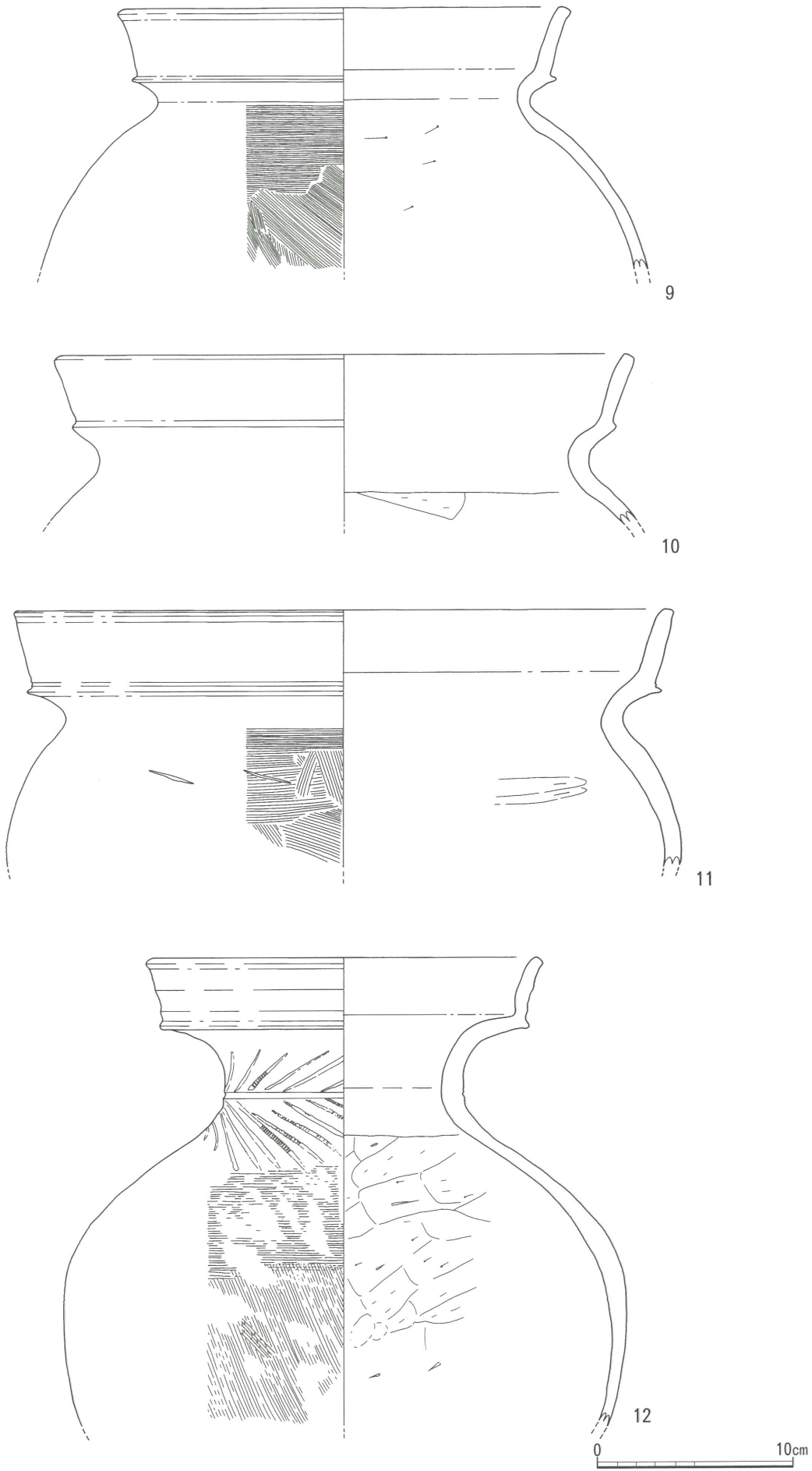
第98図-30～40は小型の壺・甕（一部鉢）と判断される個体である。これらのものは基本的に外面にハケメが認められるが、内面はハケメやヘラケズリのものであり一様ではない。また底部も、丸底のものに混じて平底や痕跡的な平底状となっているものも認められる。39は鉢と考えられるもので、口縁部は複合口縁である。41～46は碗と考えられるものである。底部は丸底のものと平底のものが認められる。42は口縁部が片口となる。

第99図-47～49、第100図-50・51も壺・甕類であるがやや大きめのものである。完形に復元できるものは少ないが、口縁部・底部などにいくつかの形態が認められる。口縁部の形態には47のように外反気味に立ち上がるものや、49のように直線的に立ち上がるものがある。底部の形態としては49や50のように平底状になるものや、51のように丸底のものがある。また、胴部の形態としては50のように胴部中位で最大径になるものや、51のようにそれよりやや上で最大径になるものがある。

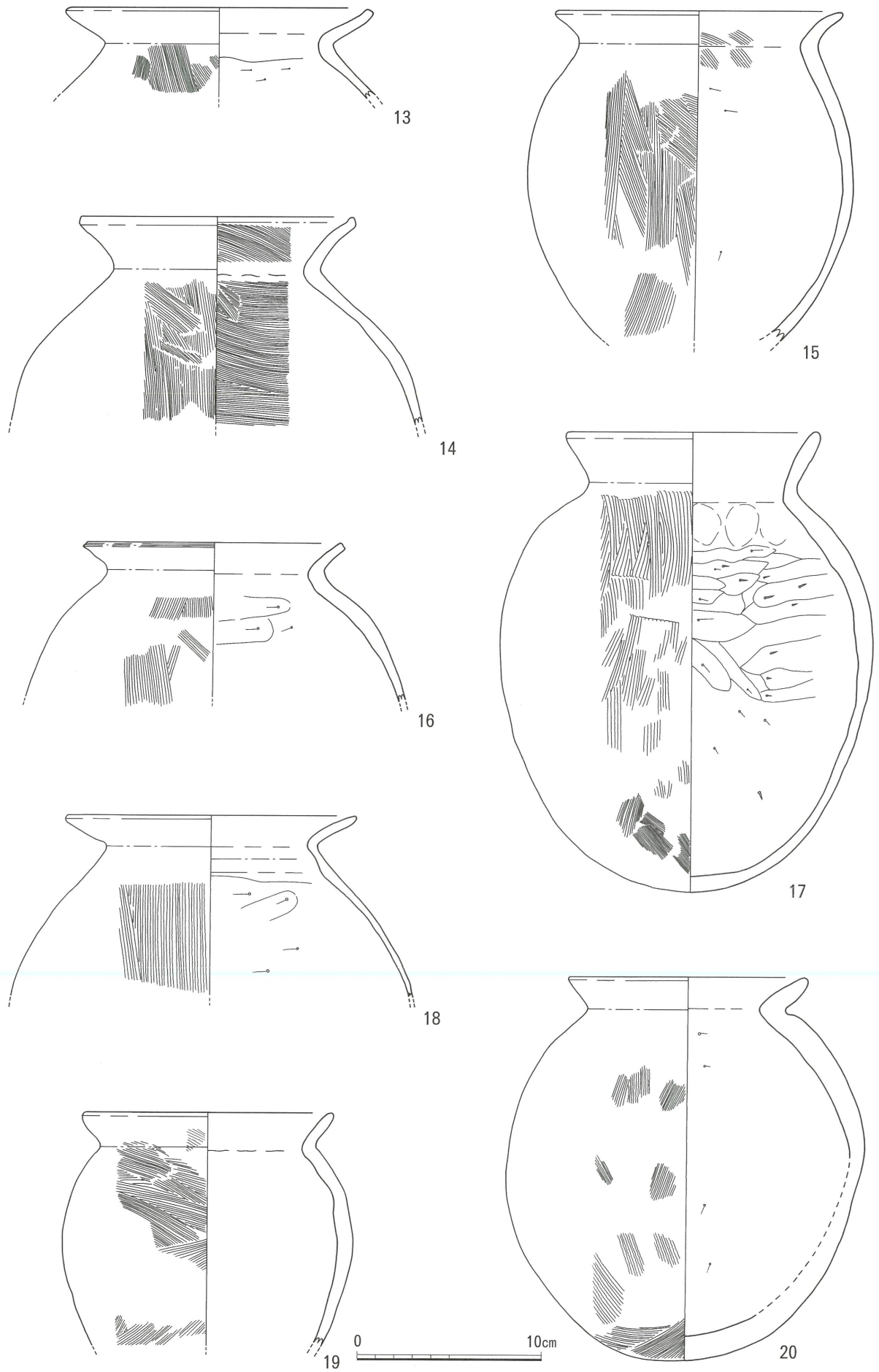
第101図-52～57は高坏である。52は球状の坏部の個体で、外面はヘラミガキ。53～55・57は坏部が外方に大きく開く形態のもので、53や57のように強く反るものもある。53・57は外面に明瞭な段を確認できる。55～57は坏部から脚部までの形態がわかるものである。いずれも脚部には円形の透かしg4方向に穿たれる。57は脚端途中で強く外方に屈曲する。58～61は低脚坏である。完形ではないものもあるが、全形の把握は可能である。58・60は大きな坏部に小さな脚部を伴うものである。59は58・60と比べるとやや小さな坏部を伴うもので、外面にはハケメが観察できる。61はほか



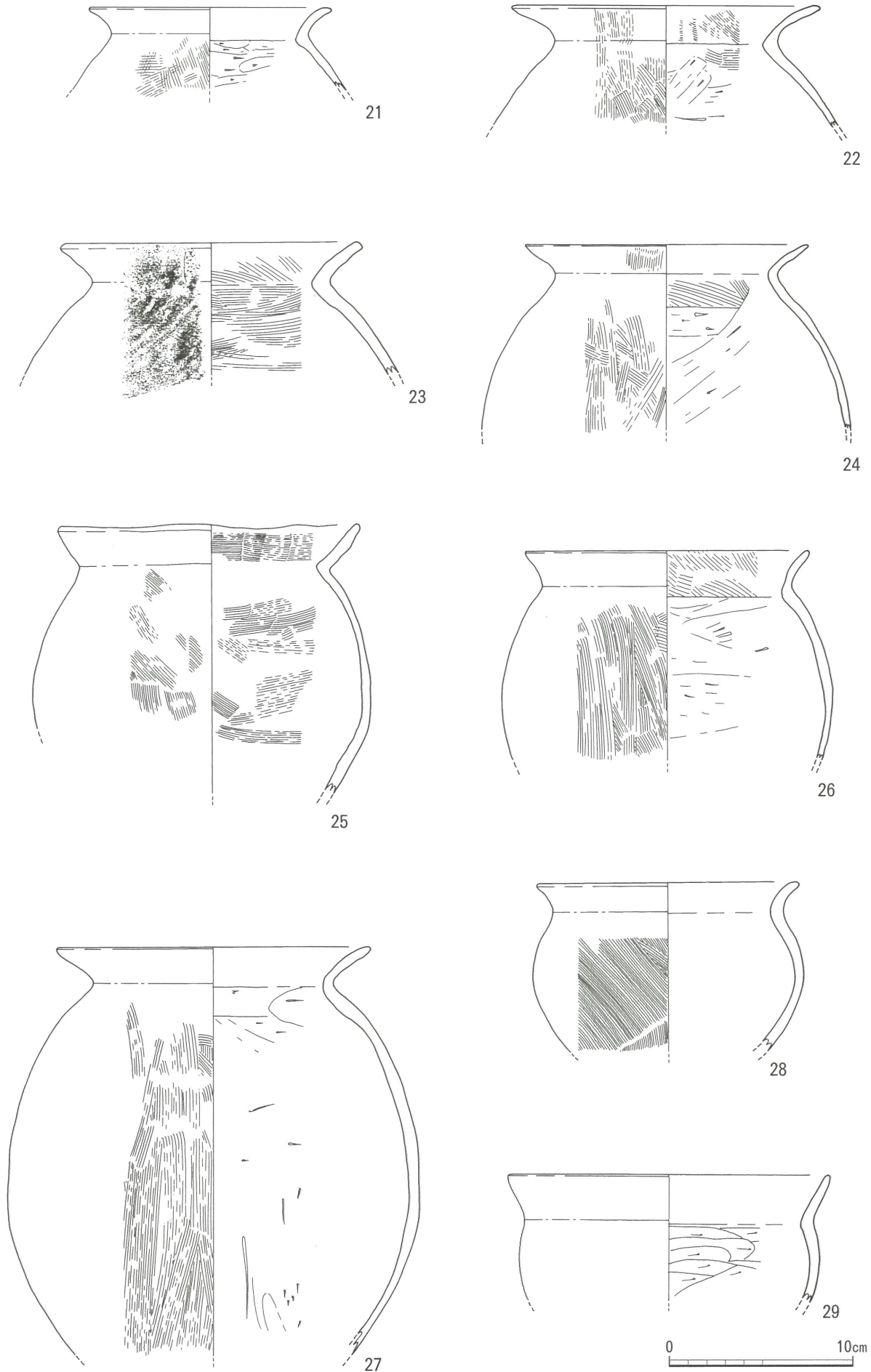
第94図 2 D区 5層出土遺物実測図1 (S=1/3) (弥生土器甕、壺、土師器甕)



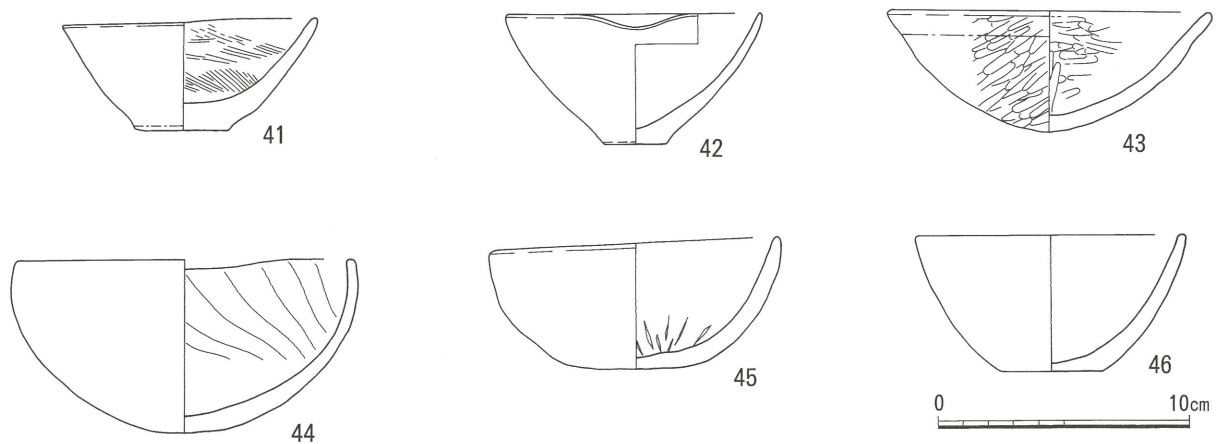
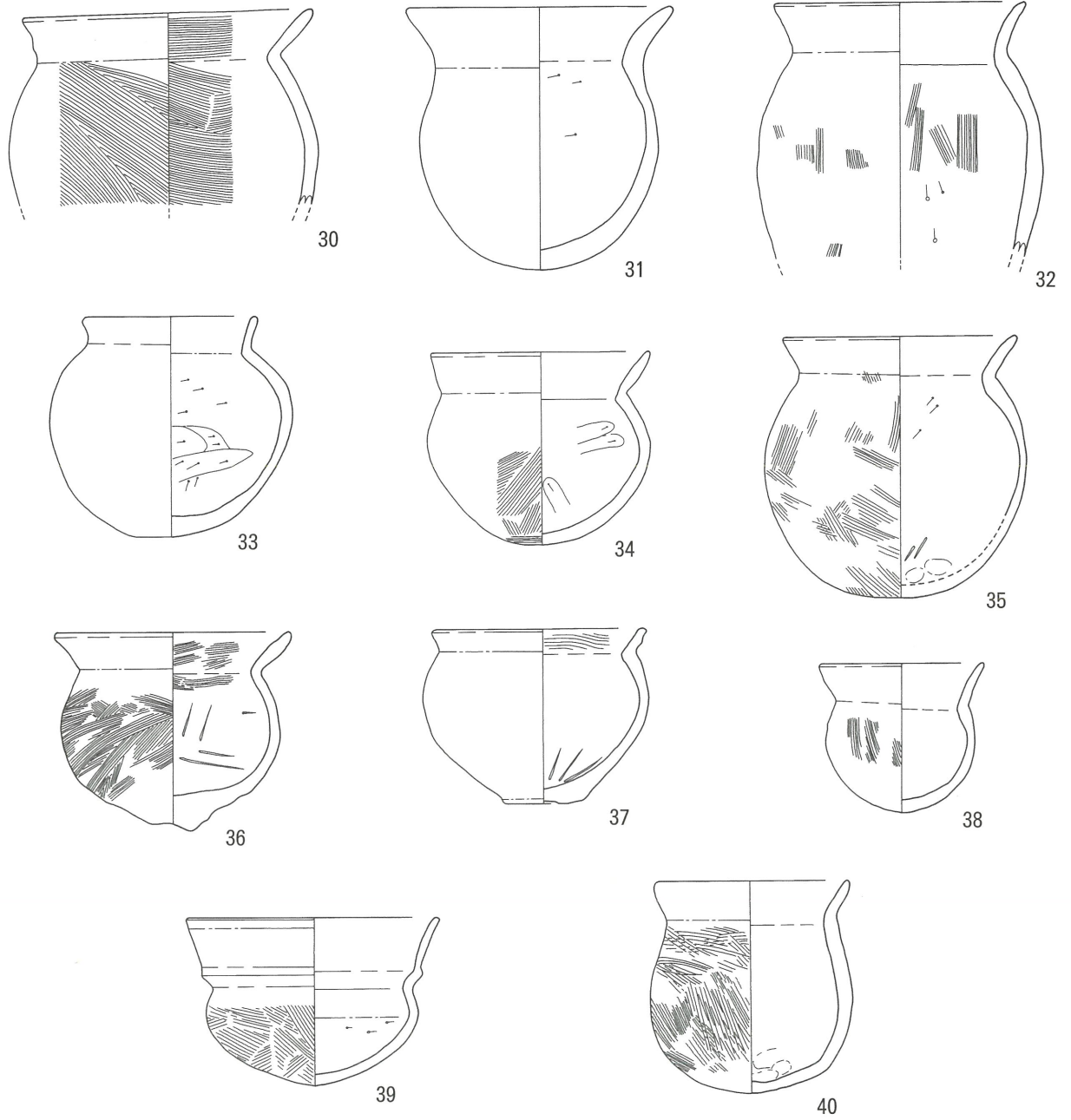
第95図 2 D区 5層出土遺物実測図2 (S=1/3) (土師器、甕、壺)



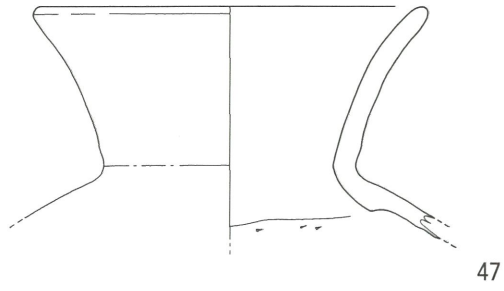
第96図 2 D区 5層出土遺物実測図 3 (S = 1/3) (土師器甕)



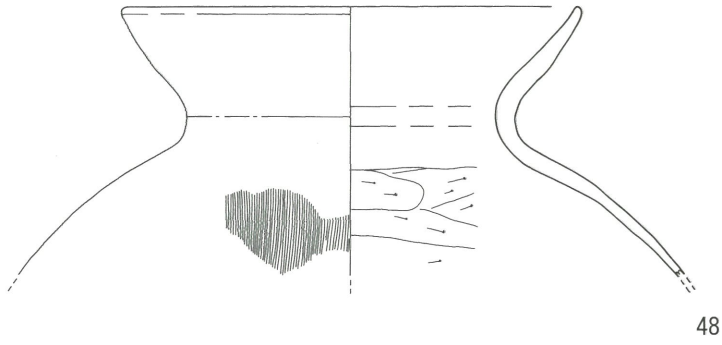
第97図 2 D区 5層出土遺物実測図 4 (S = 1/3) (土師器甕、鉢)



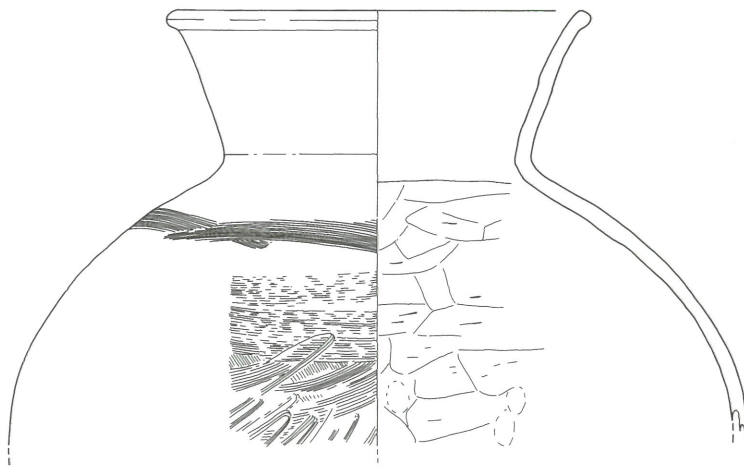
第98図 2 D区 5層出土遺物実測図 5 (S=1/3) (土師器壺、鉢)



47



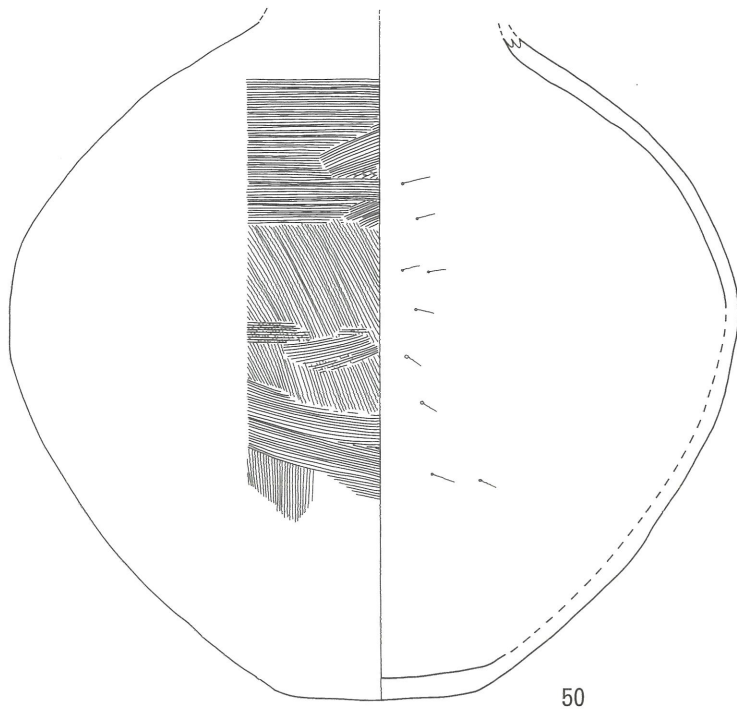
48



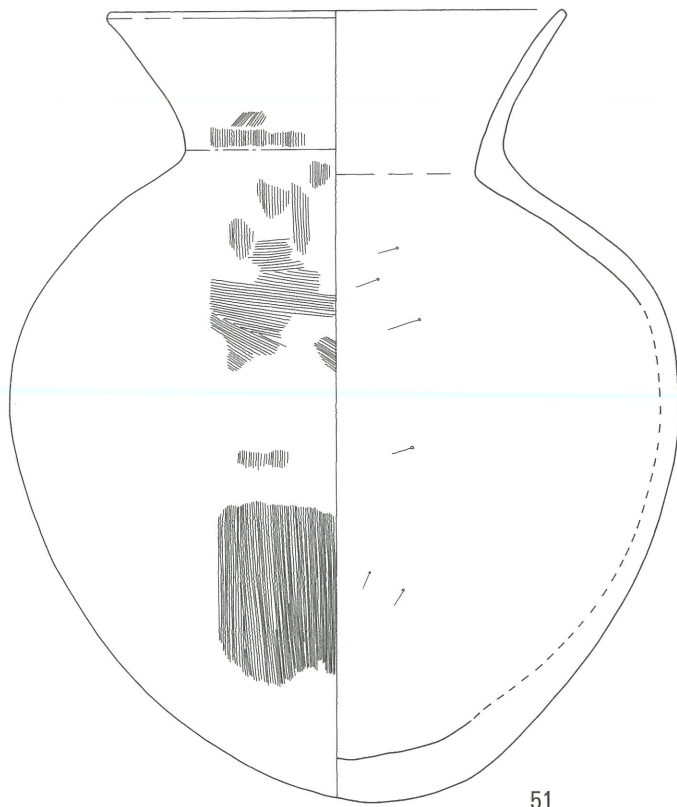
49



第99図 2 D区5層出土遺物実測図6 (S=1/3) (土師器壺)



50

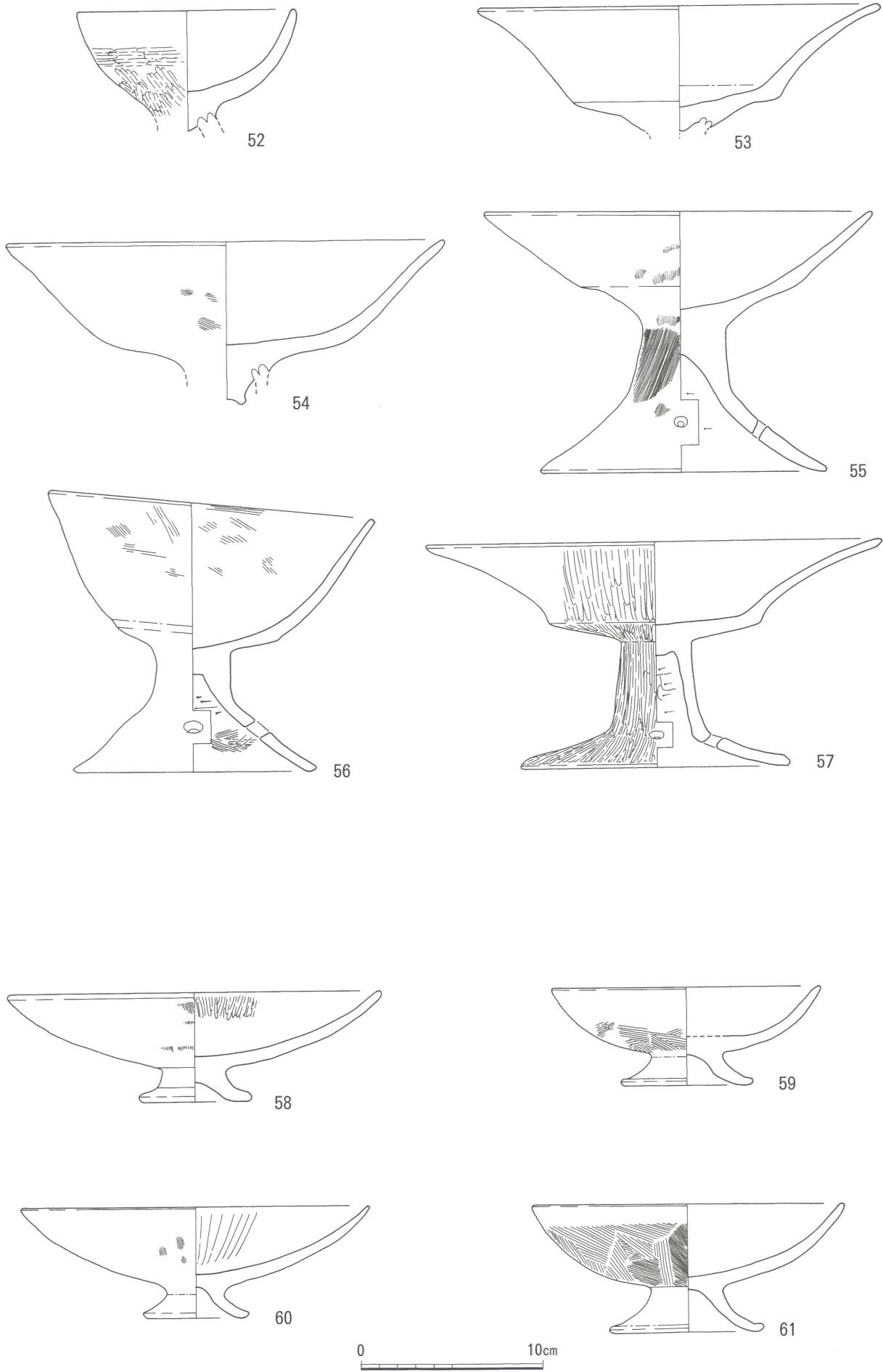


51

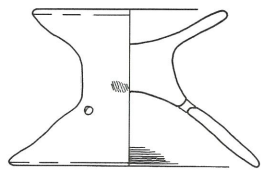


第100図 2 D区 5層出土遺物実測図7 (S = 1/3) (土師器壺)

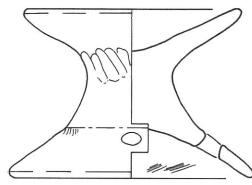




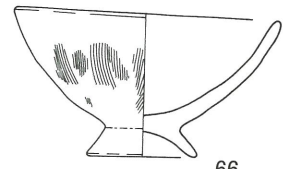
第101図 2 D区 5層出土遺物実測図8 (S=1/3) (土師器高坏、低脚坏)



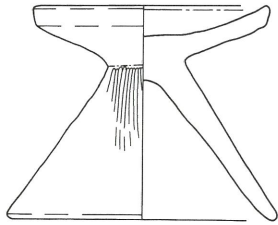
62



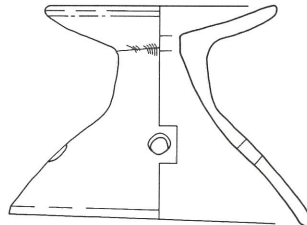
63



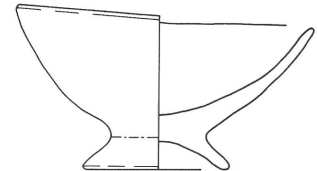
66



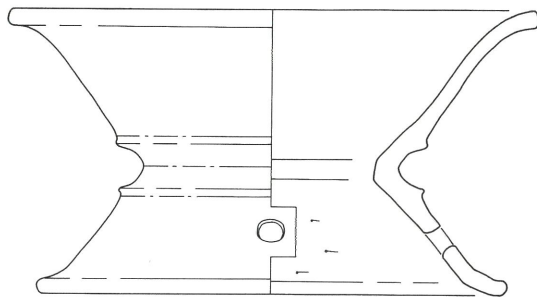
64



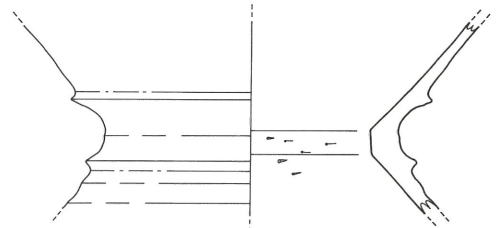
65



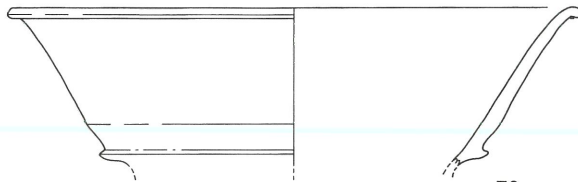
67



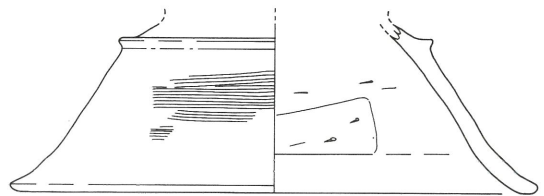
68



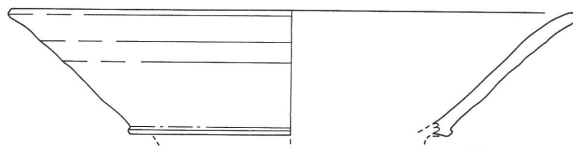
69



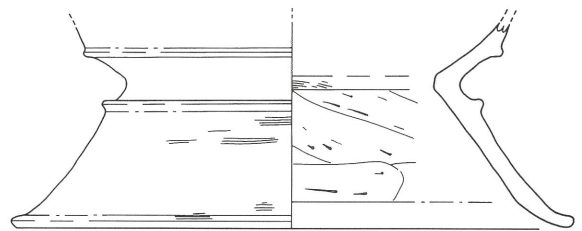
70



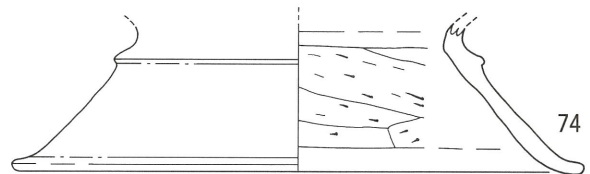
71



72



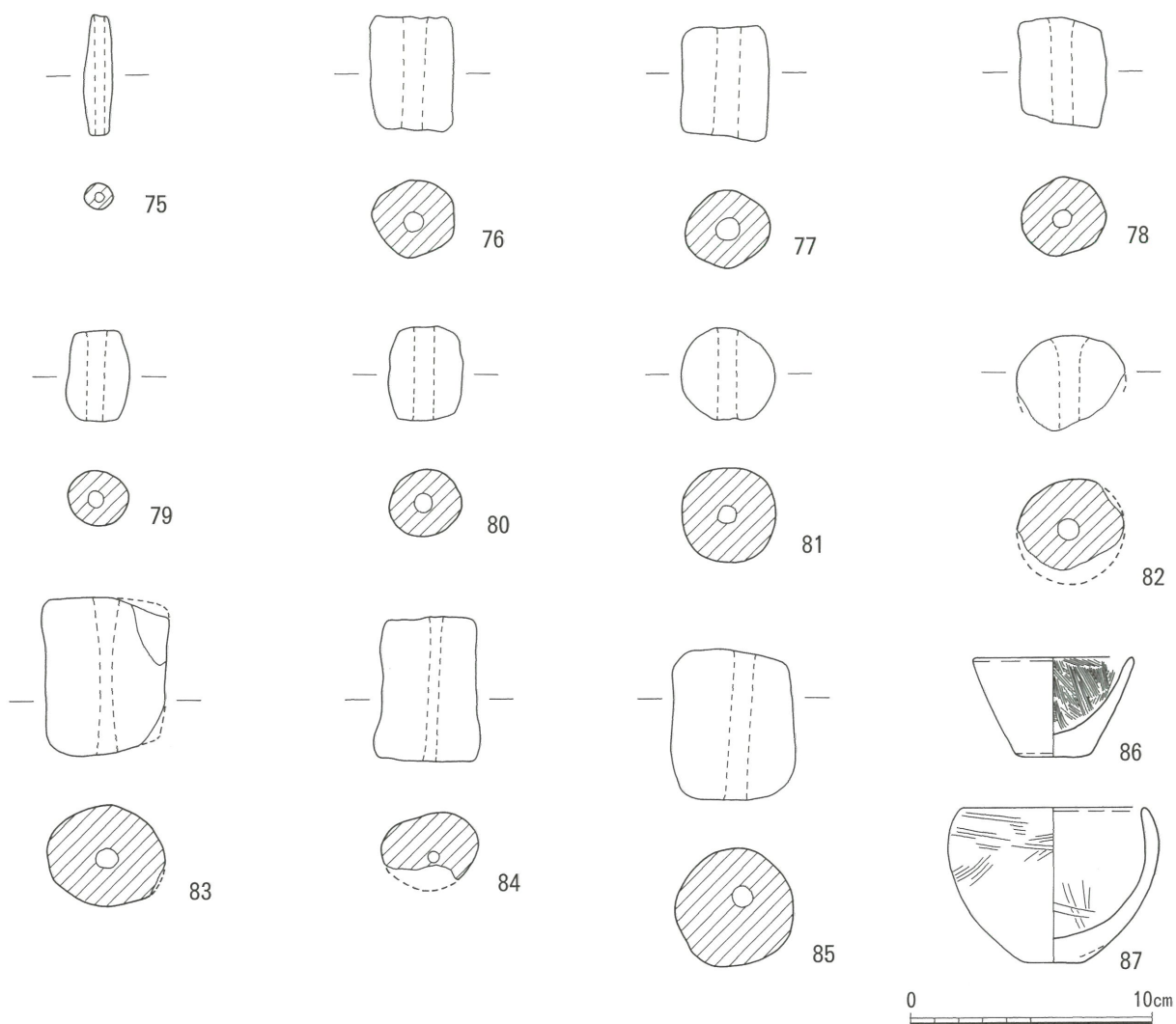
73



74



第102図 2 D区 5層出土遺物実測図9 (S=1/3) (土師器器台、低脚坏)



第103図 2 D区 5層出土遺物実測図10 (S=1/3) (土錘、手捏土器)

のものに比べて脚高の脚部を伴う。

第102図-62~65は器台型土器と考えられるものである。62・63は受部・脚部の大きさがそれほど変わらない形態で、62には3方向、63には4方向の円形透かしが穿たれる。64・65は「ハ」の字状に開く脚部を伴うものである。65は4方向に円形の透かしが穿たれ、受部~脚部にかけては中空である。66・67も低脚坏としておく。坏部は小さく深い。68~74は器台型土器のうち、いわゆる鼓形のものである。68のみ全形が明らかにできる。受部径20.8cm、脚部径18.4cmで高さ11.4cmを測り筒部は短い。

第103図は土錘やミニチュア土器などを掲載した。75~85は土錘である。75のように長細い形のものはこれ1点のみでほかは全て円柱状または球状の形をしている。中央部の孔は径が約6~7mmである。86・87はミニチュア土器としておく。86は径6.4cm、高さ4.1cmと小さいが、外面や内面にはハケメが観察できる。

## 5. 河道跡の調査

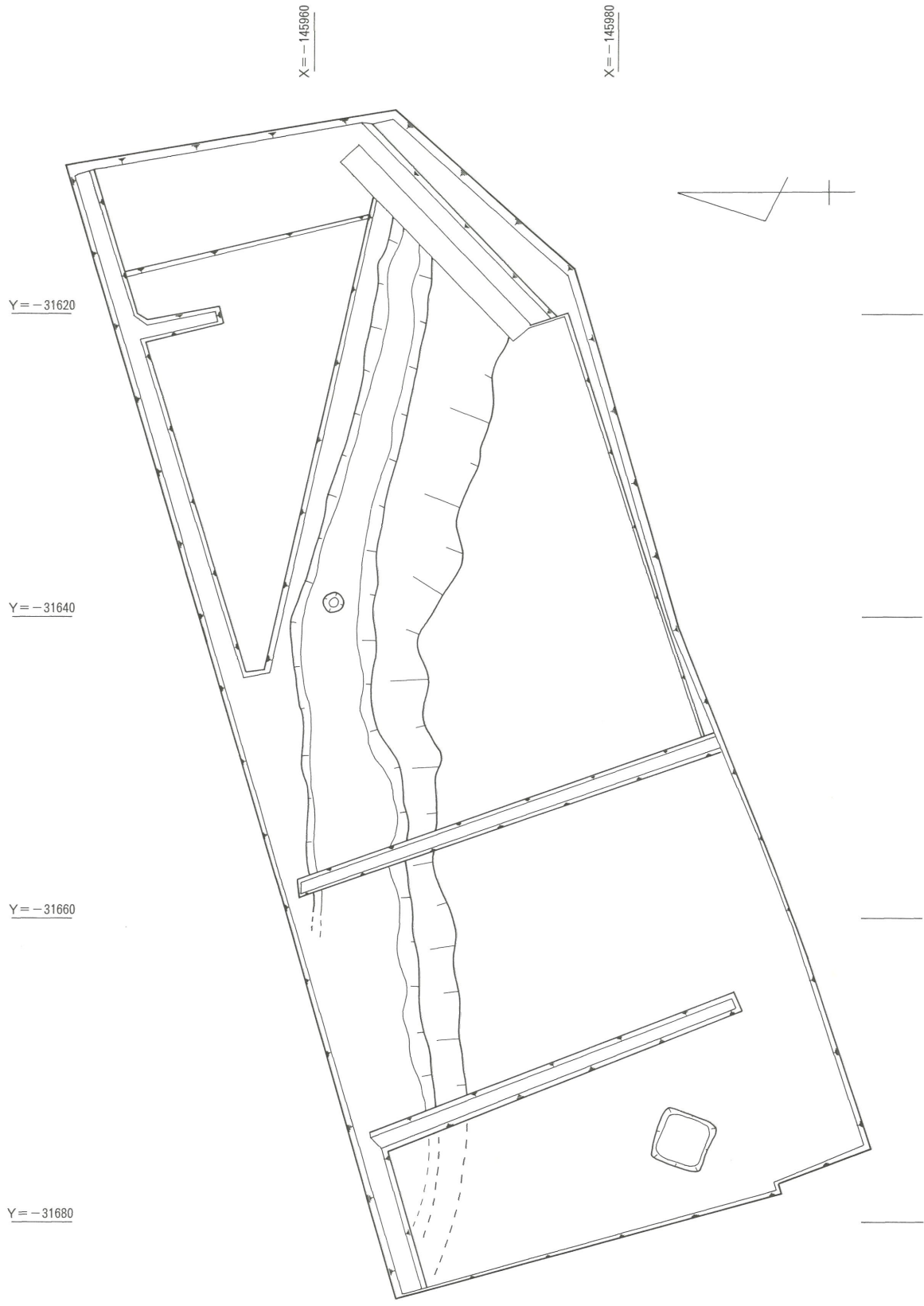
最終面と判断した礫層の上面で、東西方向に伸びる河道跡を確認した。河道跡は下端幅が約2～4mを測る。上端については南側の縁は明らかにできるものの、北側が不鮮明なことや調査区の関係上から明らかにできなかった。単純に下端中央での折り返しで推測すると約10mの幅と考えることも可能である。河道跡は調査区東側では北東から南西方向に伸びているが、調査区の中央付近で曲がって東西方向に向きをかえる。底面は砂利や礫となっており、特に西側からは水が染み出ている状況が確認できた。

河道跡からは土師器のほか若干の木製品や木片などを確認した。出土した遺物のうち特徴的なものや形態の明らかなものについて、第106図～第121図に掲載した。このうち第106図と第107図に掲載した遺物は土器溜り状にまとまって出土したものであり先行して報告する。

第106図-1～10は土師器の壺・甕類である。単純口縁で外反する口縁部を伴うもので、全形は明らかにしえないものの、胴部中位で径が最大になる形のものとして推測される。器壁は薄く、外面は基本的に縦方向のハケメが観察できる。但し、6は斜めないしは横方向のハケメで、さらに内面の調整もハケメであるなど他のものとやや異なったりしている。3は壺と判断されるもので、外反する口縁部を持ち、その端部には凹線状の凹みを有する。9も壺と判断されるものである。口縁端部はわずかに内側に屈曲する。外面・内面ともハケメが認められる。残存部分の状況から胴部中位が最大径になるものと考えられる。

第107図-11は甕である。複合口縁のもので外反して立ち上がる。端部は丸い。12・14～18は一応椀と捉えておく。このうち17は口径11.8cm、器高6.9cmを測り、体部は胴部の中位で一度屈曲して広がる形態である。底部は平底となる。13は高坏である。坏底部は丸みを帯びそこから緩やかに外反する体部をもつもので、脚部は脚端部近くで外方に屈曲する。外面及び坏部内面と脚端部ではハケメが認められる。19は壺の口縁部と考えられるものである。大きく開く口縁部を持つ個体と考えられる。口縁端部はわずかに平坦面となり、外面には密な波状文が施されている。また口縁部内面にも3条の波状文が施される。20は口縁部と底部を失っているもののその形状から広口の壺と判断できる個体である。胴部中央が最大径の扁平な球状になるものと思われる。外面上位には波状文・直線文が密に施されている。また中位から下位にかけてはヘラミガキが観察できる。内面では一部で横方向のハケメが観察できる。なお色調や胎土などの様子から判断して、19と20は同一個体の可能性が高い。21は大型壺の胴部の一部と考えられるもので、器壁は約1.1cmと厚い。外面には山形文や直線文が施されている。

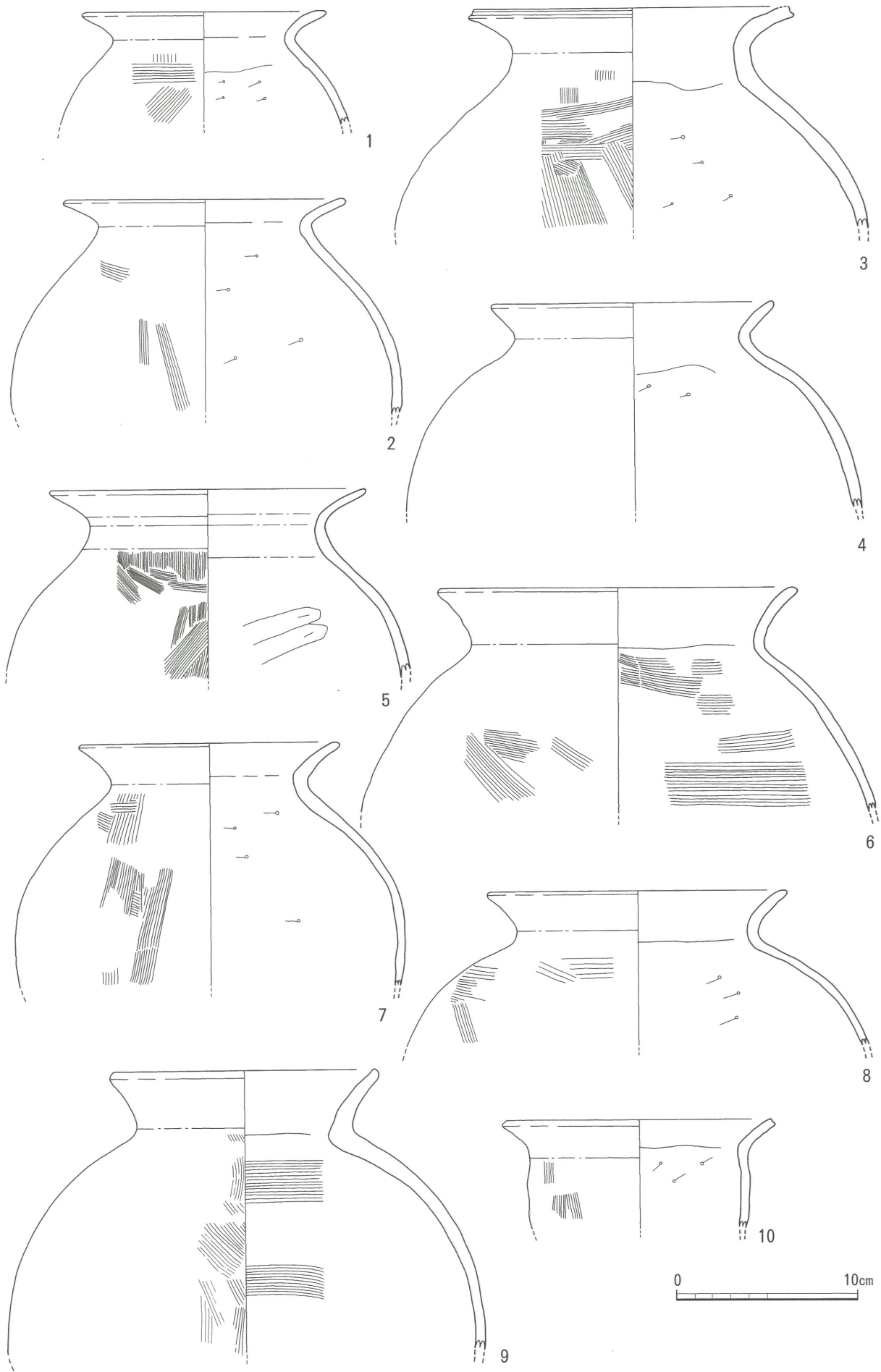
第108図-1～3は弥生土器・甕と考えられるものである。1は外反する口縁部の個体で、外面には擬凹線文が施されている。2は口縁端部を失っている。外面には1と同様に擬凹線文が、肩部には刺突文が施されている。3は比較的残りのよいもので、外反する口縁部と胴部が張り出さない長めの胴部を持つ個体である。口縁部外面には擬凹線文が施され、肩部には刺突文や直線文が巡らされている。4～8は土師器の壺・甕である。4～6は外方に開いて立ち上がる口縁部を持つ。4は口縁端部が丸く、6はわずかに平坦状となる。5は球状の胴部を伴い、胴部外面にはハケメが観察できる。7は壺と考えられ、直線的に立ち上がる口縁部と中位で張る胴部を持つ。肩部には波状文と一部直線文が廻らされる。8も壺と考えられるが、口縁部が短いなどほかのものと形態がやや異なる。



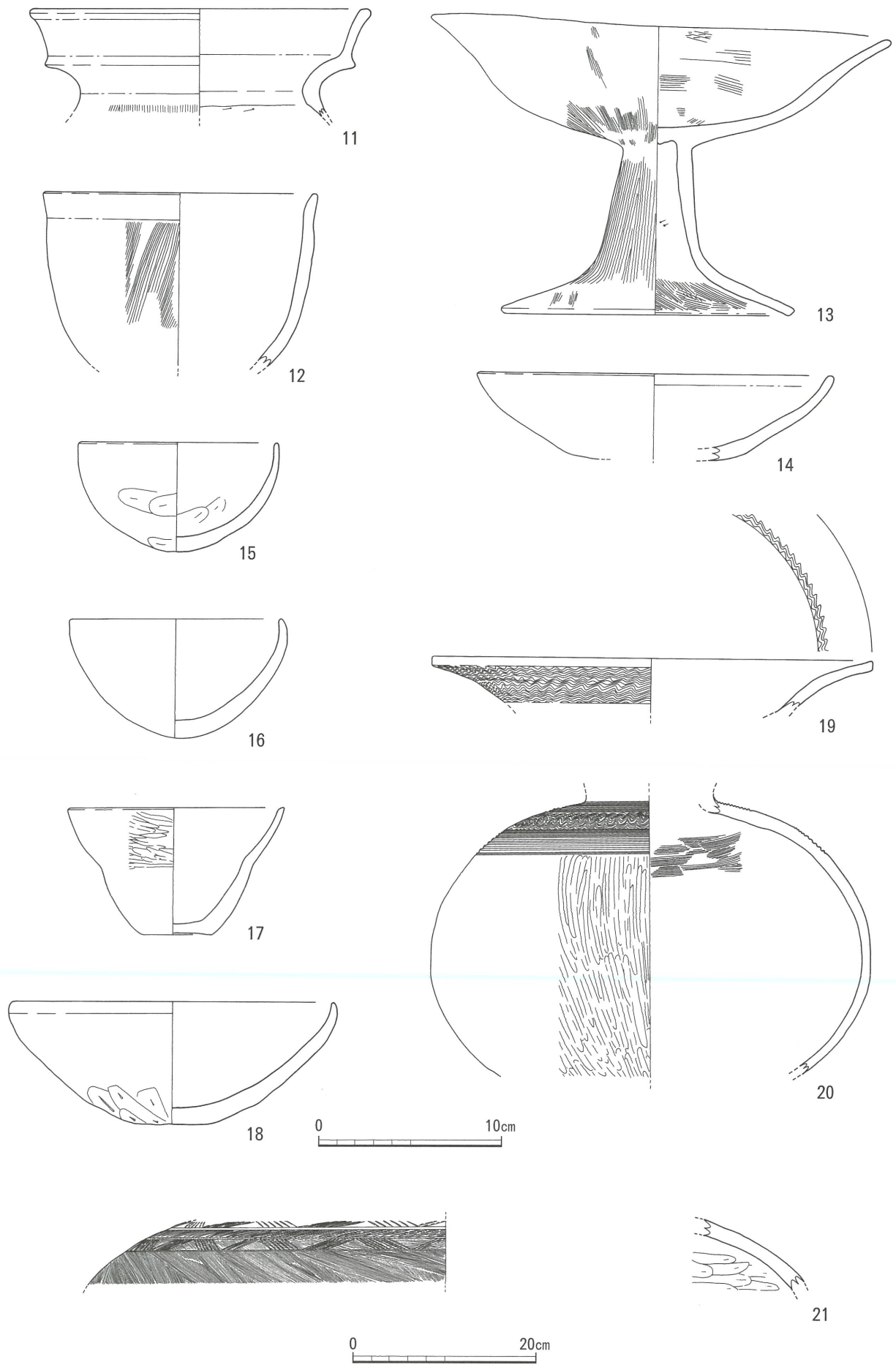
第104図 2D区6層遺構配置図 (S=1/300)



第105図 2D区6層(土器溜り)遺物出土状況(遺構S=1/100, 遺物S=1/6)

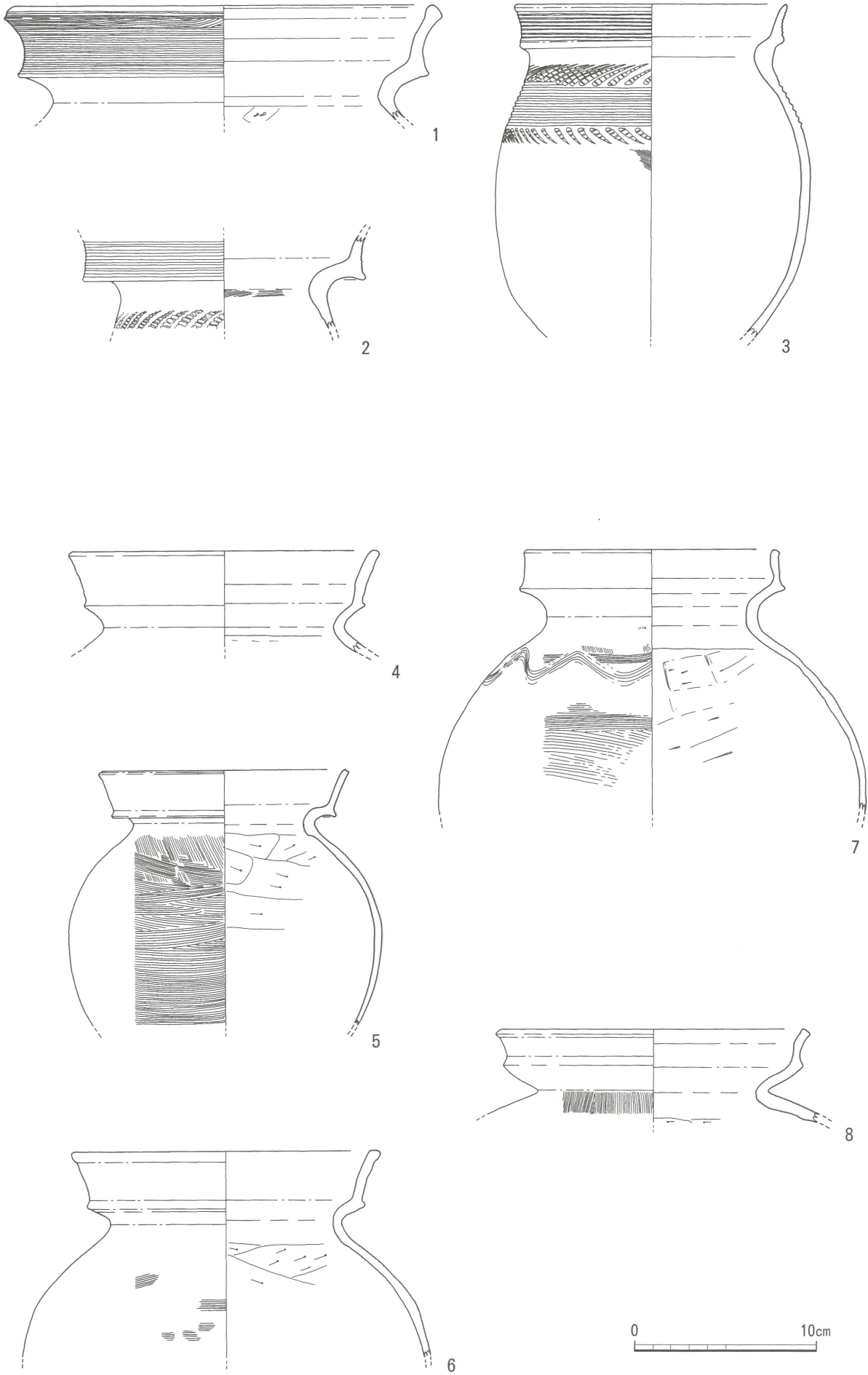


第106図 2 D区 6層 (土器溜り) 出土遺物実測図 1 (S=1/3) (土師器甕、鉢)



第107図 2 D区 6層 (土器溜り) 出土遺物実測図 2 (S = 1/3) (土師器壺、高坏、鉢)





第108図 2 D区 6層出土遺物実測図 1 (S=1/3) (弥生土器甕、壺)

第109図－9～11は壺と判断できる個体である。9は口縁部が内傾気味に立ち上がり、その端部が外方につまみ出される。10は直線気味に立ち上がる口縁部を持つ。胴部は上半が残存するのみであるが、肩部に刺突文が確認できる。11は器形がほぼ明らかにできるものである。口径23.4cm、器高49.0cmを測る。口縁部は直線的に立ち上がりその端部は平坦面となる。胴部は中位よりやや上で最大径となり、そこから底部に向かって窄まっていく。底部は平底である。胴肩部には刺突文が廻らされ、ほぼ全面に縦方向のハケメが確認できる。

第110図－12～20は単純口縁の壺・甕である。12・13・17は口縁端部がわずかに摘ままれる。13は口縁部内面にハケメが観察される。14は口縁端部に沈線状の凹みを有する。15は胴部に円形の穿孔が認められる。17は胴部が球状と判断できる。外面は斜め方向のハケメが観察できる。18は口縁部外面がわずかに肥厚し、同じく球状の胴部を伴うものと考えられる。19は口縁端部がわずかに平坦面となる。20は底部を失っているもののほぼ形態が明らかにできる個体である。外反する口縁部を持ち、胴部は中位で最大径となる。外面はハケメが観察される。

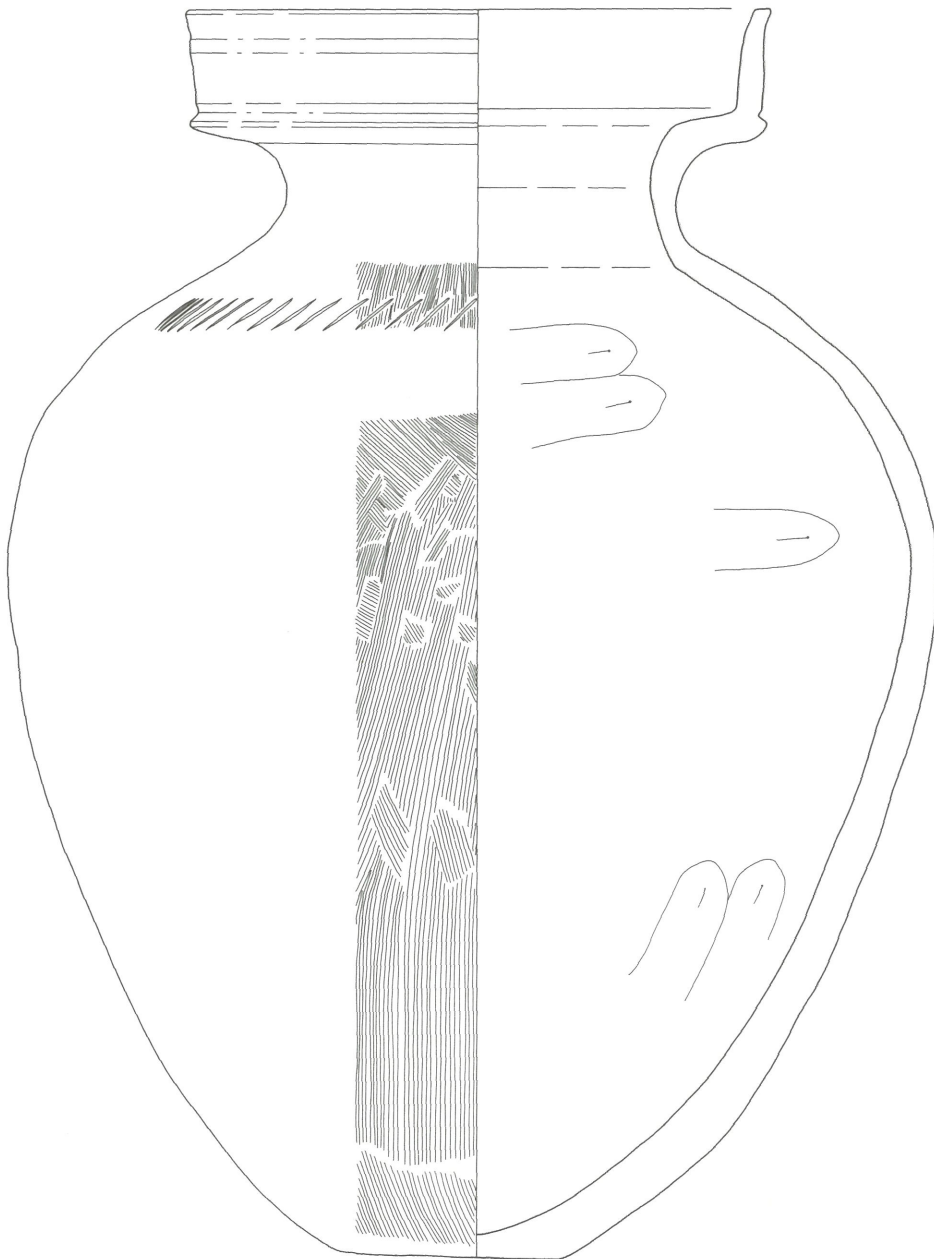
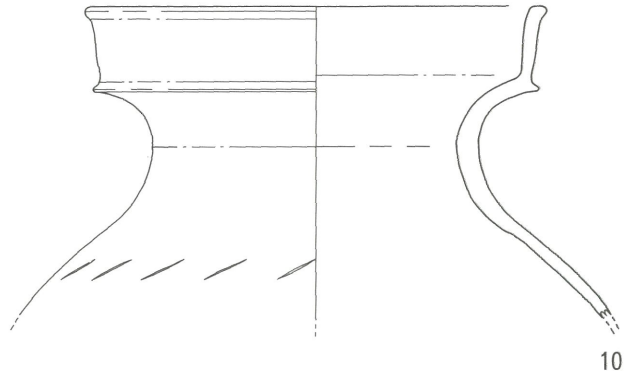
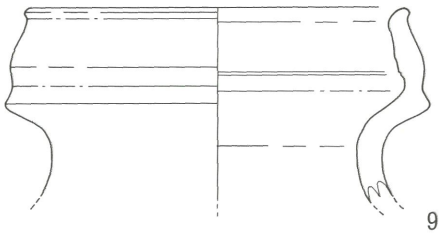
第111図－21～28も土師器壺・甕である。21は口縁部が「く」字状に外反し、胴肩部外面にはハケメ原体による刺突文が施される。22は「く」字状に外反する口縁部に、おそらく球状になる胴部をもつ個体である。外面・内面とも横方向のハケメが観察できる。23は口縁部から底部まで全形のわかるものである。「く」の字状に外反する口縁部と球状に近い胴部を伴う。底部は肥厚し平底となる。外面はタタキ、内面はハケメとなっておりほかと比べても特徴を持った個体である。なお、図示はしていないが、外面がタタキとなる破片は一定量出土している。24も22と同様に外面・内面ともハケメである。26～28もほぼその形を明らかにすることのできる個体である。それぞれに細部は異なるが、これまでに記載してきたものと比してやや長めの胴部となる。また底部はやや厚めである。

第112図－29～33も土師器壺・甕である。29～32は球状の胴部をもつと考えられる。33は接合段階でやや歪な形になってしまったが、全形の推測できるものである。

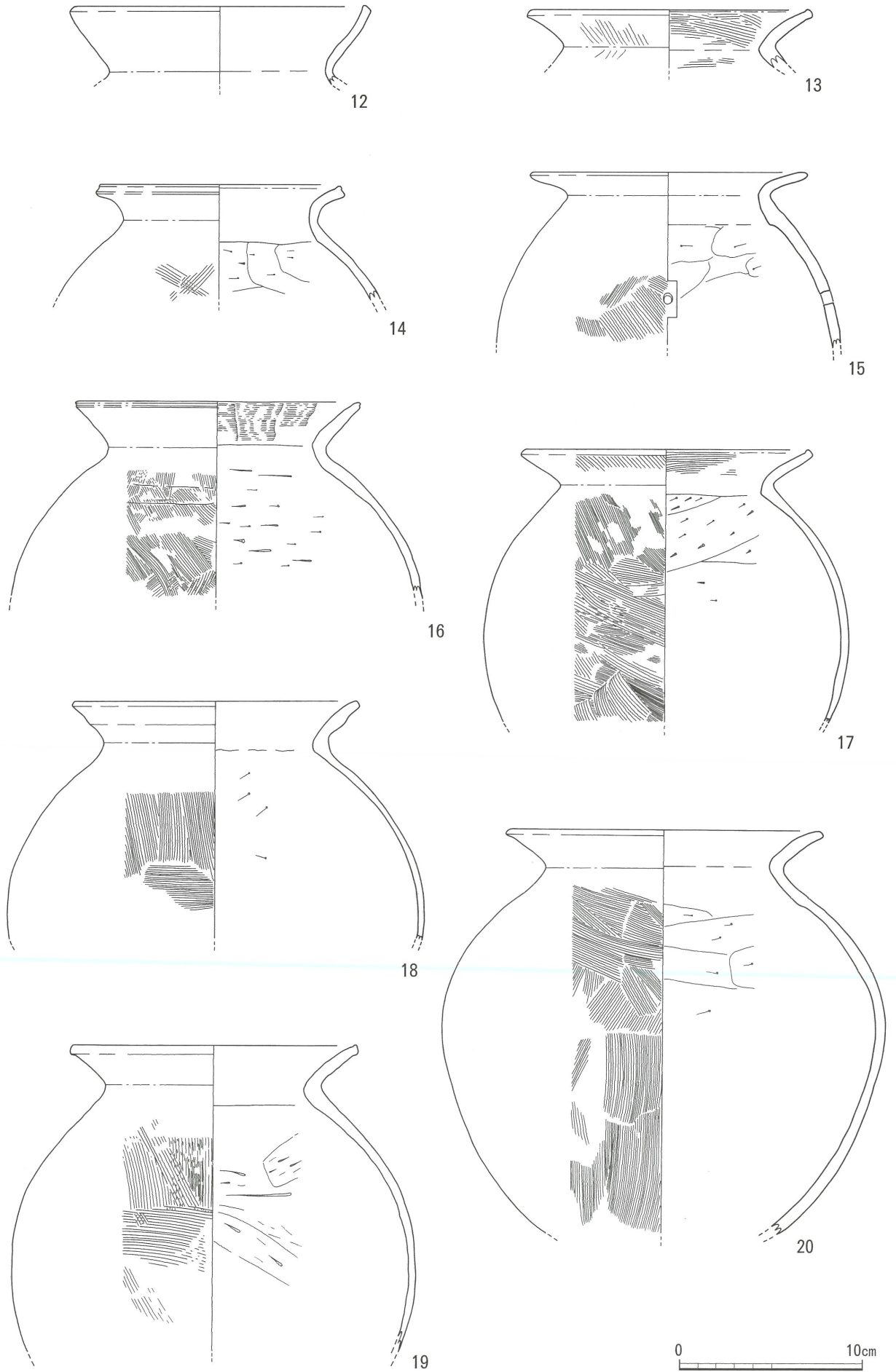
第113図－34・35は土師器壺である。逆「ハ」字状に立ち上がる長めの口縁部を持つものである。胴部下半以下を失っているため全形は明らかでないが、胴肩部付近が最大径となるものと考えられる。35は口径が16.0cmを測り、外面はハケメ、内面はヘラケズリが観察できる。

第114図－36～38も壺と考えられるものである。36は短く外反する口縁部に球状の胴部を伴う。外面はハケメが観察できる。37は逆「ハ」字状に開く口縁部に、それと比較して大きめの胴部を伴う個体である。下半以下を失っているため推測の域を出ないが、やはりこれも球状の胴部を伴うものと判断される。外面は不定方向のハケメやヘラミガキ、内面は横～斜方向のハケメである。38は口縁部の形態が若干異なるものの、36・37とほぼ同様の形態と考えられるものである。

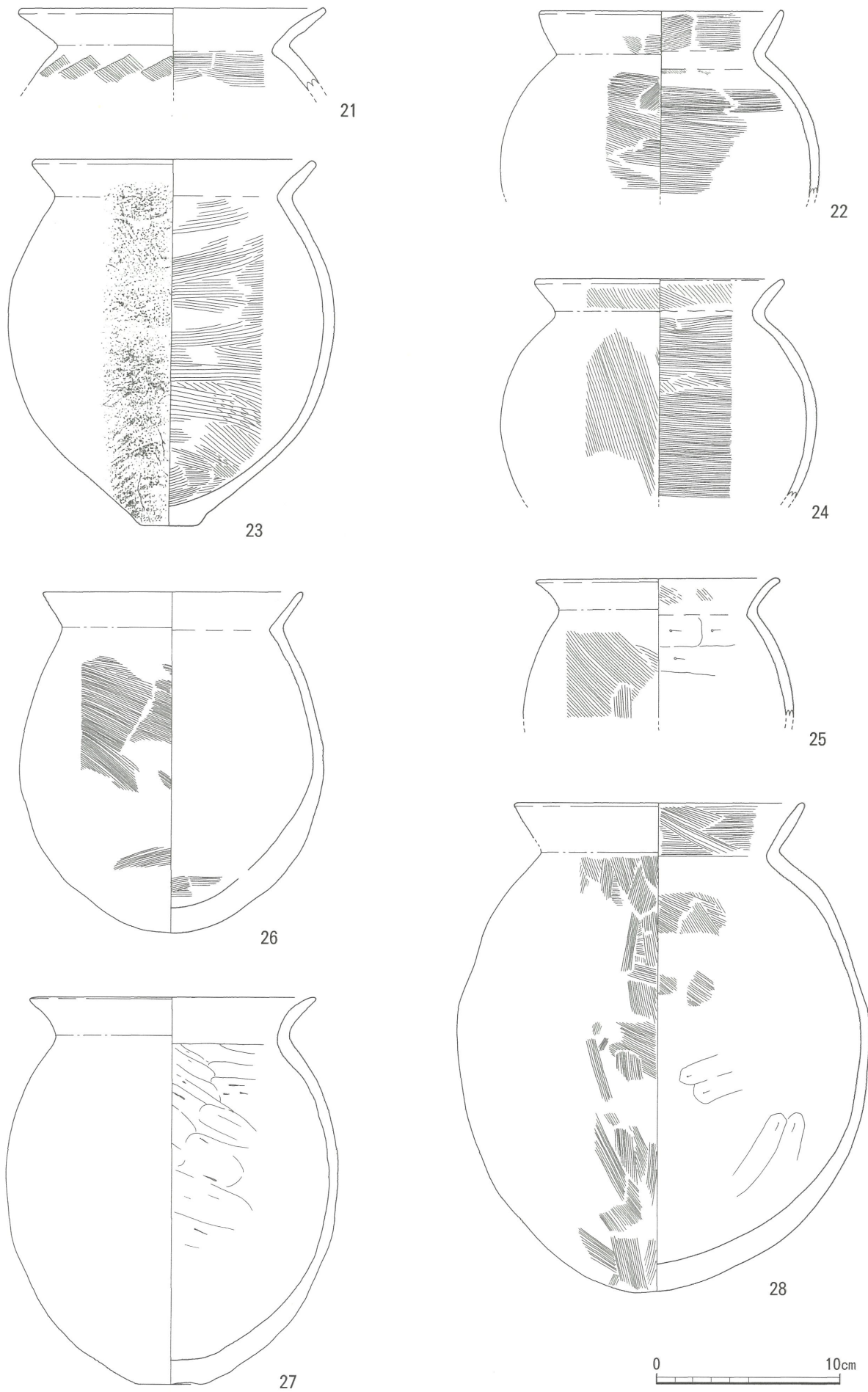
第115図－39～48は小型の壺・甕である。壺形のものや甕形のものがある。39・40は単純口縁形の丸底壺である。図示はしていないが、この器形のは比較的多く出土した。41は複合口縁の丸底壺で、胴肩部には波状文が施される。42は甕形のもので、底部は肥厚し平底状となる。外面・内面ともハケメが顕著である。43も42と同様に底部が肥厚するものである。44の底部は平底で厚みを持っている。外面は粗いハケメが観察できる。45は短く外反する口縁部に球状の胴部を伴うものである。46もほぼ同様の形態のものであるが、底部は穿孔されている。48は短く外反する口縁部に楕円状の胴部を伴う個体である。49は甕の底部と考えられるもので、穿孔されている。外面はタタキ、



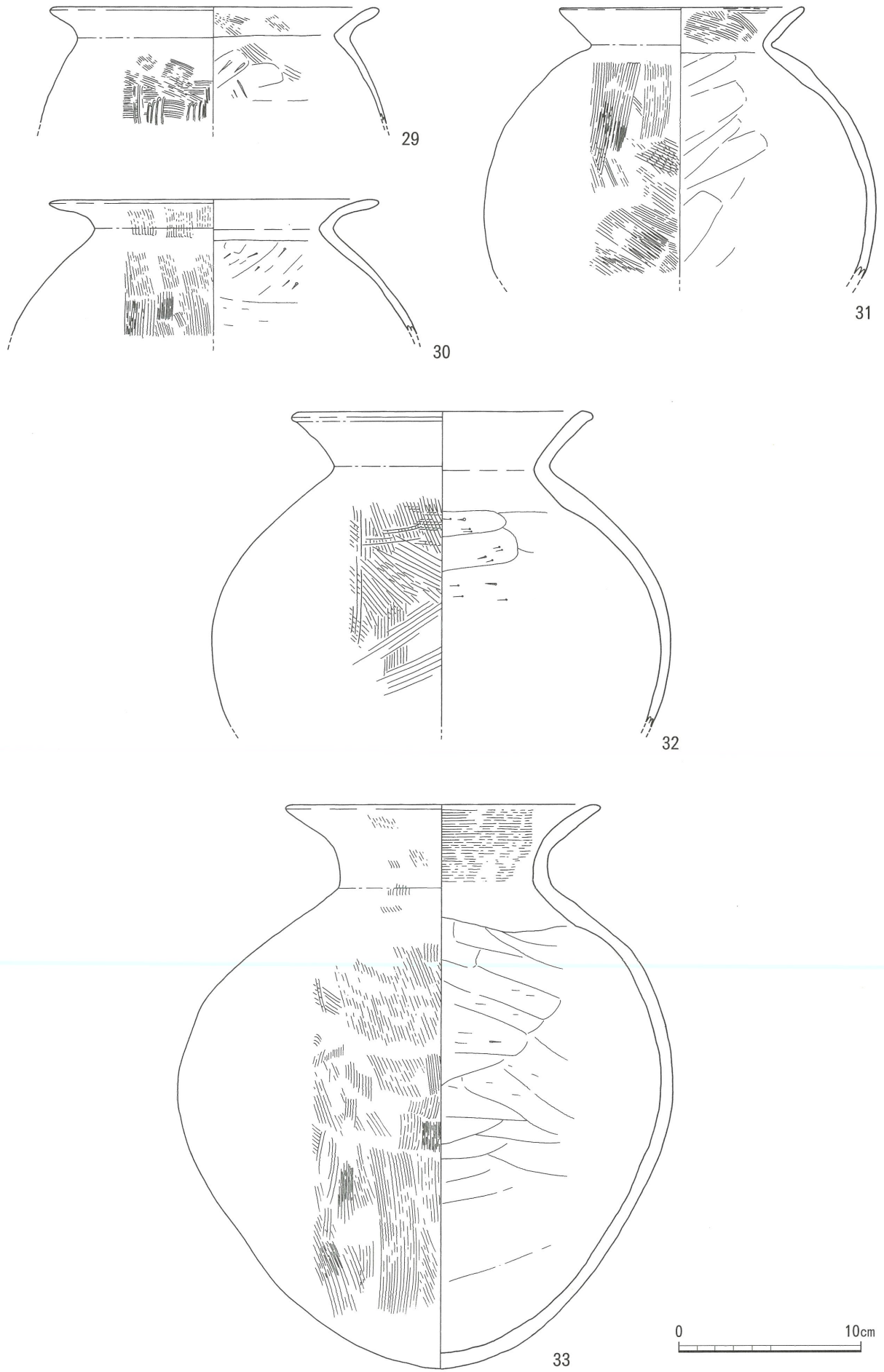
第109図 2 D区 6層出土遺物実測図 2 (S = 1/3) (土師器壺)



第110図 2D区6層出土遺物実測図3 (S=1/3) (土師器甕)



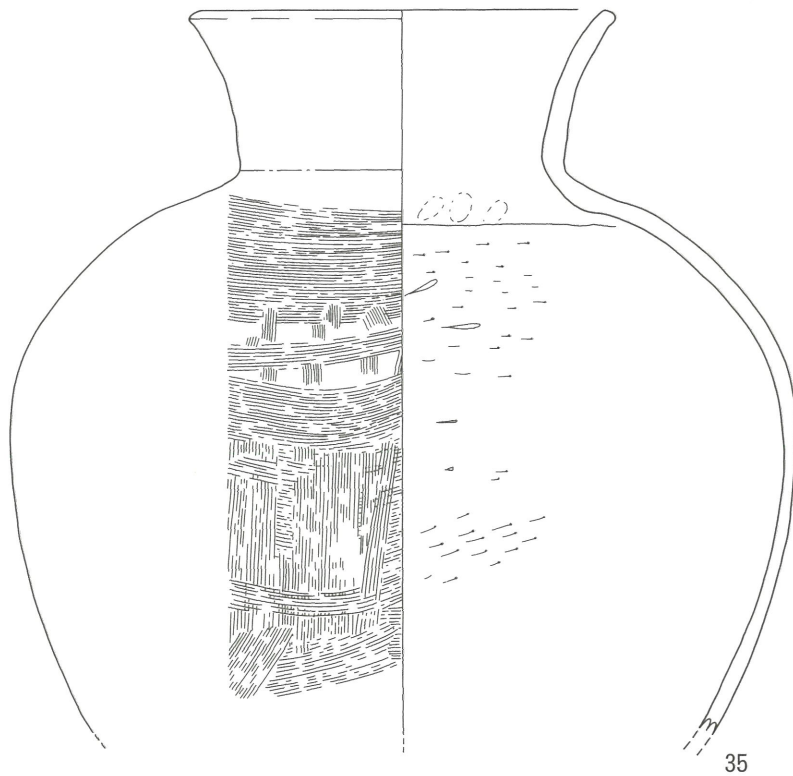
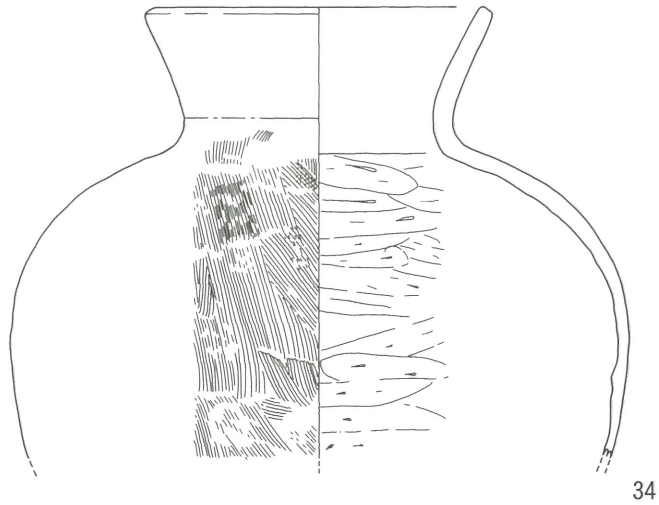
第111図 2D区6層出土遺物実測図4 (S=1/3) (土師器甕)



第112図 2 D区6層出土遺物実測図5 (S=1/3) (土師器甕、壺)

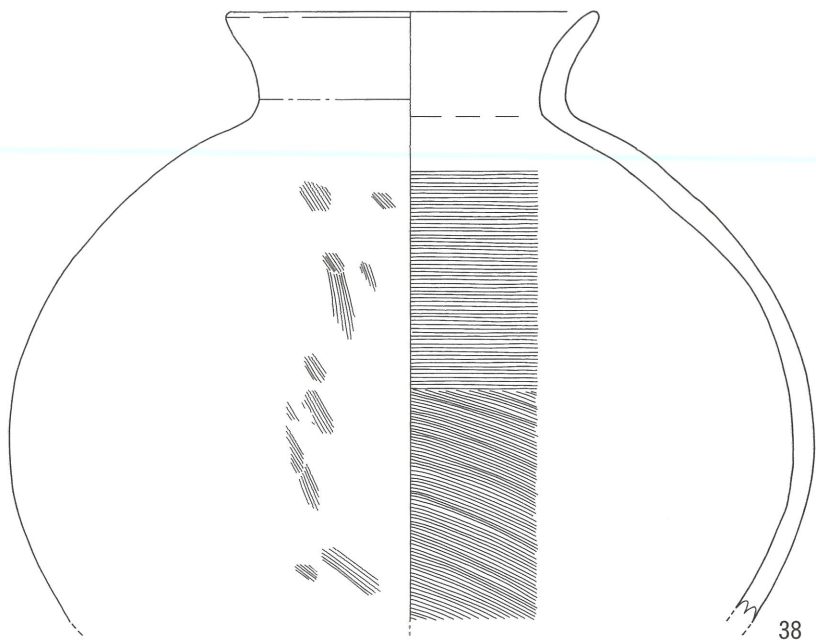
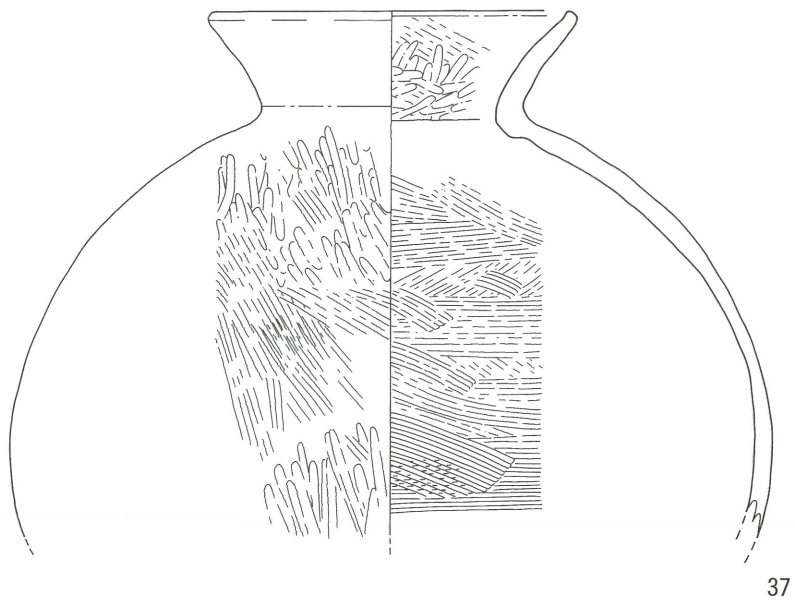
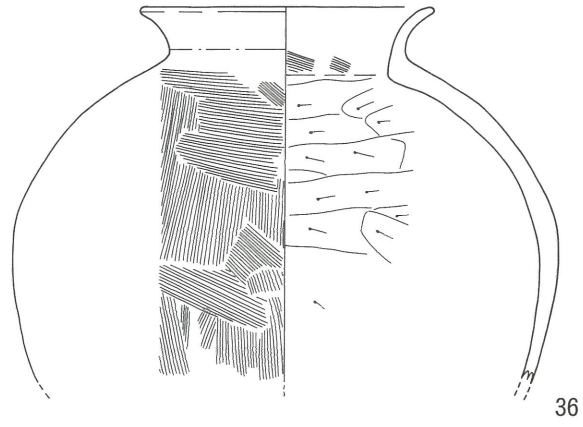
内面にはハケメが顕著に観察できる。

第116図-50~59は高坏である。50~54は坏部が碗状のものである。50は口径11.6cmほどの半球状の坏部に大きく開く脚部を伴うもので、脚部の中位には円形の透かしが3箇所穿孔される。52は脚部の大半を失っているが、残存部分で強く外方向に屈曲する様子が伺えることから、脚部途中で屈曲して端部に至るものと考えられる。また同じく残存部分で円形透かしの一部が観察できる。4方向に穿孔されていたものと考えられる。53は脚部が50に比べて高く脚裾もそれほど開かない。円



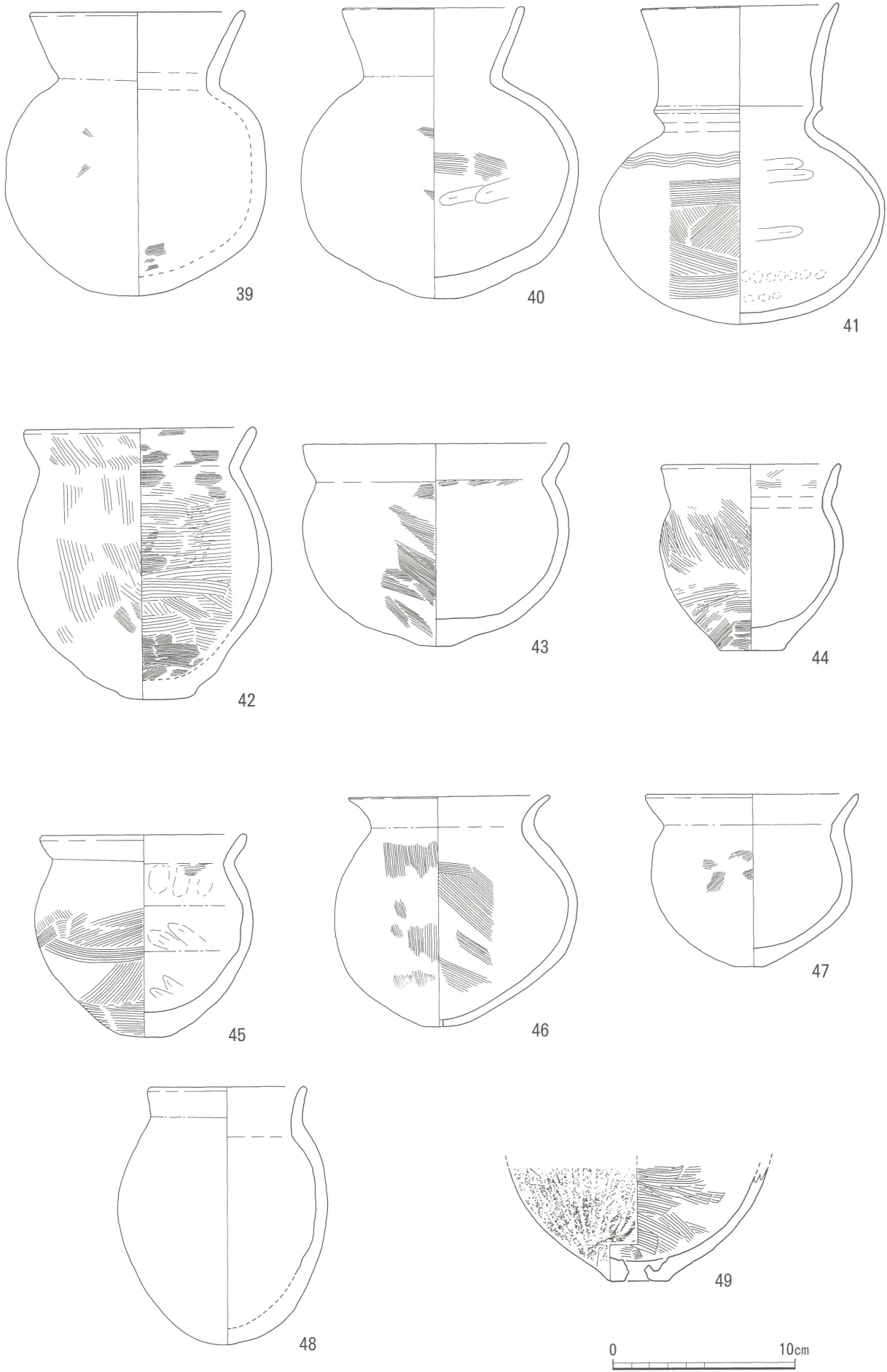
第113図 2D区6層出土遺物実測図6 (S=1/3) (土師器壺)



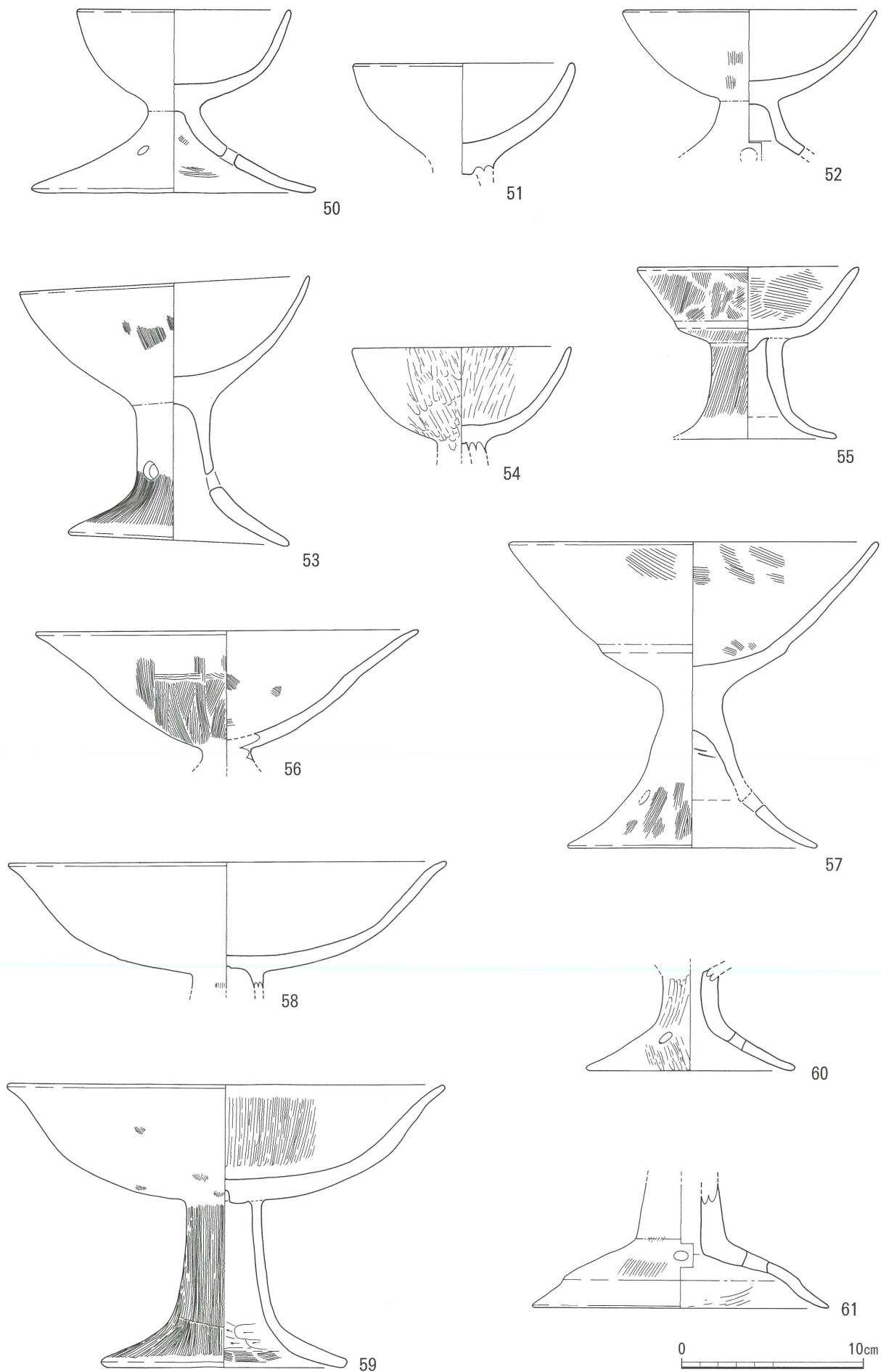


第114図 2 D区6層出土遺物実測図7 (S = 1/3) (土師器甕)

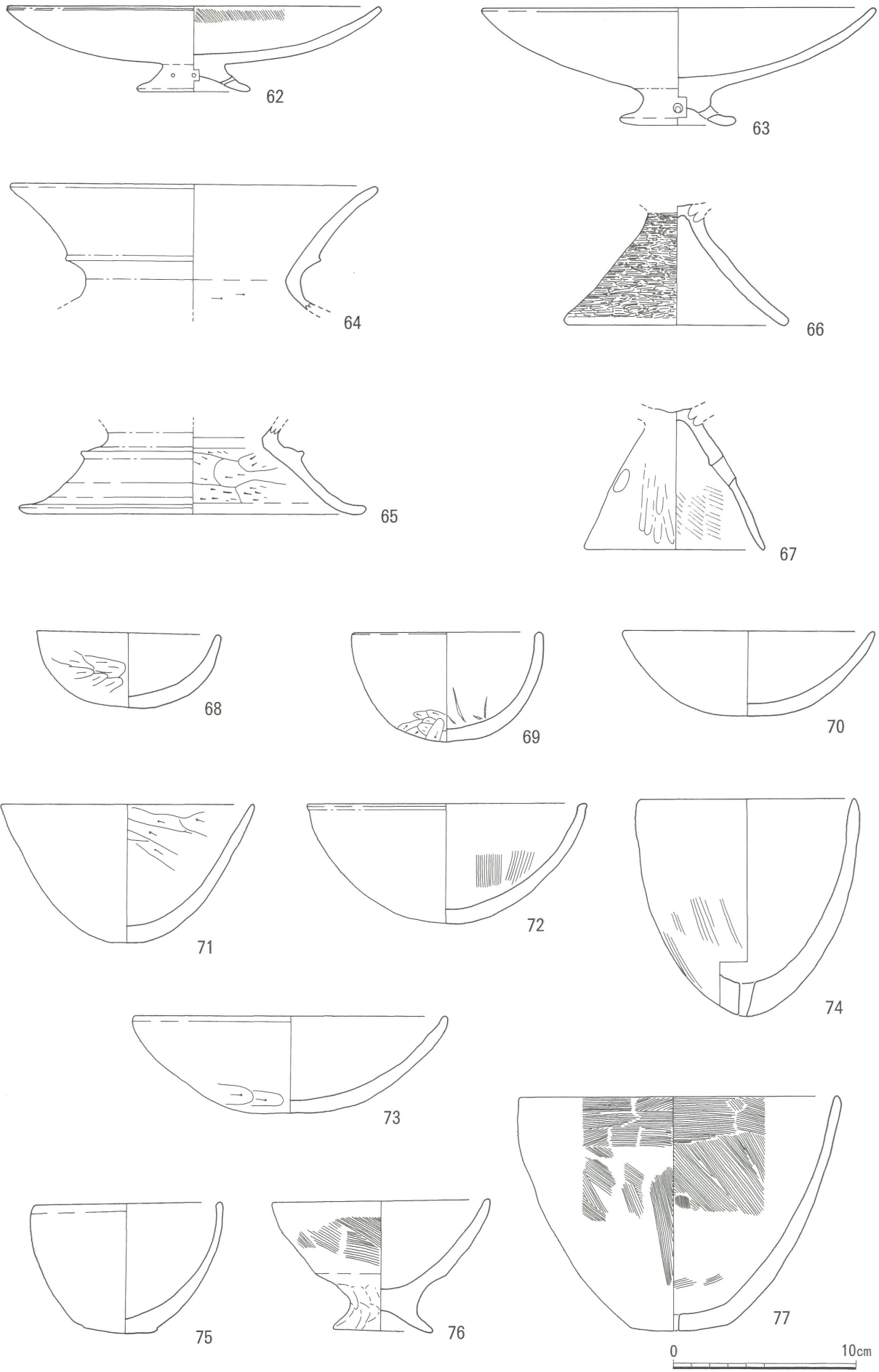




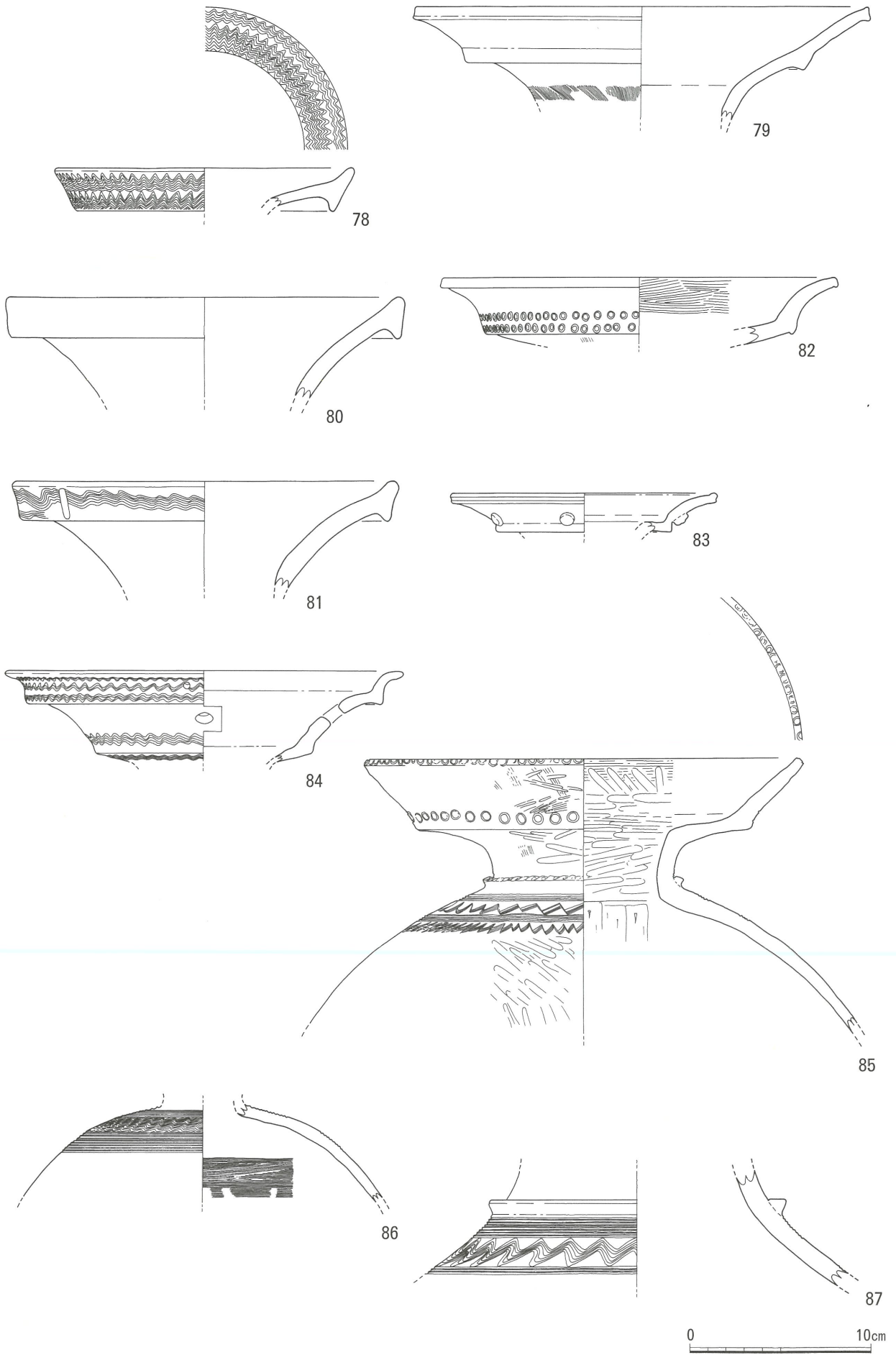
第115図 2 D区 6層出土遺物実測図 8 (S=1/3) (土師器壺、鉢)



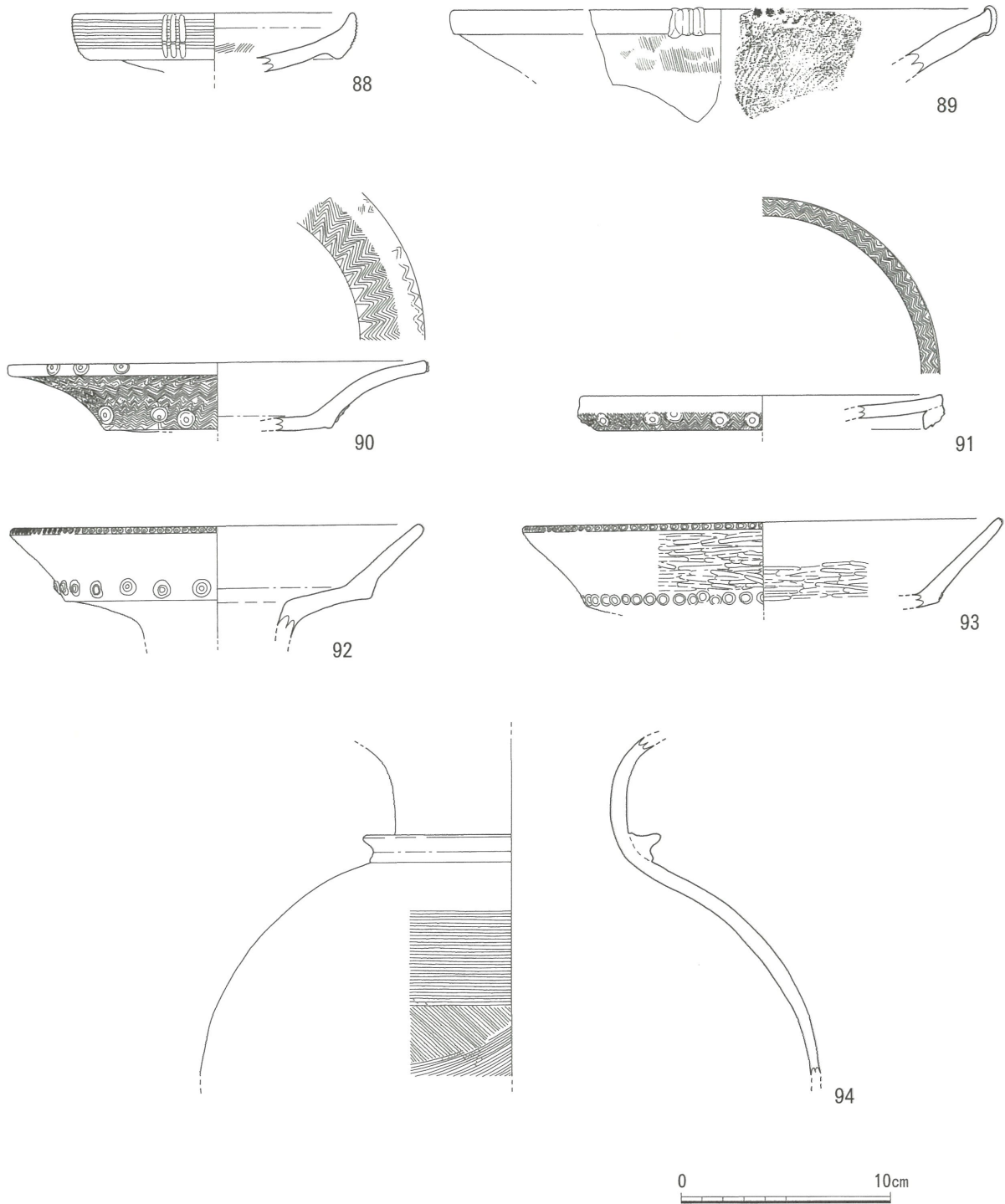
第116図 2 D区 6層出土遺物実測図9 (S=1/3) (土師器高坏、器台)



第117图 2 D区 6层出土遺物実測图10 (S=1/3) (土師器低脚坏、器台、鉢)



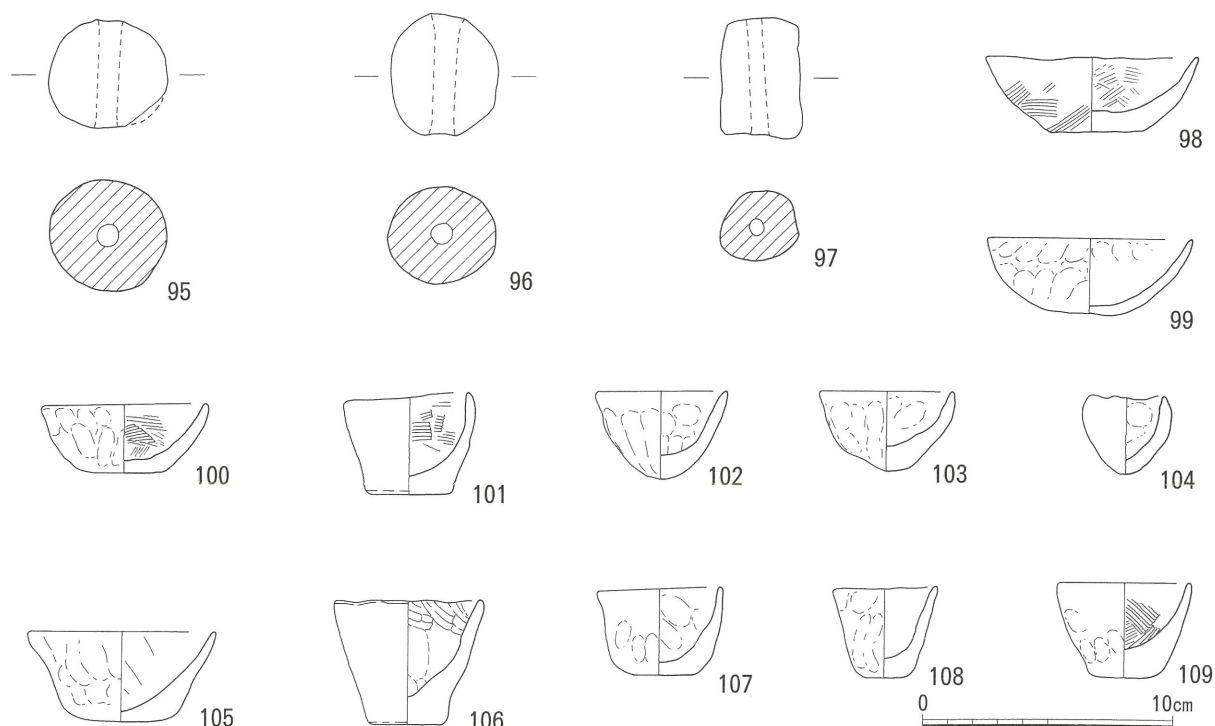
第118图 2 D区 6层出土遗物实测图11 (S=1/3)



第119図 2 D区 6層出土遺物実測図12 (S=1/3)

形の透かしが3箇所穿孔される。54は外面・内面ともヘラミガキが施される。55は坏部が外方に直線的に開くもので、外面・内面ともにハケメである。56は坏部の中位で一度外方に屈曲するものである。58・59は、坏部が丸みを帯びながら立ち上がり、端部にかけて緩やかに外反する形態のものである。また59の脚部は端部近くで外方に屈曲するもので、外面には縦方向のハケメが観察できる。60・61は高坏の脚部と判断した個体である。61はほかのものやや形態の異なるものである。脚端部近くで強く屈曲しそこから丸みを帯びながら端部に至り、円形の透かしが施されている。

第117図-62・63は低脚坏である。62は復元した口径が20.2cm、底径5.8cmを測る。脚部には小さな円孔が2つ並んで穿たれている。64~67は器台形土器である。このうち64・65は鼓形の器台であ

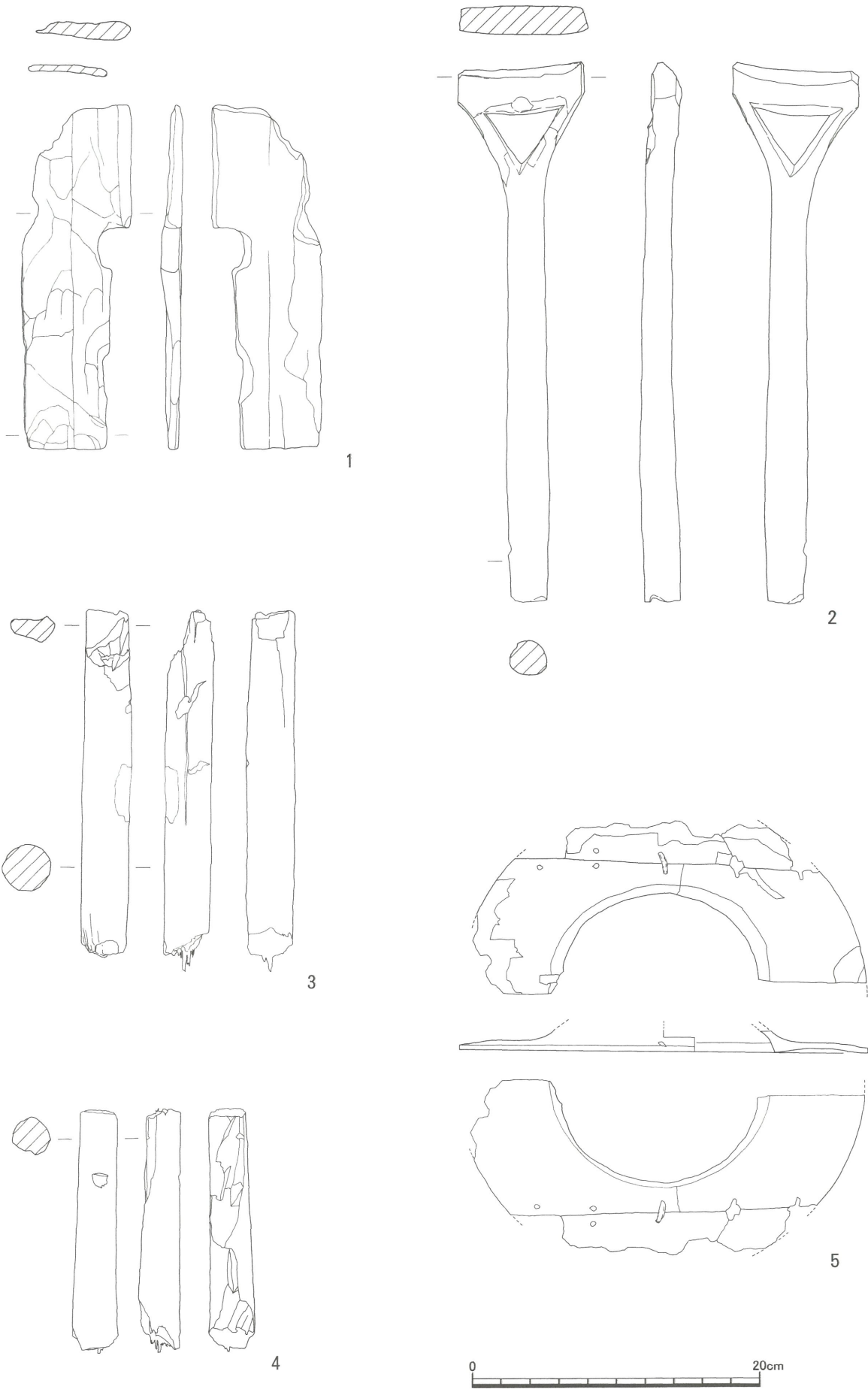


第120図 2D区6層出土遺物実測図13 (S=1/3) (土錘、鉢、手捏土器)

る。64は受部、65は脚部と判断して掲載した。66・67はともに受部を失っている。脚部は「ハ」字状に開くもので、外面はヘラミガキが施される。68～75は一応碗としておく。形態はさまざまで、深いものや浅いもの、底部が平底のものや丸底のものがある。74は底部が穿孔されている。

第118図・第119図は他地域の影響の考えられるやや特殊なものを掲載した。第118図-78～84は壺の口縁部と考えられるものである。78は口縁端部が上下に伸びて平坦面となり、そこに2段に波状文が施される。また端部内面にも幅の違う波状文が2帯廻らされている。81は上下に伸びた口縁端部で作られた平坦面に波状文が施されるほか、浮文が貼り付けられる。82は口縁部が一度屈曲し、そこから反りながら端部に至るものである。外面には竹管文が2段廻らされている。83は端部に沈線が廻らされ、外面に円形の浮文が貼り付けられる。84は壺の口縁部と判断したが別の部位になる可能性も考えられる。途中で二度屈曲して端部に至る個体で、それぞれの段に波状文が廻らされている。中央では円形の透かしも穿孔される。85は壺である。口縁部から胴部の一部までが残っており比較的良好な形態のわかるものである。口縁部は逆「ハ」字状に大きく開き、端部と外面に竹管文が施される。頸部は細く、頸部と胴部の境にはキザミをもった突帯が貼り付けられる。胴肩部には直線文や山形文などが廻らされている。86は壺の胴部と考えられるものである。肩部と判断される部分には、直線文や波状文が廻らされている。87は壺の胴部の可能性も考えられるが、はっきりとしない。第119図-88～93も壺の口縁部である。88は口縁部が肥厚し、外面に凹線文が廻らされる。一部には浮文が貼り付けられる。94は壺の頸部から胴部にかけての部分と判断できるものである。

第120図-95～97は土錘である。95・96は円形、97は円柱状である。98～109は手捏ね土器と判断できるものである。器面には指頭痕が確認できる。



第121図 2D区6層出土遺物実測図14 (S=1/3) (木器、木製品)

第6表 2D区出土遺物観察表

P 1

挿図番号	図版番号	種別	器種	取上No	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
58-1	48	土師器	皿	P-2		14.0	3.3	6.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	精良	良好	浅黄橙	底部は回転糸切り	
58-2	48	土師器	皿	P-3		12.7	3.0	5.8	外：回転ナデ 内：回転ナデ	精良	良好	浅黄橙	底部は回転糸切り	
58-3	48	土師器	皿	P-4		13.0	2.8	6.2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	精良	良好	浅黄橙	底部は回転糸切り	
58-4	48	土師器	皿	P-1		12.8	2.3	7.2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	精良	良好	浅黄橙	底部は回転糸切り	

銭貨計測表

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	名称	初鑄年	銭径(A)/銭径(B) (mm)	銭径(C)/銭径(D) (mm)	銭厚 (mm)	量目 (g)	備考
60-1		P 1		洪武通寶	大明1368	22.25/22.10	18.35/17.70	1.75~1.60	2.99	
60-2		P 1		洪武通寶	大明1368	23.90/23.80	20.85/19.00	1.70~1.55	3.05	
60-3		P 1		洪武通寶	大明1368	23.00/23.50	18.95/17.90	1.40~1.35	2.58	
60-4		P 1		洪武通寶	大明1368	22.60/22.55	19.65/18.15	1.25~1.20	2.05	
60-5		P 1		永樂通寶	大明1408	25.20/25.05	20.40/19.60	1.45~1.35	3.42	
60-6		P 1		開元通寶	南唐960	21.85/21.75	19.60/19.55	1.05~1.00	2.12	
60-7		P 1		景德元寶	北宋1004	25.85/25.05	19.55/18.90	1.60~1.40	3.44	
60-8		P 1		元祐通寶	北宋1086	25.15/25.05	17.90/17.70	1.50~1.35	3.67	
60-9		P 1		治平元寶	北宋1064	23.65/23.25	19.00/18.85	1.20~1.10	2.40	
60-10		P 1		大觀通寶	北宋1107	24.50/24.45	20.25/20.20	1.35~1.10	2.99	
60-11		P 1		景德元寶	北宋1004	23.50/23.40	19.05/18.80	1.05~0.95	2.42	
60-12		P 1		元豐通寶	北宋1078	23.55/23.40	17.95/17.90	1.10~1.05	2.30	
60-13		P 1		元豐通寶	北宋1078	24.90/24.55		19.55~19.25	3.40	
60-14		P 1		元豐通寶	北宋1078	23.40/23.25	18.60/17.80	1.10~1.05	1.37	
60-15		P 1		元豐通寶	北宋1078			1.50~1.45	2.82	
60-16		P 1		元豐通寶	北宋1078			1.35~1.25		
60-17		P 1				22.80/22.75	19.55/18.85	1.25~1.05	1.92	
60-18		P 1				24.65/24.50	20.05/19.50	1.05~1.00	2.29	
60-19		P 1				23.05/22.85	18.75/18.05	1.30~1.15	2.61	
60-20		P 1				25.40/25.05	21.45/21.10	1.55~1.20	2.30	
60-21		P 1		景德元寶	北宋1004	23.80/23.70	18.40/18.35	1.20~1.10	2.60	
60-22		P 1				22.65/22.55	17.95/17.70	1.40~1.10	1.89	
60-23		P 1				22.60/22.50	17.75/17.65	0.90~0.85	1.61	
60-24		P 1				22.95/22.85	18.30/17.90	1.00~0.95	2.05	
60-25		P 1				23.60/23.45	18.15/17.25	0.85~0.75	1.82	
60-26		P 1				24.40/24.25		1.30~1.10	3.32	
60-27		P 1				24.55/24.45	20.60/19.70	1.35~1.25	2.78	
60-28		P 1				24.95/24.70	15.65/15.45	1.55~1.15	2.77	
60-29		P 1				24.00/23.90	16.95/16.45	1.45~1.10	1.87	
60-30		P 1						1.20~0.85		
60-31		P 1				22.60/22.55		1.10~1.05	2.17	
60-32		P 1				22.55/22.50	16.55/15.20	1.15~1.10	2.08	
60-33		P 1				21.50/21.30		1.20~1.15	1.62	
60-34		P 1				23.55/23.40	19.15/18.60	1.40~1.25	2.47	
60-35		P 1				21.90/21.20		1.15~1.10	1.88	
61-36		P 1				23.20/23.00		1.50~1.25	2.64	
61-37		P 1				21.35/21.30		0.70~0.65	1.17	
61-38		P 1				23.25/22.55	23.30/22.85	1.35~1.05	1.66	



插图番号	图版番号	出土地点	层位	名称	初铸年	钱径(A)/钱径(B) (mm)	钱径(C)/钱径(D) (mm)	钱厚 (mm)	量目 (g)	備考
61-39		P 1				23.30/22.85		1.15~0.85	1.41	
61-40		P 1				21.85/21.75		0.95~0.80	1.19	
61-41		P 1				22.80/22.70	17.55/17.00	1.15~1.05	2.54	
61-42		P 1				22.30/22.00		1.30~1.25	2.12	
61-43		P 1				21.25/21.20		1.00~0.90	2.00	
61-44		P 1				22.20/22.10		1.00~0.90	1.36	
61-45		P 1				25.20/25.15	20.45/20.40	1.30~1.25	2.67	
61-46		P 1				23.00/22.70		1.25~0.75	1.20	
61-47		P 1				24.15/24.05	19.15/18.55	1.65~1.30	3.26	
61-48		P 1				22.55/21.70		1.55~0.95	1.66	
61-49		P 1				22.90/22.65		1.20~1.10	2.31	
61-50		P 1				22.85/22.80		1.10~1.05	2.04	
61-51		P 1				21.85/21.60		0.95~0.90	1.51	
61-52		P 1				22.20/22.15		1.35~1.10	2.08	
61-53		P 1				21.65/21.35		0.95~0.85	1.50	
61-54		P 1				22.25/22.00		1.10~0.75	1.46	
61-55		P 1				21.80/21.65		1.05~0.95	1.04	
61-56		P 1				23.05/23.00	16.75/15.75	0.90~0.85	2.17	
61-57		P 1				22.45/22.15		0.90~0.85	1.68	
61-58		P 1				24.10/23.90		1.15~1.00	2.25	
61-59		P 1				22.05/21.85		1.05~1.00	2.12	
61-60		P 1				20.70/20.50		0.85~0.70	1.08	
61-61		P 1				21.50/21.40		1.10~1.05	1.37	
61-62		P 1				21.65/21.35		1.10~0.80	1.73	
61-63		P 1				23.15/23.10		1.10~0.95	2.16	
61-64		P 1				21.95/21.65		1.10~0.90	1.92	
61-65		P 1				21.35/21.30		0.95~0.70	1.16	
61-66		P 1				23.95/23.75	19.20/17.85	1.30~1.25	2.51	
61-67		P 1				21.90/21.85		0.95~0.90	1.13	
61-68		P 1				22.65/22.50		1.00~0.85	1.74	
61-69		P 1				22.50/22.45		0.85~0.80	1.61	
61-70		P 1				22.90/22.65		1.05~0.95	2.42	
62-71		P 1				23.30/22.90	?	18.05~17.90	2.13	
62-72		P 1				22.10/22.05		1.20~1.10	1.65	
62-73		P 1				21.70/21.40		1.30~1.05	1.73	
62-74		P 1				21.65/21.35		1.10~0.70	1.67	
62-75		P 1				21.65/21.60		1.10~1.00	1.75	
62-76		P 1				22.50/22.20		1.00~0.95	1.52	
62-77		P 1				22.00/21.50		0.95~0.85	1.42	
62-78		P 1				22.05/21.85		1.35~1.00	2.06	
62-79		P 1				23.45/23.05	18.45/18.35	1.00~0.90	2.02	
62-80		P 1				21.70/21.30		1.00~0.85	1.55	
62-81		P 1				21.65/21.60		1.00~0.75	2.18	
62-82		P 1				24.35/23.45		1.00~0.95	2.26	
62-83		P 1						0.95~0.90	1.19	
62-84		P 1						1.25~1.05	1.24	
62-85		P 1				23.40/23.20		1.00~0.90	1.96	
62-86		P 1				22.20/21.95		1.10~1.00	1.80	
62-87		P 1				21.30/20.90		1.15~1.10	2.10	
62-88		P 1						0.90~0.80	0.94	
62-89		P 1				20.00/19.90		1.10~1.00	1.71	
62-90		P 1				21.55/21.40		1.00~0.90	2.17	
62-91		P 1				22.00/21.65		1.55~1.50	2.08	
62-92		P 1				21.95/21.60		0.85~0.80	1.09	

2・3層

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
63-1		須恵器	蓋		3層	13.2	2.7		輪状つまみ	外：回転ナデ 内：回転ナデ、回転ナデ後ナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	灰	
63-2		須恵器	坏		3層					外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ、ナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	青灰	
63-3		須恵器	坏		3層					外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	淡黄	
63-4		須恵器	坏		3層					外：回転ナデ、糸切り 内：回転ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良	灰	
63-5		須恵器	坏		3層					外：回転ナデ、糸切り 内：回転ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良	灰	
63-6		須恵器	坏		3層					外：回転ナデ、糸切り 内：回転ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良	灰	
63-7		陶器 (備前)	播鉢		3層					外：ヨコナデ(粗) 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	灰～褐	
63-8		磁器		P-9						外： 内：				
63-9		磁器 (青磁)	碗							外： 内：				
63-10		陶器	徳利			3.4	9.5	4.2		外：ヘラケズリ、糸切り 内：	精良	良好		
63-11		瓦質土器	羽釜	P-11		14.6	16.4	(13.2)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	精良		灰色	
63-12		瓦質土器	播鉢							外：粗いナデ、 内：ナデ、ハケメ、播目(5条以上)	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	にぶい黄橙	
63-13		瓦質土器	播鉢			30.6				外：粗いナデ 内：ナデ、ハケメ、播目(4条)	2～3mm程度の砂粒を多く含む	良	灰	
63-14		土製品	土鍾			現存長 4.3	最大幅 1.0	孔径 0.4		外： 内：	1mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	外面に赤色顔料
63-15		土製品	土鍾	P-50		現存長 4.3	最大幅 1.4	孔径 0.4		外： 内：	1mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	
63-16		土製品	土鍾			現存長 5.5	最大幅 1.4	孔径 0.3		外： 内：	1mm程度の砂粒を含む	良好	灰	
63-17		土製品	土鍾			現存長 4.3	最大幅 1.5	孔径 0.4		外： 内：	1mm程度の砂粒を多く含む。3mm程度の小石を含む	良	にぶい黄橙	

4層

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
64-1	63	弥生土器	甕	2DA区	4層		(4.2)		頸部に沈線が2条巡る	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1～3mm程度の砂粒を多量に含む	良好	橙	石見Ⅰ-3
64-2	63	弥生土器	壺	2DA区	4層	8.2	(4.8)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ナデ	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	にぶい黄褐	石見Ⅱ-1
64-3	63	弥生土器	壺	2DA区	4層	24.4	(5.4)		口縁端部は平坦面をなす	外：ナデ 内：ナデ	1～3mm程度の砂粒を少量含む	良好	にぶい黄橙	石見Ⅱ-1
64-4	63	弥生土器	壺	2DA区			(5.5)		クシ描きの沈線文とヘラ描きの波状文および刺突文を有する	外：ナデ 内：ナデ	1～4mm程度の砂粒を含む	良好	橙～にぶい黄橙	石見Ⅱ-1
64-5	63	弥生土器	甕	2DA区	4層	27.2	(3.9)		口縁端部にキザミ、頸部にヘラ描きの沈線を1条有する	外：ナデ 内：ナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良好	明黄褐	石見Ⅰ-3
64-6		弥生土器	壺	2DA区	4層	17.8	(5.0)		口縁端部にキザミを有する	外：ヨコナデ 内：ナデ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	橙	石見Ⅱ-1
64-7		弥生土器	甕	2DA区			(6.2)	6.2		外：ナデ 内：ナデ	1～3mm程度の砂粒を多量に含む	良好	橙	石見Ⅰ-3～Ⅱ-1底部のみ
64-8		弥生土器	壺	2DA区	4層		(3.7)	6.4		外：ナデ 内：ナデ	密	良好	にぶい黄橙	石見Ⅰ-3～Ⅱ-1底部のみ
64-9	63	弥生土器	壺	2DA区			(7.0)	9.6		外：ナデ 内：ハケメ、ナデ、指頭圧痕	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙～浅黄橙	石見Ⅰ-3～Ⅱ-1底部のみ

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
65-1	50	弥生土器	壺	2DB区		14.5	(8.2)			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1~2mmの砂粒を多く含み、4mmの砂粒を僅かに含む	不良	外 灰白~にぶい橙 内 灰白~淡橙~灰	石見V-2~3
65-2	50	弥生土器	壺	2DB区		17.9	(7.6)			外：ヨコナデ 内：風化により不明	1~4mmの砂粒を多く含む	やや不良	外 灰白~にぶい橙 内 灰白~にぶい橙	後期
65-3		弥生土器	壺	2DB区	4層	24.2	(7.7)			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	後期
65-4	50	弥生土器	甕	2DB区	4層	15.1	(9.6)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多量に含み、2mmの砂粒を僅かに含む	良好	灰白	外面に煤付着 石見V-4
65-5		弥生土器	甕	2DB区	4層	13.8	(5.1)			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	石見V-4
65-6	50	弥生土器	壺	2DB区		11.6	(4.1)			外：ナデ 内：ナデ	石英を含む	良好	黄褐	石見V-4
65-7		弥生土器	壺か甕	2DB区	4層		(2.6)	7.6		外：ナデ 内：ナデ	1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外 灰白~黄灰 内 橙~黒褐	後期
65-8		弥生土器	壺か甕	2DB区	4層		(3.8)	6.9		外：ナデ 内：ナデ	1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外 にぶい赤橙~橙 内 灰褐~黄灰	後期
65-9		弥生土器	壺か甕	2DB区	4層		(4.7)	5.4		外：風化により不明 内：風化により不明	石英を含む	良好	黄褐	後期
65-10	51	弥生土器	甕	2DB区	4層	19.8	(9.4)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい橙	内外面に赤彩 石見V-4
65-11	51	弥生土器	高坏	2DB区	4層	18.8	11.2	10.9		外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	1mmの砂粒を多く含み、2~3mmの砂粒を含む	良好	黄橙	石見V-2~3
65-12	51	弥生土器	高坏	2DB区	4層	19.7	(9.4)			外：ヘラミガキ、ヨコナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~2mmの砂粒を多く含む	やや不良	外 黒~浅橙~灰白 内 浅黄橙~灰白	石見V-4
65-13	51	土師器	広口壺	2DB区	4層	27.8	(3.9)		複合口縁 外面に竹管文を鋸歯状に配置	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 灰白 内 浅黄橙	古墳時代前期
65-14	51	土師器	壺	2DA区			(5.1)		複合口縁 頸部にヘラ記号	外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヘラミガキ後ナデ、ハケメ	1mm程度の砂粒を少量含む	良好	橙	古墳時代前期
65-15	51	土師器	器台	2DA区			(5.2)		筒部が短い器形	外：ヨコナデ 内：ヘラミガキ、ナデ、ヘラケズリ	1~2mmの砂粒を多く含む	良	にぶい黄	古墳時代前期
65-16	51	土師器	壺	2DA区	4層	16.2	(6.3)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	古墳時代中期
65-17	51	土師器	壺	2DA区	4層		(5.2)			外：ナデ 内：ナデ	石英を含む	良好	茶褐	古墳時代
65-18	51	土師器	壺	2DA区		36.6	-8.2		外面の一部にヘラ状工具でひっかくような文様あり	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	精良	良好	淡黄褐	内面の一部に自然釉付着 古墳時代前期
66-1	52	土師器	壺	2DB区	4層	15.0	(11.8)			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm未満の砂粒を多量に含み、1~2mmの砂粒を少量含む	やや不良	浅黄橙	古墳時代中期
66-2		土師器	壺	2DB区	4層	13.3	(7.1)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指頭疔痕、ヘラケズリ	1mm未満の砂粒を多量に含み、1~3mmの砂粒を少量含む	良好	外 灰白~浅黄橙 内 浅黄橙	内外面に赤彩 古墳時代中期
66-3	52	土師器	壺	2DA区	4層	15.0	(6.8)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を含む	良	橙	外面に煤付着 古墳時代中期
66-4	52	土師器	壺	2DB区	4層	16.50	(10.7)			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多量に含み、2mmの砂粒を僅かに含む	良好	外 灰白~明黄褐 内 灰白~明黄褐	外面に煤付着 古墳時代中期
66-5	52	土師器	壺	2DA区		16.6	(11.8)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期
66-6	52	土師器	壺	2DB区	4層	13.4	31.6	8.0	胴部球形丸底	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多量に含み、2mmの砂粒を僅かに含む	良好	灰白	古墳時代中期
66-7	52	土師器	壺	2DB区		17.6	(25.3)		胴部球形丸底	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	不良	黒褐~暗灰黄~にぶい赤褐~橙	古墳時代中期
66-8	52	土師器	壺	2DA区		11.8	(7.7)			外：ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1~2mmの砂粒を含む	やや不良	橙~赤橙	古墳時代中期
66-9	52	土師器	壺	2DB区	4層		(8.5)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 橙~灰 内 橙~灰黄褐	古墳時代中期
67-1	53	土師器	壺	2DA区	4層		(14.4)			外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期
67-2	53	土師器	壺	2DA区		18.4	(8.1)			外：ハケメ、ナデ 内：ナデ、ミガキ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
67-3	53	土師器	壺	2DB区	4層		(8.2)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm未満の砂粒を多く含み、1~3mmの砂粒を少量含む	良好	外 橙~黒褐~黒 内 橙~灰黄橙	口縁部内面に赤彩あり 古墳時代中期

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
67-4	53	土師器	壺	2DA区	4層		(8.4)		外：ハケメ 内：ハケメ、ナデ、ケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良好	外 ぶい黄橙～黒 内 ぶい黄橙	古墳時代中期	
67-5	53	土師器	小形壺	2DA区			(7.4)	2.1	丸底 外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ナデ	1～2mmの砂粒を含む	良好	外 黒～灰黄橙～明黄橙 内 明黄橙～ぶい黄橙 ～灰黄橙	古墳時代中期	
67-6	53	土師器	小形壺	2DA区	4層		(4.9)		丸底 外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
67-7	53	土師器	小形壺	2DA区			(6.6)		頸部に刺突文あり 丸底 外：ハケメ、ナデ 内：工具ナデ、指押圧痕	精良	良好	赤黄	古墳時代中期	
67-8	53	土師器	小形壺	2DA区		10.60	10.5		丸底 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	底部に穿孔 古墳時代中期	
67-9	53	土師器	小形壺	2DB区		7.0	5.8		丸底 外：ヨコナデ、指押圧痕 内：ヨコナデ、指押圧痕	1mmの砂粒を含み、4mmの砂粒を僅かに含む	良好	外 黄橙 内 ぶい黄橙～橙	内外に赤彩あり 古墳時代中期	
67-10	53	土師器	小形壺	2DA区		8.6	9.5		口縁部にキザミ 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ、指押圧痕	2mm程度の砂粒を僅かに含む	良好	外 浅黄橙～ぶい黄橙 内 黒～灰白～橙	外面に赤彩あり 古墳時代中期	
67-11	53	土師器	小形壺	2DB区		7.4	8.9	1.2	丸底 外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm未満の砂粒を大量に含み、1～2mmの砂粒を少量含む	良好	外 明赤褐～橙 内 明赤褐	古墳時代中期	
67-12	53	土師器	小形壺	2DA区	4層		(5.8)		丸底 外：ミガキ 内：ナデ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
67-13	53	土師器	甕	2DA区		18.0	(20.8)		複合口縁 肩部に櫛状工具による波状文・平行線文 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	精良	良好	淡黄褐	外面に煤付着 古墳時代前期	
67-14	53	土師器	甕	2DA区	4層	10.3	14.6		複合口縁 外：ハケメ、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	黄橙	外面に煤付着 古墳時代前期	
68-1	54	土師器	甕	2DB区	4層	25.7	(6.9)		複合口縁 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1mm未満の砂粒を多量に含み、1～2mmの砂粒を少量含む	良好	ぶい黄橙～灰黄橙	外面に煤付着 古墳時代前期	
68-2	54	土師器	甕	2DB区	4層	14.8	(21.5)		複合口縁 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	やや不良	外 灰白～ぶい黄橙～黒 内 浅黄橙	古墳時代前期	
68-3	54	土師器	甕	2DA区	4層	12.6	(10.8)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押圧痕	1mm程度の砂粒を含む	良	ぶい黄橙	外面に煤付着 古墳時代中期	
68-4	54	土師器	甕	2DA区		14.6	(6.9)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、ヘラ状工具による粗いナデ	精良	良好	黒黄	古墳時代中期	
68-5	54	土師器	甕	2DA区	4層	15.0	(6.9)		外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	ぶい黄橙	外面に煤付着 古墳時代中期	
68-6	54	土師器	甕	2DA区		15.6	(5.5)		口縁部に沈線が1条めぐる 外：ナデ、ヨコナデ 内：ハケメ、ナデ、ケズリ	精良	良好	淡黄	古墳時代中期	
68-7	54	土師器	甕	2DA区		15.00	(12.5)		口縁部内面にハケ状工具による刺突文 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ケズリ、工具ナデ	精良	良好	淡赤黄	古墳時代中期	
68-8	54	土師器	甕	2DA区		18.4	(10.2)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	外 橙～明赤褐 内 橙	外面に煤付着 古墳時代中期	
68-9	54	土師器	甕	2DA区		12.2	(13.6)		外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
68-10	54	土師器	甕	2DA区		13.8	19.0		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	古墳時代中期	
68-11	54	土師器	甕	2DA区		15.8	(5.4)		外：ヨコナデ 内：ハケメ、ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
69-1	55	土師器	甕	2DA区		12.0	(7.2)		外：ヨコナデ、ナデ 内：ハケメ、ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含み、4mmの砂粒を僅かに含む	良好	外 黒～ぶい黄橙 内 浅黄橙	外面に煤付着 古墳時代中期	
69-2	55	土師器	甕	2DA区		14.6	(8.8)		外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、指押圧痕、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	外 ぶい黄橙～橙 内 橙	外面に煤付着 古墳時代中期	
69-3	55	土師器	甕	2DA区	4層	19.4	(10.2)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良	浅黄	内面に赤彩、外面に煤付着 古墳時代中期	
69-4	55	土師器	甕	2DA区		10.6	(11.5)		外：ヨコナデ、ハケメ後ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	精良	良好	黒色泥じりの淡赤	体部内面の押圧は工具によるもの 古墳時代中期	
69-5	55	土師器	甕	2DA区	4層	14.6	(21.2)		外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	精良	良好	淡黄	古墳時代中期	
69-6	55	土師器	甕	2DA区	4層	15.6	22.5		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～2mmの砂粒を含む	良好	橙	古墳時代中期	
69-7	55	土師器	甕	2DB区	4層	22.4	(15.2)		肩部にヘラ状工具による刺突文あり 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm未満の砂粒を多く含む	良好	灰白～黄橙	古墳時代中期	
69-8	55	土師器	甕	2DB区	4層	13.6	(5.4)		体部に波状文 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、指押圧痕	1mm程度の砂粒を含む	良好	外 黒 内 ぶい橙～褐灰	外面に煤付着 古墳時代中期	

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
69-9	55	土師器	甕	2DA区		13.20	(3.6)		外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
69-10	55	土師器	甕	2DA区	4層	16.6	(8.0)	頸部内面に沈線が1条巡る	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	橙	古墳時代中期	
69-11	55	土師器	甕	2DA区	4層	18.6	(5.7)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内外面赤彩 古墳時代中期	
70-1	56	土師器	甕	2DA区	4層	12.6	(7.2)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含み、3～4mm程度の小石を僅かに含む	良	橙	外面に煤付着 古墳時代中期	
70-2	56	土師器	甕	2DA区	4層	10.6	(6.6)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	橙～にぶい黄橙	古墳時代中期	
70-3	56	土師器	甕	2DB区	5層	10.1	12.4		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～4mmの砂粒を含む	良好	外 橙～黒褐 内 橙	底部外面に煤付着 古墳時代中期	
70-4	56	土師器	甕	2DA区	4層	12.6	(5.6)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	橙	古墳時代中期	
70-5	56	土師器	甕	2DA区	4層	12.8	(9.5)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
70-6	56	土師器	甕	2DA区	4層	13.0	(5.9)		外：ハケメ 内：ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良好	橙～明黄橙	古墳時代中期	
70-7	56	土師器	甕	2DA区	4層	14.2	(5.4)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、粗いナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	明黄橙	内外面赤彩 古墳時代中期	
70-8		土師器	甕	2DA区		16.6	(4.8)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
70-9	56	土師器	甕	2DA区	4層	16.2	(12.7)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
70-10	56	土師器	甕	2DA区	4層	14.6	(7.7)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	内外面赤彩、外面に煤付着 古墳時代中期	
70-11	56	土師器	甕	2DA区		13.40	25.6		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良好	橙～にぶい黄橙	古墳時代中期	
70-12	56	土師器	甕	2DA区	4層	17.0	(10.6)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を僅かに含む	良	浅黄	内外面赤彩、外面に煤付着 古墳時代中期	
70-13	56	土師器	甕	2DA区		14.0	(9.0)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
70-14	56	土師器	甕	2DA区	4層	14.2	(7.6)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
71-1	57	土師器	甕	2DA区		15.0	(8.9)		外：工具ナデ、ハケメ 内：工具ナデ、ナデ、ケズリ	1～2mmの砂粒を含む	良好	白黄	古墳時代中期	
71-2	57	土師器	甕	2DA区	4層	21.8	(7.9)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	茶褐	古墳時代中期	
71-3	57	土師器	甕	2DA区		18.6	(9.0)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ナデ、ケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐	古墳時代中期	
71-4		土師器	甕	2DA区	4層	14.0	(7.8)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押圧痕、ヘラケズリ	2～5mm程度の小石を含む	良	橙	内外面赤彩、外面に煤付着 古墳時代中期	
71-5	57	土師器	甕	2DB区	4層	15.5	(5.7)	肩部にヘラ状工具による刺突文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多量に含む	良好	浅黄橙	古墳時代中期	
71-6	57	土師器	甕	2DA区	4層	15.4	(9.4)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	橙	古墳時代中期	
71-7	57	土師器	甕	2DB区		16.8	(13.8)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mmの砂粒を多量に含む	良好	外 明赤褐～にぶい橙～褐 内 にぶい黄橙～橙～褐灰	外面に煤付着 古墳時代中期	
71-8	57	土師器	甕	2DA区	4層	17.2	(11.2)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ケズリ、ナデ	1～3mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡赤黄	古墳時代中期	
71-9	57	土師器	甕	2DA区		18.6	(8.8)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1～2mmの砂粒を含む	良好	外 明黄橙 内 浅黄	口縁部外面に煤付着 古墳時代中期	
71-10		土師器	甕	2DA区	4層	16.40	(5.1)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	黄橙	古墳時代中期	
71-11		土師器	甕	2DA区	4層	13.4	(5.0)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内外面赤彩、外面に煤付着 古墳時代中期	
71-12		土師器	甕	2DA区	4層	16.0	(4.7)		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	内面の一部に工具痕が残る 古墳時代中期	
71-13	57	土師器	甕	2DA区	4層	17.6	(11.0)		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押圧痕、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を僅かに含む	良	橙	古墳時代中期	

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
72-1	58	土師器	甕	2DA区		14.6	11.3		外:ヨコナデ、指押圧痕、ハケ 内:メ、工具ナデ ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	1～3mmの砂粒 を多く含む	良好	淡黄褐	古墳時代中期	
72-2	58	土師器	甕	2DA区	4層	17.6	(10.7)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～4mm程度の 砂粒を含む	良好	橙～明黄褐	古墳時代中期	
72-3	58	土師器	甕	2DA区	4層	13.6	(8.3)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の 砂粒を多く含む	良	橙	外面に赤彩 古墳時代中期	
72-4	58	土師器	甕	2DA区	4層	9.6	(6.1)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の 砂粒を含む	良好	橙	古墳時代中期	
72-5	58	土師器	甕	2DA区	4層	18.2	(7.7)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	黄橙	古墳時代中期	
72-6	58	土師器	甕	2DA区		13.8	(12.0)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1～2mmの砂粒 を含む	良	にふい赤黄	古墳時代中期	
72-7	58	土師器	甕	2DA区	4層	17.2	(8.3)		外:ナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の 砂粒を含む	良好	橙	7～8 C	
72-8	58	土師器	甕	2DA区	4層	15.6	(6.2)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 を僅かに含む	良	橙	7～8 C	
72-9	58	土師器	甕	2DA区	4層	17.8	(5.8)		外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 を僅かに含む	良	浅黄	内面に赤彩、外 面に煤付着 7～8 C	
72-10	58	土師器	甕	2DA区	4層	21.80	(4.9)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	7～8 C	
72-11	58	土師器	壺か甕	2DA区	4層		(6.6)		外:タタキ、ハケメ 内:ヘラケズリ	1～4mmの砂粒 を多く含む	良好	暗茶褐	古墳時代前期	
72-12	58	土師器	壺か甕	2DA区			(3.1)		外:ナデ 内:ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	底部のみ 底部外面に葉脈 の圧痕	
72-13	58	土師器	壺か甕	2DA区			(8.6)		外:ハケメ、ナデ 内:ヨコナデ	精良	良好	赤黄	底部のみ 底部に穿孔	
72-14	58	土師器	壺か甕	2DA区			(6.7)		外:ハケメ 内:ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	底部のみ	
72-15	58	土師器	低脚付碗	2DB区	4層	10.7	6.9	5.9	外:ヨコナデ、ハケメ 内:摩滅のため不明	1～3mmの砂粒 を多く含む	良好	外 にふい黄橙 内 にふい黄橙 ～褐灰		
72-16	58	土師器	低脚付碗	2DA区			(6.4)	6.2	外:ナデ、ヨコナデ 内:ミガキ、ナデ	1～2mmの砂粒・ 角閃石を含む	良好	にふい赤橙		
72-17	58	土師器	低脚付碗	2DA区		10.5	(5.3)		外:ナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ナデ	1～2mmの砂粒 を含む	良好	外 にふい赤橙～黒 内 にふい黄橙		
72-18	58	土師器	低脚環	2DB区			(5.2)	8.7	外:ナデ 内:ナデ	1mm程度の砂粒を 多量に含み、2mmの 差流を僅かに含む	やや不 良	外 橙 内 にふい黄橙 ～褐灰～橙	古墳時代前期	
73-1	59	土師器	低脚付碗	2DA区		7.6	(4.9)		外:ナデ、ハケメ 内:ヘラミガキ、ハケメ	精良	良好	淡赤黄	古墳時代中期	
73-2	59	土師器	低脚付碗	2DA区	4層		(3.3)	6.4	外:ナデ 内:ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
73-3	59	土師器	低脚付碗	2DA区			(5.1)	6.0	外:ナデ、ハケメ、ヘラミガキ 内:ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
73-4	59	土師器	低脚付碗	2DA区	4層		(4.3)	10.2	外:ナデ、ハケメ 内:ナデ、ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
73-5	59	土師器	低脚付碗	2DB区	4層		(3.3)	7.4	外:ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	1～2mmの砂粒 を多く含む	良好	橙	古墳時代中期	
73-6	59	土師器	低脚付碗	2DA区	4層		(3.2)	7.0	外:ナデ 内:ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
73-7	59	土師器	高環	2DA区		18.8	(5.4)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、丁寧なナデ	1～2mmの砂粒 を含む	良好	赤黄	古墳時代中期	
73-8	59	土師器	高環	2DA区		16.0	(6.1)		外:ナデ、ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、工具ナデ	1mm前後の砂粒 を多く含む	良	にふい黄赤	古墳時代中期	
73-9	59	土師器	高環	2DA区	4層	21.0	(4.3)		外:ナデ、ハケメ 内:ナデ、ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
73-10	59	土師器	高環	2DA区	4層	16.6	(6.6)		外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ	1～3mm程度の 砂粒を含む	良	橙	古墳時代中期	
73-11	59	土師器	高環	2DA区	4層		(13.0)		外:ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内:ナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ	1～2mm程度の 砂粒を多く含む	良	浅黄	内外面赤彩 古墳時代中期	
73-12	59	土師器	高環	2DA区	4層	14.8	(5.0)		外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ	1～3mm程度の 砂粒を僅かに含む	良	浅黄橙～にふい 黄橙	古墳時代中期	

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
73-13	59	土師器	高坏	2DB区		19.0	(7.7)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ナデ	1～4mmの砂粒を含む	良好	橙	古墳時代中期
73-14	59	土師器	高坏	2DA区		15.0	(6.9)			外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ、ヘラミガキ	1～3mmの砂粒を含む	良好	淡赤黄	古墳時代中期
73-15	59	土師器	高坏	2DA区	4層	17.8	(5.6)			外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良	黄橙	古墳時代中期
73-16	59	土師器	高坏	2DB区		16.6	(10.1)			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	黄橙	内外面赤彩 古墳時代中期
73-17	59	土師器	高坏	2DA区	4層	17.8	(5.8)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良	黄橙	内面の一部に煤 付着 古墳時代中期
73-18	59	土師器	高坏	2DA区	4層	13.40	(4.9)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1～3mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	古墳時代中期
73-19	60	土師器	高坏	2DA区	4層	20.5	(7.9)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1～4mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	古墳時代中期
73-20	60	土師器	高坏	2DA区	4層	16.0	11.4	10.6		外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	古墳時代中期
73-21	59	土師器	高坏	2DA区	4層	20.4	(5.4)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	古墳時代中期
73-22	60	土師器	高坏	2DA区	4層	17.0	(12.5)			外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含む	良	橙	古墳時代中期
74-1		土師器	高坏	2DA区	4層	24.0	(7.3)			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
74-2		土師器	高坏	2DB区	4層	19.7	(6.7)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒を少量含み、3mm程度の砂粒を僅かに含む	良好	外 橙～黄橙 内 黄橙～黒	古墳時代中期
74-3		土師器	高坏	2DA区		16.8	(6.6)			外：ナデ、ヨコナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ、丁寧なナデ	1～2mmの砂粒を含む	良	にぶい赤黄	古墳時代中期
74-4		土師器	高坏	2DA区	4層		(5.9)			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
74-5		土師器	高坏	2DA区			(7.2)			外：ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒を含み、5ミリ程度の砂粒を僅かに含む	良好	橙	古墳時代中期
74-6		土師器	高坏	2DA区	4層		(4.4)			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2～4mm程度の砂粒を僅かに含む	良	黄橙	内外面の一部に煤 付着 古墳時代中期
74-7		土師器	高坏	2DA区	4層		(1.4)			外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	密	良好	橙褐	古墳時代中期
74-8		土師器	高坏	2DA区	4層		(5.0)			外：風化により不明 内：ナデ、ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
74-9		土師器	高坏	2DA区	4層		(4.6)			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラミガキ、ハケメ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	橙	古墳時代中期
74-10		土師器	高坏	2DA区	4層		(3.2)			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
74-11		土師器	高坏	2DA区	4層		(2.5)			外：ナデ 内：ナデ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
74-12		土師器	高坏	2DA区			(9.8)			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1～2mmの砂粒を含む	良好	にぶい黄	古墳時代中期
74-13	60	土師器	高坏	2DA区	4層		(11.0)			外：ヘラミガキ、ヨコナデ 内：ヘラミガキ、ヘラケズリ、ハケメ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	浅黄	内外面赤彩 古墳時代中期
74-14	60	土師器	高坏	2DA区	4層		(9.6)			外：ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ 内：ヘラケズリ、ヘラミガキ	1mm程度の砂粒を含む	良	にぶい黄橙	内外面赤彩 古墳時代中期
74-15	60	土師器	高坏	2DA区	4層		(8.9)			外：ヨコナデ、ハケメ、指押痕 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を僅かに含む	良	にぶい黄	外面に赤彩 古墳時代中期
74-16		土師器	高坏	2DA区	4層	18.4	(6.0)			外：ハケメ、ナデ 内：ナデ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
74-17		土師器	高坏	2DA区	4層	15.2	(4.8)			外：ハケメ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	内外面ともに口縁 部の一部に煤付着 古墳時代中期
74-18	60	土師器	高坏	2DA区	4層	12.3	(3.6)			外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ハケメ、ナデ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	橙	古墳時代中期
74-19	60	土師器	高坏	2DB区	4層	11.2	11.2	12.2		外：ハケメ 内：摩滅のため不明	1～3mmの砂粒を多く含む	不良	外 浅黄橙 内 橙	古墳時代中期
74-20	60	土師器	高坏	2DA区	4層		(6.0)	12.8		外：ヨコナデ 内：ハケメ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	外 赤橙 内 にぶい黄橙	外面に赤彩 古墳時代中期

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
74-21		土師器	高坏	2DA区		(5.4)	12.2		外：ナデ、ハケメ 内：ケズリ、ヨコナデ	1～2mmの砂粒を含む	やや不良	橙	古墳時代中期	
74-22	60	土師器	高坏	2DA区		(5.9)	15.9		外：ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	精良	良好	赤褐	古墳時代中期	
75-1		土師器	高坏	2DA区	4層	(6.0)			外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	1cm大の小礫を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
75-2	60	土師器	高坏	2DB区	4層	(6.2)			外：ナデ 内：ナデ	1mm未満の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙	古墳時代中期	
75-3	60	土師器	高坏	2DA区		(10.2)			外：ヘラミガキ、ハケメ、ナデ 内：ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	にぶい黄褐	古墳時代中期	
75-4	60	土師器	高坏	2DA区	4層	(8.2)			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
75-5	60	土師器	高坏	2DA区	4層	(9.1)			外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
75-6	60	土師器	高坏	2DB区	4層	(8.8)	12.3		外：ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内：ナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ	2～4mmの砂粒を少量含む	良好	橙	古墳時代中期	
75-7	60	土師器	高坏	2DA区	4層	(8.5)	11.4		外：ハケメ、ナデ 内：ナデ、ケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
75-8	60	土師器	高坏	2DA区	4層	(6.4)	11.4		外：ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含む	良	橙	古墳時代中期	
75-9	60	土師器	高坏	2DA区	4層	(6.2)			外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
75-10	60	土師器	高坏	2DA区	4層	(6.7)	13.2		外：ナデ 内：ヘラケズリ、ナデ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
75-11	61	土師器	高坏	2DB区	5層	(12.1)	15.2	脚裾部に5方向(復元・現存は2)の円形透かし	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ後ナデ、ヨコナデ	1mmの砂粒を含み、3～4mmの砂粒を僅かに含む	良好	外 橙～にぶい黄橙 内 橙～浅黄橙	古墳時代中期	
75-12	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(10.9)	11.4		外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含む	良	にぶい黄橙	内外面赤彩 古墳時代中期	
75-13	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(7.5)	11.8		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	古墳時代中期	
75-14	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(9.2)	12.5		外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含む	良	橙	古墳時代中期	
75-15	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(8.5)	10.6		外：ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	1mm程度の砂粒を多く含み、5mm程度の小石を僅かに含む	良	橙	古墳時代中期	
75-16	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(8.1)	12.6		外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	外面に赤彩 古墳時代中期	
75-17	61	土師器	高坏	2DA区		(5.9)	9.4		外：ヘラミガキ 内：ヘラケズリ、ナデ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
75-18	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(8.9)	10.5		外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ、ヨコナデ	1～3mm程度の砂粒を含む	良	橙	古墳時代中期	
75-19	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(9.0)	13.4		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を僅かに含む	良	黄橙	内外面赤彩 古墳時代中期	
75-20	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(7.8)	12.2		外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
75-21	61	土師器	高坏	2DA区		(7.2)	8.5		外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	2mmの砂粒を僅かに含む	良好	橙	内外面赤彩 古墳時代中期	
75-22	61	土師器	高坏	2DA区		(11.8)	12.4		外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	古墳時代中期	
76-1	61	土師器	高坏	2DA区	4層	(7.0)	11.3		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良	浅黄	内外面赤彩 古墳時代中期	
76-2	61	土師器	高坏	2DA区		(8.8)	10.6		外：ミガキ、ヨコナデ 内：ケズリ、ヨコナデ	1～2mm前後の砂粒を含む	良好	浅黄褐	古墳時代中期	
76-3	61	土師器	高坏	2DA区		(9.3)			外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期	
76-4	61	土師器	高坏	2DA区		(5.4)	10.2		外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ、ケズリ	1～2mmの砂粒を含む	良好	淡黄褐	古墳時代中期	
76-5	61	土師器	高坏	2DA区		(7.2)	11.3		外：ナデ、ハケメ 内：ヘラケズリ、ナデ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	淡黄橙	古墳時代中期	
76-6	61	土師器	高坏	2DA区		(6.4)	5.8		外：ミガキ、ナデ、ハケメ 内：ケズリ、ナデ	精良	良好	淡黄褐	古墳時代中期	



挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
76-7	61	土師器	高坏	2DA区			(10.4)	15.2		外：ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内：ケズリ、ヨコナデ、ハケメ	1mm前後の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	古墳時代中期
76-8	61	土師器	高坏	2DA区			(9.1)			外：ハケメ、ナデ 内：ミガキ、ケズリ、ナデ	1～2mmの砂粒を含む	良	にぶい赤橙	古墳時代中期
76-9	61	土師器	高坏	2DA区			(8.9)	12.8		外：ハケメ、ナデ、ヨコナデ 内：ヘラケズリ、ヨコナデ	1～2mmの砂粒を含む	良好	黄橙	古墳時代中期
76-10	61	土師器	高坏	2DA区	4層		(8.3)			外：ナデ、ヘラナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	古墳時代中期
76-11	61	土師器	高坏	2DA区	4層		(6.9)	14.0	脚柱部に4方向の円形透かし	外：ハケメ、ナデ、ヨコナデ 内：ヘラケズリ、ハケメ	1mm程度の砂粒を含む	良	橙	古墳時代中期
76-12	61	土師器	器台	2DA区			(4.6)	10.8		外：ハケメ、ナデ 内：ケズリ、ハケメ、ナデ	1mm前後の砂粒を多く含む	良好	黄白	古墳時代前期
76-13	61	土師器	高坏	2DA区	4層		(9.4)	15.0		外：ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を含む	良	にぶい黄橙	外面に赤彩 古墳時代中期
76-14	61	土師器	高坏	2DA区			(8.0)	15.4	脚柱部に4方向の円形透かし	外：ナデ、ヨコナデ 内：ケズリ、ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	良	にぶい黄橙	古墳時代中期
76-15	61	土師器	器台	2DA区		9.1	(5.9)		脚部に円形透かし	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含み、4mmの砂粒を僅かに含む	良好	橙	古墳時代前期
76-16	61	土師器	器台	2DB区			(8.5)	10.9	脚部に3方向の円形透かし	外：ヘラミガキ、ハケメ後ヨコナデ 内：ヨコナデ	1mm未満の砂粒を多量に含み、2mmの砂粒を僅かに含む	良好	浅黄橙	古墳時代前期
76-17	61	土師器	鉢	2DA区	4層	13.4	(9.5)			外：ナデ 内：ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	黄褐	
76-18	61	土師器	鉢	2DA区		15.6	6.1	7.2	平底	外：指ナデ 内：指ナデ	1～3mmの砂粒を含む	良好	淡黄褐	手握ね成形によるもの。底部に葉脈の圧痕
76-19	61	土師器	鉢	2DA区	4層	15.8	6.3	9.2	平底	外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ	石英を含む	良好	橙褐	
76-20	61	手握土器	甕	2DA区	4層	6.4	4.9			外：指ナデ 内：指ナデ、ヘラケズリ	石英を含む	良好	橙褐	手握ね成形によるもの
76-21	61	手握土器	碗	2DA区		3.1	2.3			外：ナデ 内：工具ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	赤褐	手握ね成形によるもの
76-22	61	手握土器	碗	2DA区		3.5	2.7			外：指ナデ 内：指ナデ	1mm前後の砂粒を含む	良好	淡黄	手握ね成形によるもの
77-1	62	土師器	鉢	2DA区		11.0	5.9	3.2	平底	外：ヨコナデ、工具ナデ 内：工具ナデ	精良	良好	赤黄	底部にへら記号
77-2	62	土師器	鉢	2DA区			(5.8)	6.6	平底	外：ナデ 内：ハケメ、ナデ	石英を含む	良好	橙褐	
77-3	62	土師器	鉢	2DA区			(3.9)	9.0	平底	外：ハケメ 内：ハケメ、ケズリ	石英を含む	良好	橙褐	
77-4	62	土師器	碗	2DA区		10.4	6.2			外：ナデ、タタキ 内：ナデ	石英を含む	良好	黄褐	
77-5	62	手握土器	碗	2DA区		7.4	5.2			外：ナデ 内：指ナデ	石英を含む	良好	橙褐	手握ね成形によるもの
77-6	62	土製品	土鍾	2DB区	3層	現存長 3.8	最大幅 1.2	孔径 0.5	管状土鍾 円柱形	外： 内：	密。1mm以上の砂粒を僅かに含む。	やや不良	にぶい黄橙～橙	
77-7	62	土製品	土鍾	2DB区	2・3層	現存長 4.4	最大幅 1.3	孔径 0.3	管状土鍾 円柱形	外： 内：	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	黄灰～灰黄	
77-8	62	土製品	土鍾	2DB区	3層	現存長 5.0	最大幅 1.1	孔径 0.4	管状土鍾 円柱形	外： 内：	1mm程度の砂粒を含む	やや不良	赤橙～橙～黒	外面に赤彩
77-9	62	土製品	土鍾	2DB区	2・3層	現存長 4.6	最大幅 1.2	孔径 0.3	管状土鍾 円柱形	外： 内：	1mm前後の砂粒を少量含む	良	にぶい橙～灰白～黒	
77-10	62	土製品	土鍾	2DB区	4層	現存長 4.6	最大幅 2.0	孔径 0.6	管状土鍾 中部位がふくらむ	外： 内：	1mm程度の砂粒を含む	良	灰白～橙	赤彩あり
77-11	62	土製品	土鍾	2DA区		現存長 4.8	最大幅 1.5	孔径 0.4	管状土鍾 中部位がふくらむ	外： 内：	1mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	
77-12	62	土製品	土鍾	2DB区	2・3層	現存長 5.6	最大幅 1.4	孔径 0.4	管状土鍾 中部位がふくらむ	外： 内：	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	褐灰～にぶい橙	
77-13	62	土製品	土鍾	2DB区	2・3層	現存長 4.5	最大幅 1.3	孔径 0.4	管状土鍾 円柱形	外： 内：	1mm程度の砂粒を僅かに含む	やや不良	黒～赤褐～橙	
77-14	62	土製品	土鍾	2DB区	4層	現存長 3.3	最大幅 2.1	孔径 0.6	管状土鍾 中部位がふくらむ	外： 内：	1mm程度の砂粒を含み、2mmの砂粒を僅かに含む	良	浅黄橙	赤彩あり

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
77-15	62	土製品	土錘	2DB区	1~3層	現存長 4.2	最大幅 1.2	孔径 0.3	管状土錘 円柱形	外： 内：	1~2mm程度の 砂粒を含む	良好	淡黄	赤彩あり
77-16	62	土製品	土錘	2DB区		現存長 4.1	最大幅 1.3	孔径 0.5	管状土錘 円柱形	外： 内：	1mm以下の砂粒 を含む	やや 不良	灰白~褐灰~に ぶい黄橙	赤彩あり
77-17	62	土製品	土錘	2DB区		現存長 4.8	最大幅 1.5	孔径 0.5	管状土錘 中部位がふくらむ	外： 内：	1mmの砂粒を僅 かに含む	良	灰白~灰	
77-18	62	土製品	土錘	2DB区	4層	現存長 5.6	最大幅 4.9	孔径 1.8	管状土錘 中部位がふくらむ	外： 内：	1~3mmの砂粒 を含む	良好	灰褐~黒	
77-19	62	土製品	土錘	2DB区	4層	現存長 5.6	最大幅 4.9	孔径 1.8	管状土錘 中部位がふくらむ	外： 内：	1~3mmの砂粒 を含む	良好	灰褐~黒	
78-1	63	土師器	低脚付碗	2DA区		(5.3)	7.4			外：ハケメ、ナデ 内：ヘラケズリ後ナデ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	橙	
78-2	63	土師器	低脚付碗	2DA区			(5.3)			外：ハケメ後ナデ、ナデ 内：ヘラケズリ後ナデ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	橙~にぶい黄橙	
78-3	63	土師器	低脚付碗	2DA区	4層	10.9	7.3	7.8		外：ヨコナデ、ハケメ後ヘラミガキ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の 砂粒を含む	良	橙	
78-4	63	土師器	低脚杯	2DA区	4層	16.0	7.3	7.6		外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1~3mm程度の 砂粒を多く含む	良	黄橙	古墳時代前期
78-5	63	土師器	壺	2DA区	4層	25.2	(13.9)		複合口縁 口縁部に平坦面を 有する	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1~2mm程度の砂粒 を多く含む	良好	黄橙~明黄褐	古墳時代前期
78-6		土師器	壺	2DA区	4層	12.0	(4.5)		複合口縁	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	橙~にぶい黄橙	古墳時代前期
78-7	63	土師器	甕	2DA区	4層	14.6	(8.5)			外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ、タタキ、ヘラケズリ	1~3mm程度の 砂粒を含む	良好	橙~浅黄橙	
78-8	63	土師器	鉢	2DA区	4層	10.6	8.8	5.0		外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	橙	
78-9	63	土師器	小形丸底壺	2DA区	4層	7.6	7.9			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	橙~黄橙	
78-10	63	土師器	小形丸底壺	2DA区	4層	9.4	10.6		口縁部内面に繩の 圧痕がめぐる	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1~3mm程度の砂粒 を含む	良好	橙	
78-11	63	土師器	小形丸底壺	2DA区	4層	9.0	12.5			外：ハケメ 内：風化により不明瞭	1mm程度の砂粒 を含む	良好	橙	
78-12	63	土師器	小形鉢	2DA区	4層	9.5	9.2			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	にぶい黄橙~浅 黄	底部に黒斑あり
78-13	63	手捏土器	壺	2DA区	4層	7.8~8. 5	10.4	4.2	手捏ね成形	外：ナデ 内：ナデ	1~2mm程度の砂粒 を多く含む	良好	にぶい黄橙~浅 黄	
78-14	63	手捏土器	碗	2DB区		5.1	3.3		手捏ね成形	外：指押圧痕 内：指押圧痕	1mm程度の砂粒 を僅かに含む	良	橙	
78-15	63	手捏土器	碗	2DA区		4.0	3.0		手捏ね成形	外：ナデ 内：ナデ	1mm以下の砂粒 を含む			
79-1		須恵器	坏蓋	2DA区	4層	12.6	2.1		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密。1mm以上の 砂粒を少量ふく む	良好	灰	8C~9C前半
79-2		須恵器	坏蓋	2DA区	4層	19.0	3.3		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	2mm以下の砂粒 を含む	良好	灰	8C~9C前半
79-3	64	須恵器	坏蓋	2DA区	4層	13.2	2.9		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C~9C前半
79-4	64	須恵器	坏蓋	2DA区	4層	15.8	2.8		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C~9C前半
79-5	64	須恵器	坏蓋	2DB区	4層	14.0	2.2		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C~9C前半
79-6		須恵器	坏蓋	2DA区	4層	12.8	3.2		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C~9C前半
79-7	64	須恵器	坏蓋	2DB区	4層	15.8	3.6		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	1~3mmの砂粒を 少量含む	良	青灰	8C~9C前半
79-8		須恵器	坏蓋	2DA区	4層		(1.8)		輪状摘み	外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ	1~2mm程度の砂粒 を多く含む	良	青灰	8C~9C前半
79-9		須恵器	坏蓋	2DA区	4層		(2.7)		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C~9C前半
79-10		須恵器	坏蓋	2DB区	4層		(2.3)		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ	1mm程度の砂粒 を少量含む	良	青灰	8C~9C前半

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
79-11		須恵器	坏蓋	2DA区	4層		(1.9)		輪状摘み	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
79-12		須恵器	坏	2DA区	4層		(1.4)	8.8		外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ、ナデ	密。1mm以下の砂粒を僅かに含む	良好	灰	底部はヘラ切り古墳時代後期
79-13	64	須恵器	高台付坏	2DA区	4層	14.6～16.0	4.1	10.6		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密。1mm以下の砂粒を僅かに含む	良	灰白	8C～9C前半
79-14		須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(2.5)	9.4		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
79-15		須恵器	高台付坏	2DB区	4層		(3.1)	9.6		外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	青灰	8C～9C前半
79-16		須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(1.5)	11.9		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
79-17		須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(3.5)	6.8		外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
79-18		須恵器	高台付坏	2DA区	4層	17.8	6.2	10.0		外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良	灰	8C～9C前半
79-19		須恵器	高台付坏	2DA区	4層	12.6	5.7	6.4		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
79-20	64	須恵器	高台付坏	2DA区	4層	11.8	5.2	7.2		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	灰～灰白	8C～9C前半
79-21		須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(4.7)	7.4		外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ、ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	灰	8C～9C前半
79-22		須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(4.1)	6.0		外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	灰白	8C～9C前半
79-23		須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(3.1)	5.6		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	密	良好	暗黄灰～にぶい黄橙	8C～9C前半
79-24	64	須恵器	高台付坏	2DA区	4層		(3.1)	7.2		外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
80-1		須恵器	甗	2DA区	4層	10.4	(3.2)		口縁部に櫛状工具による刺突文、ヘラ状工具による沈線を施す	外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	黒灰	外面に自然釉付着古墳時代後期
80-2	64	須恵器	高坏	2DA区	4層		(8.2)			外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	黄灰	8C～9C前半
80-3	64	須恵器	長頸壺	2DA区	4層		(7.8)		頸部に沈線が1条、肩部に凸帯が1条巡る	外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	黄灰	内外面に自然釉付着8C～9C前半
80-4		須恵器	小形壺	2DA区	4層		(2.7)	7.0		外：回転ナデ 内：回転ナデ、ヘラケズリ	密	良	灰	8C～9C前半底部のみ
80-5		須恵器	壺	2DA区	4層		(3.5)		体部に櫛状工具による刺突文、ヘラ状工具による格子文	外：回転ナデ 内：回転ナデ	密。1mm程度の砂粒を僅かに含む	良好	暗青灰	外面に自然釉付着古墳時代
80-6		須恵器	壺	2DA区	4層		(6.4)	11.8	高台	外：回転ナデ 内：回転ナデ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良好	灰	8C～9C前半
80-7	64	須恵器	壺	2DA区	4層		(7.9)			外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	青灰	8C～9C前半
80-8		須恵器	壺	2DA区	4層		(5.0)	18.0	高台	外：ヘラケズリ、回転ナデ 内：ナデ、同心円状タキ	密	良好	灰	8C～9C前半
80-9		須恵器	短頸壺	2DA区	4層		(5.9)			外：回転ナデ、タキ 内：回転ナデ	密	良好	灰	8C～9C前半
80-10	64	須恵器	壺か甗	2DA区	4層	38.0	(4.1)			外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	黒灰	古墳時代後期
80-11	64	須恵器	壺か甗	2DA区	4層	30.4	(3.5)		頸部にヘラ状工具による沈線が巡る	外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	良好	暗青灰	古墳時代後期～奈良時代～
80-12	64	須恵器	壺	2DA区	4層		(18.5)		外面はタキの後にカキメを施す	外：ヘラケズリ、平行タキ 内：同心円状タキ	密	不良	灰	8C～9C前半
81-1	65	瓦質土器	掃鉢	2DB区	4層		(3.3)			外：ナデ 内：ナデ	1～2mm程度の砂粒を少量含む	良	灰	
81-2	65	瓦質土器	掃鉢	2DA区	4層		(4.9)			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	浅黄	
81-3	65	瓦質土器	掃鉢	2DA区	4層		(5.3)			外：ナデ 内：ナデ、ハケメ	1mm程度の砂粒を僅かに含む	良	灰黄	
81-4	65	瓦質土器	掃鉢	2DA区	4層		(5.0)			外：ナデ 内：ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	灰白	

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
81-5	65	瓦質土器	鍋	2DA区	4層		(5.7)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ	密	良	灰黄	
81-6	65	瓦質土器	火鉢	2DA区	4層		(5.3)			外：粗いナデ 内：粗いヨコハケメ	1mm程度の砂粒を含む	良	暗灰	外面に煤付着
81-7	65	瓦質土器	播鉢	2DA区	4層		(5.9)			外：粗いナデ 内：ナデ	1mm以下の砂粒を多量に含む	良	浅黄橙	
81-8	65	瓦質土器	播鉢	2DA区	4層		(7.6)			外：粗いナデ 内：ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄	内外面に赤彩、煤付着
81-9	65	土師器	坏	2DA区	4層	13.3	4.0	6.0		外：回転ナデ 内：回転ナデ	精良	良好	にぶい黄橙	底部は回転糸切り
81-10	65	土製品	土錘	2DA区	4層	現存長 4.0	最大幅 1.3	孔径 0.3	管状土錘 円柱形	外： 内：	密	良好	黄灰	
81-11	65	土製品	土錘	2DA区	4層	現存長 4.7	最大幅 1.2	孔径 0.3	管状土錘 円柱形	外： 内：	密	良好	橙~浅黄	
81-12	65	土製品	土錘	2DA区	4層	現存長 4.1	最大幅 1.4	孔径 0.5	管状土錘 中部位がふくらむ	外： 内：	密	良好	にぶい黄橙	
81-13	65	土製品	土錘	2DA区	4層	現存長 5.0	最大幅 1.9	孔径 0.6	管状土錘 中部位がふくらむ	外： 内：	密。1mm以下の砂粒を僅かに含む	良好	橙~明黄褐	
81-14	65	土製品	土錘	2DA区	4層	現存長 5.8	最大幅 2.7	孔径 0.6	管状土錘 中部位がふくらむ	外： 内：	1mm以下の砂粒を少量含む	良好	橙~にぶい黄橙	
81-15		土製品	紡垂車	2DA区	4層	現存長 2.8	最大幅 4.2	孔径 0.7		外： 内：	1mm以下の砂粒を僅かに含む	良好	橙~明黄褐	
81-16	65	土製品	土製支脚	2DA区	4層	幅 6.5~10.6	器高 (13.5)	厚さ 4.4~9.0	胴部に貫通する孔あり	外：ナデ 内：ナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	山陰地域土製支脚分類 I B類
82-1	62	鉄製品	鉄斧	2DB区	4層	長さ 8.2	幅 3.2~4.2	厚さ 0.5~2.8	重量 (g) 200.55	外： 内：				袋状鉄斧

## 5層

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
86-1	49	土師器	高坏	竪穴式 建物跡	5層	13.9	(4.1)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙~浅黄橙~黒	古墳時代前期
86-2	49	土師器	低脚坏	竪穴式 建物跡	5層	13.4	(4.6)			外：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ 内：ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 灰黄~褐灰~橙 内 橙~灰黄~黄灰	古墳時代前期
86-3	49	土師器	高坏	竪穴式 建物跡	5層	20.4	(11.2)			外：ミガキ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 灰黄褐~黒褐 内 ~にぶい橙 灰黄褐~黒褐	古墳時代前期
86-4	49	土師器	鉢	竪穴式 建物跡	5層	18.3	7.0			外：風化のため不明 内：ナデ	1~3.5mmの砂粒を多く含む	やや不良	外 浅黄橙~にぶい橙 内 黒褐~灰黄褐	古墳時代中期前半
86-5	49	土師器	壺	竪穴式 建物跡	5層		(5.4)			外：ハケメ 内：ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 黒褐~浅黄橙 内 灰~浅黄橙	
86-6	49	土師器	小形丸底 鉢	竪穴式 建物跡	5層	12.6	6.1		丸底	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 橙~灰緑 内 橙~灰緑~黒	古墳時代中期前半
86-7	49	土師器	壺	竪穴式 建物跡	5層	22.5	(35.7)		頸部にヘラ状工具による有軸羽状文 肩部に右下がり列点文刺突正面観	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	古墳時代前期後葉
86-8	49	土師器	器台	竪穴式 建物跡	5層	7.1	5.2	7.4		外：ハケメ 内：ヨコナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	やや不良	外 赤橙~灰~ にぶい橙 にぶい黄橙 ~灰黄	
86-9	49	土師器	甕	竪穴式 建物跡	5層	12.6	(4.4)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙	
88-1	50	土師器	小形丸底 壺	土器 溜り B-1	5層	8.3	11.0		丸底	外：ナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	外 浅黄橙~灰白 内 浅黄橙~灰黄	外面の胴部以下に煤付着
88-2	50	土師器	壺	土器 溜り B-1	5層	9.7	(6.2)			外：ハケメ 内：ハケメ、ヘラケズリ	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外 橙 内 黄橙~橙	
88-3	50	土師器	壺	土器 溜り B-1	5層		(2.3)		平底	外：ナデ、ケズリ 内：ハケメ	1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外 黒褐~橙~ 浅黄橙 内 灰白~黒褐	底部のみ
88-4	50	土師器	壺	土器 溜り B-1	5層		(6.7)	1.9	平底	外：ナデ 内：ヘラケズリ	2~4mmの砂粒を含む	良好	橙~浅黄橙	下半部のみ
88-5	50	土師器	高坏	土器 溜り B-1	5層	19.1	13.6	12.7		外：ナデ、ミガキ 内：ナデ	1~2mmの砂粒を含む	良好	橙	内外面赤彩

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	出土 地点	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
88-6	50	土師器	低脚環	土器溜り B-1	5層	12.8	9.4	5.5		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	1mm以下の砂粒 を多く含む	良好	灰白	
88-7	50	土師器	甕	土器溜り B-1	5層	15.4	(10.3)			外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	1～3mmの砂粒 を多く含む	やや 不良	浅黄橙	外面に煤付着 古墳時代初頭?
88-8	50	土師器	壺	土器溜り B-1	5層		(8.3)	5.4		外：ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 を多く含む	良好	外 灰黄 内 橙～にぶい 黄橙	下半部のみ
89-1		土師器	壺	土器溜り B-2	5層	14.0	(4.4)		竹管文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1mm未満の砂粒 を多く含む	良好	灰白～灰黄	
89-2	50	土師器	壺	土器溜り B-2	5層	14.5	28.3	6.1	痕跡的平底	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	1mm程度の砂粒 を多く含む	良好	灰白	

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	取上 No.	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
91-1	65	土師器	甕	P-319	5層	(15.8)				外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒 を含む	良好	にぶい黄橙	
91-2		土師器	甕	P-319	5層	(17.4)				外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を含む	良	にぶい黄橙	
91-3		土師器	甕	P-230	5層	(15.0)				外：ヨコナデ、ナデ(風化により 不明瞭)、ハケメ ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を多く含む	良	にぶい黄橙	
91-4	65	土師器	甕	P-285	5層	(16.8)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒 を多く含む	良	浅黄橙～灰白	
91-5		土師器	甕	P-318	5層	(16.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を多く含む	良	淡黄	
91-6	65	土師器	甕	P-303	5層	(17.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	にぶい黄橙～灰 白	
91-7		土師器	甕		5層	(16.2)				外：ヨコナデ、ハケメ?(風化により不明瞭) 内：ヨコナデ、ナデ?(風化により不明瞭)	1mm程度の砂粒 を多く含む	良	にぶい黄橙	内面、外面に赤 彩。
91-8	65	土師器	甕	P-87	5層	(14.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 を含む	良	淡黄	
91-9	65	土師器	甕	P-348	5層	14.2				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒 を含む	良	浅黄橙	口縁端部に赤彩
91-10		土師器	甕	P-306	5層	(15.6)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を多く含む	良	浅黄	
91-11	66	土師器	甕	P-323	5層	(12.8)				外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒 を多く含む	良	橙	
91-12	66	土師器	甕	P-223	5層	(18.0)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 をわずかに含む	良	にぶい黄橙	
91-13	66	土師器	甕	P-342	5層	(15.4)	31.7			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒 を多く含む	良	黄橙	口縁部内面、及 び外面全体に赤 彩。
92-14	66	土師器	甕	P-327	5層	(16.6)			複合口縁	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を多く含む	良好	黄橙	
92-15		土師器	甕	P-330	5層	(18.4)			複合口縁	外：ヨコナデ、 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒 を含む	良好	浅黄橙	
92-16	66	土師器	甕	P-317	5層	(13.8)			複合口縁	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒 を含む	良好	浅黄橙	
92-17		土師器	壺	P-284	5層	(17.4)			複合口縁	外：風化により不明瞭 内：ヨコナデ?	1～2mm程度の砂粒 を多く含む	良好	淡黄	
92-18	66	土師器	壺	P-243. 221	5層	16.8			複合口縁	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	浅黄橙	
92-19	66	土師器	甕	P-347	5層	(19.9)			複合口縁 肩部に波状文	外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	浅黄橙	
92-20	66	土師器	壺	P-305	5層	21.3			複合口縁 頭部と肩部に有軸 羽状文	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1mm～3mm程度の 砂粒を多く含む	良	淡黄	
92-21	66	土師器	甕		5層					外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、ナデ(指頭瓦痕)、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 を多く含む	良好	灰黄	径、傾きともに 推定 外面に赤 彩
92-22	66	土師器	壺?(底部)	P-325	5層					外：ハケメ後ミガキ?ハケメ後ナデ 内：ナデ、ヘラケズリ後ナデ、(一部ハケメ)	1～2mm程度の砂粒 を含む	良好	橙～明黄褐	底部に黒斑あり
93-23	67	土師器	甕	P-327	5層	(12.6)	11.9	1.0		外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、指頭瓦痕	1～3mm程度の砂粒 を多く含む	良	淡黄	外面に赤彩

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	取上 No.	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
93-24	67	土師器	高坏	P-345 112	5層	24.0		17.5	外：ハケメ、ナデ 内：ナデ、ヘラミガキ、ハケメ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙		
93-25	67	土師器	直口壺	P-291	5層				外：ナデ 内：ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙		
93-26	67	土師器	直口壺	P-334	5層	10.4	16.2		波状文、刺突文 波状文、刺突文	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ?	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
93-27	67	土師器	器台	P346	5層			10.9	外：ヘラミガキ、ハケメ 内：ハケメ、ナデ、指頭圧痕	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
93-28	67	土師器	鼓形器台	P-229	5層	(20.0)			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	灰白		
93-29	67	土師器	碗	P-321	5層	15.5	6.9	5.1	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
93-30	67	土師器	甗	P-327	5層				外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい橙		
93-31	67	土師器	播鉢?	P-332	5層	(22.8)			内部に6条の播目 内部に6条の播目	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内面、外面ともにスス付着。赤彩
94-1		弥生土器	甗		5層	(22.2)			口縁端部にキザミ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1~2mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	橙	
94-2		弥生土器	甗		5層	(21.2)			口縁端部にキザミ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	にぶい橙	
94-3	68	弥生土器	(底部)	P-257	5層			8.5	外：ナデ 内：(風化により不明瞭)	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	外面に赤彩	
94-4		土師器	甗		5層	(14.2)			肩部に波状文、刺突文	外：ヨコナデ、ナデ 内：(風化により不明瞭)	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	
94-5	68	土師器	甗	P-283	5層	15.0			肩部に波状文、刺突文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良		外面に赤彩
94-6	68	土師器	甗	P-135	5層	15.3			肩部に波状文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	灰白	
94-7		土師器	甗	P-287	5層	(16.8)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	
94-8		土師器	甗	P-392	5層	14.4	( )	3.9	径約1.2cmの穿孔あり	外：ナデ、ハケメ 内：(風化により不明瞭)	1~1.5mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	接点は未確認
95-9		土師器	甗	P-186	5層	(22.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良	にぶい黄橙	
95-10		土師器	甗		5層	28.7				外：(風化により不明瞭) 内：(風化により不明瞭)	0.5~1.5mm程度の砂粒を含む	良	にぶい黄橙	
95-11		土師器	甗	P-202	5層	(33.6)			肩部に刺突文	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	
95-12	68	土師器	壺		5層	(19.8)			肩部に有軸羽状文	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1から3mm程度の砂粒を多く含む	良好	にぶい黄橙	スス付着
96-13		土師器	甗		5層	(16.0)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	浅黄橙	外面に赤彩
96-14	68	土師器	甗	P-404	5層	(14.8)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内外面に赤彩
96-15	68	土師器	甗	P-406	5層	15.6				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
96-16	68	土師器	甗	P-358	5層	14.3				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	灰白	
96-17	68	土師器	甗	P-475	5層	13.4	25.4		長胴	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙~浅黄	
96-18		土師器	甗		5層	(16.0)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1~4mm程度の砂粒を多く含む	良好	灰白	
96-19	68	土師器	甗	P-283	5層	(13.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：風化により不明瞭	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
96-20	68	土師器	甗	P-183	5層	12.6	20.9			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	
97-21	69	土師器	甗		5層	13.0				外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙	
97-22		土師器	甗	P-399, 392	5層	16.3				外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒、4~5mm程度の小石を含む	良好	橙	

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	取上 No.	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
97-23	69	土師器	甕	P-288	5層	(16.0)				外：ハケメ、タタキ後ハケメ 内：ハケメ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
97-24		土師器	甕		5層	15.3				外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ後ヘラケズリ	0.5～1mm程度の砂粒、3～4mm程度の小石を含む	良好	橙	
97-25	69	土師器	甕	P-312	5層	(16.4)				外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ	1～2mm程度の砂粒、5mm程度の小石を含む	良	にぶい黄橙～褐灰	
97-26	69	土師器	甕	P-466	5層	15.4				外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	橙～浅黄橙～褐灰	
97-27	69	土師器	甕		5層	17.1				外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良	橙	
97-28	69	土師器	甕	P-370		(14.2)				外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	1～2mm程度の砂粒をわずかに含む	良	浅黄橙	内外面に赤彩
97-29		土師器	甕		5層	(17.4)			(くし)状工具による波状文、沈線(2条)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ		良好	灰	外面に赤彩
98-30	69	土師器	甕	P-312	5層	13.2				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄	
98-31	69	土師器	甕	P-172	5層	(12.0)	12.1			外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む、3～4mm程度の小石をわずかに含む	良	にぶい黄橙	
98-32	69	土師器	甕	P-27	5層	11.6				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1～8mm程度の小石、砂粒を含む	良好	黄橙	
98-33	69	土師器	壺	P-360	5層	7.8	10.2		底部は平坦面を持つ	外：風化により不明瞭 内：ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
98-34	69	土師器	壺	P-208	5層	9.8	8.9			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
98-35	69	土師器	小型(甕)	P-212	5層	10.6	12.1			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	橙～にぶい橙	
98-36	69	土師器	壺	P-280	5層	10.7	9.2			外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ヘラケズリ、ナデ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙～灰白	内面に赤彩
98-37	69	土師器	壺	P-181	5層	9.4	8.1	3.4		外：ナデ 内：ハケメ、ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良好	橙	
98-38	69	土師器	壺	P-211	5層	7.4	6.9			外：風化により不明瞭、一部ハケメ 内：風化により不明瞭	1mm程度の砂粒を含む	良好	橙	
98-39	70	土師器	鉢		5層	11.6	7.8			外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ケズリ	1～2mm程度の砂粒をわずかに含む	良	にぶい黄橙	
98-40	70	土師器	壺	P-215	5層	8.7	9.8			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、指頭圧痕、一部剥離により不明瞭	1mm以下の砂粒を含む	良好	橙	
98-41	70	土師器	碗	P-188	5層	10.0	4.5	3.6		外：ヨコナデ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	密、1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	橙	
98-42	70	土師器	碗	P-363	5層	10.0	5.2	2.4	片口	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ後ナデ、ナデ	蜜、1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	にぶい黄橙～灰白	
98-43	70	土師器	碗?		5層	(12.7)				外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙～浅黄橙	
98-44	70	土師器	碗	P-378、379	5層	13.0	6.9		口縁端部は平坦面	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ	1mm程度の砂粒を含む	良好	橙～にぶい橙	
98-45	70	土師器	碗	P-259	5層	11.2	5.2			外：ナデ 内：ナデ、ハケメ	1～3mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	明黄橙～にぶい黄橙	
98-46	70	土師器	碗	P-292	5層	(10.8)	5.4	4.0		外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	黄橙	手づくね成形
99-47	70	土師器	壺	P-277	5層	15.2				外：風化により不明瞭 内：風化により不明瞭、一部ヘラケズリか	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙	
99-48	70	土師器	壺	P-357	5層	(18.0)				外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ハケメ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	内面に赤彩
99-49	70	土師器	壺	P-392	5層	16.2		(7.6)	肩部に波状文	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	0.5～1.5mm程度の砂粒を含む	良好	淡黄	
100-50	70	土師器	壺	P-299	5層		27.2	7.7	平底気味の底部	外：ナデ、ハケメ 内：ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	淡黄	
100-51	70	土師器	壺	P-162	5層	(18.0)	31.8			外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	
101-52	71	土師器	高坏	P-282	5層	12.0				外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ、ナデ	1～3mm程度の小石、砂粒を含む	良好	黄橙	

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	取上 No.	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
101-53	71	土師器	高坏	P-279	5層	(21.6)			外：ナデ? 内：ナデ?	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
101-54	71	土師器	高坏	P-272	5層	(24.0)			外：ハケメ?風化により不明瞭 内：ヨコナデ?風化により不明瞭	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
101-55	71	土師器	高坏	P-354	5層	21.0	14.4	15.5	脚部に円形スカシ(4方向) 外：ヨコナデ(風化により不明瞭)、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ(風化により不明瞭)、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内外面に赤彩	
101-56	71	土師器	高坏	P-350	5層	(17.6)	(15.7)	22.8	脚部に円形スカシ(4方向)脚端部は平坦面 外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙~灰白		
101-57	71	土師器	高坏		5層	(24.8)	12.5	14.5	脚部に円形スカシ(4方向) 外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ(風化により不明瞭)、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
101-58	71	土師器	低脚坏	P-269	5層	(22.0)	6.0	5.8	外：ナデ、ハケメ 内：ヘラミガキ、	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙		
101-59	71	土師器	低脚坏		5層	14.6	5.4	6.4	外：ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	橙		
101-60	71	土師器	低脚坏		5層	(19.0)	6.1	(5.4)	外：ヨコナデ、ハケメ(風化により不明瞭) 内：ヨコナデ、ヘラミガキ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
101-61	71	土師器	低脚坏		5層	16.8	7.0	8.0	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ナデ、ヨコナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙		
102-62	72	土師器	器台(小型)	P-97	5層	7.5	6.2	(9.8)	脚部に円形スカシ(3方向) 外：ナデ(風化により不明瞭)、一部ハケメ 内：ナデ(風化により不明瞭)、一部ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
102-63	72	土師器	器台(小型)	P-171	5層	8.3	6.7	9.4	脚部に円形スカシ(4方向) 外：ナデ、ヘラミガキ 内：ナデ、ハケメ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良好	黄橙~浅黄橙		
102-64	72	土師器	器台(小型)		5層	9.2	8.6	10.4	外：ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ 内：ナデ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙~にぶい黄橙		
102-65	72	土師器	器台(小型)	P-276	5層	9.0	8.5	11.8	脚部に円形スカシ(4方向) 外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙		
102-66	72	土師器	低脚坏	P-406	5層	10.4	5.9	4.0	外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ、 内：ナデ	1~2mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	橙		
102-67	72	土師器	低脚坏		5層	11.6	6.6	5.6	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	密、1~2mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	橙		
102-68	72	土師器	器台(鼓形)	P-30	5層	(20.8)	11.4	18.4	脚部に円形スカシ(1ヶ所) 外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙		
102-69	72	土師器	器台(鼓形)	P-310	5層				外：ヨコナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙		
102-70	73	土師器	器台(鼓形)		5層	(22.0)			外：ヨコナデ 内：ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙		
102-71	73	土師器	器台(鼓形)	P-30	5層	20.2			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヘラケズリ、ヘラミガキ	1~3mm程度の砂粒を含む	良好	橙~浅黄橙		
102-72	73	土師器	器台(鼓形)		5層	(22.2)			外：ヨコナデ 内：ナデ	1~3mm程度の砂粒をわずかに含む	良好	黄橙		
102-73	73	土師器	器台(鼓形)		5層	(21.8)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ、ヘラケズリ、ヨコナデ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良好	黄橙		
102-74	73	土師器	器台(鼓形)		5層	(22.2)			外：ヨコナデ 内：ナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む、3~4mm程度の小石をわずかに含む	良好	浅黄橙		
103-75	73	土製品	土錘		5層	現存長 5.0	最大幅 102.0	孔径 0.4			密	良好	橙	
103-76	73	土製品	土錘	P-266	5層	現存長 4.8	最大幅 3.4	孔径 0.9			密	良好	黄灰	
103-77	73	土製品	土錘	P-262	5層	現存長 4.8	最大幅 3.6	孔径 1.0				良好	黄灰~黒	
103-78	73	土製品	土錘	P-265	5層	現存長 4.5	最大幅 3.5	孔径 0.8				良好	黒褐	
103-79	73	土製品	土錘	P-268	5層	現存長 3.8	最大幅 2.5	孔径 0.7~0.8			密	良好	黄灰	
103-80	73	土製品	土錘	P-263	5層	現存長 3.9	最大幅 3.0	孔径 0.8				良好	にぶい褐~黒褐	
103-81	73	土製品	土錘	P-260	5層	現存長 3.8	最大幅 3.9	孔径 0.8				良好	にぶい褐~黒	
103-82	73	土製品	土錘	P-378	5層	現存長 3.9	最大幅 4.4	孔径 0.8				良好	褐黄	



挿図番号	図版番号	種別	器種	取上No.	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
103-83	73	土師器	土鍾	P-264	5層	現存長 6.5	最大幅 5.2	孔径 1.0~(0.5)			1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	にぶい黄橙～灰白	
103-84	73	土師器	土鍾	P-267	5層	現存長 6.0	最大幅 4.4	孔径 0.4			1mm以下の砂粒をわずかに含む	良好	浅黄橙～浅黄	
103-85	73	土師器	土鍾	P-262	5層	現存長 6.2	最大幅 5.1	孔径 0.9			1mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	
103-86	73	土師器	ミニチュア土器		5層	6.4	4.1	2.8		外：ナデ 内：ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	
103-87	73	土師器	ミニチュア土器		5層	(7.6)	6.4	2.2	手づくね成形、底部は貼付か?	外：ハケメ 内：ナデ、ハケメ	1～2mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙～にぶい黄橙	

## 河道跡

挿図番号	図版番号	種別	器種	取上No.	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
106-1	74	土師器	甕	P-6		(13.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～5mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
106-2	74	土師器	甕	P-43		(15.6)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～4mm程度の砂粒を含む	良好	黄橙	
106-3	74	土師器	壺	P-86		(17.8)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	灰白	
106-4	74	土師器	甕	P-129		(15.5)				外：ヨコナデ、風化により不明瞭 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
106-5	74	土師器	甕	P-46		(17.3)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
106-6	74	土師器	甕	P-134		(19.6)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	1～9mm程度の砂粒、砂礫を含む	良好	浅黄橙	
106-7	74	土師器	甕	P-153		(14.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
106-8	74	土師器	壺	P-144		(16.6)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～4mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
106-9	74	土師器	壺	P-104		(14.4)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
106-10	74	土師器	甕	P-152		(15.0)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～4mm程度の砂粒を含む	良好	橙	
107-11	74	土師器	甕	P-134		18.2			複合口縁	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい橙	内面に赤彩
107-12	74	土師器	碗	P-150		(14.8)				外：ナデ、ハケメ 内：ナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	淡黄	
107-13	74	土師器	高坏	P-5		24.6	16.4	(15.4)		外：ハケメ 内：ハケメ、ハケメ後ナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良好	浅黄橙	黒斑あり
107-14	75	土師器	碗	P-153		(19.2)		11.4		外：ナデ 内：ナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄	
107-15	75	土師器	碗			(10.8)				外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
107-16	75	土師器	碗	P-54		11.6	6.5			外：ナデ 内：ナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	明黄褐	
107-17	75	土師器	(碗)	P-108		11.8	6.9	3.8		外：ヘラミガキ、ナデ 内：ナデ	1～3mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
107-18	75	土師器	碗	P-1		(17.6)	6.7			外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙～灰白	
107-19		土師器	壺	P-141		(24.0)				外：ヨコナデ、 内：ヨコナデ	1～2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	
107-20	75	土師器	壺	P-39					肩部に11条、10条の直線文、11条～13条の波状文	外：ヘラミガキ 内：ナデ、ハケメ	1～3mm程度の砂粒を含む	良好	橙～浅黄橙	胴径、傾きともに推定
107-21	75	土師器	壺	P-23					肩部に有軸羽状文	外：ハケメ、ヘラケズリ 内：ハケメ	1～3mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	径、傾きともに推定

河道跡

挿図番号	図版番号	種別	器種	取上No	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
108-1	76	弥生土器	甕	P-270	6層	(23.0)			口縁部外面に疑凹線文(26条)、口縁端部に疑凹線文(3条)	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良好	にぶい黄橙~灰黄橙	
108-2	76	弥生土器	甕	P-269	6層				口縁部外面に疑凹線文、肩部外面に刺突文	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む、3mm程度の砂粒をわずかに含む	良	浅黄	傾きは推定
108-3	76	弥生土器	甕	P-139	6層	14.7			口縁部外面に疑凹線文、肩部外面に疑凹線文・刺突文	外:ヨコナデ、ハケメ、 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良	黄橙	
108-4		土師器	甕	P-255	6層	16.8			複合口縁	外:ナデ、 内:ナデ、ヘラケズリ?	0.5~1.5mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	
108-5	76	土師器	甕	P-125	6層	(13.4)			複合口縁	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい橙	
108-6	76	土師器	甕	P-309	6層	(16.8)			複合口縁	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を含む	良	浅黄橙	
108-7	76	土師器	壺	P-301.215	6層	13.5			複合口縁 肩部外面に波状文(7条)	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	
108-8	76	土師器	壺	P-50	6層	(16.6)			複合口縁	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	
109-9		土師器	壺	P-368	6層	(15.0)			口縁部は内傾気味に立ち上がる	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ	1~3mm程度の砂粒を含む	良好	浅黄橙	
109-10		土師器	壺	P-213	6層	(18.2)			肩部外面に刺突文	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ(風化により不明瞭)	1mm程度の砂粒を含む	良	淡黄	内面に赤彩
109-11	76	土師器	壺	P-466	6層	23.4	49.0	9.1	肩部外面に刺突文	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
110-12	77	土師器	甕		6層	(15.8)				外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ナデ、	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内面に赤彩
110-13	77	土師器	甕	P-354	6層	(15.0)				外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	
110-14	77	土師器	甕	P-70	6層	(13.0)			口縁端部に沈線	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい橙	
110-15	77	土師器	甕	P-249	6層	(14.8)			胴部に穿孔	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	外面、及び口縁部内面に赤彩
110-16	77	土師器	甕	P-202	6層	(15.5)				外:ナデ、ハケメ 内:ハケメ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
110-17	77	土師器	甕	P-373	6層	(15.4)				外:ヨコナデ、ハケメ 内:ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒、6mm大の小石を含む	良好	浅黄橙	
110-18		土師器	甕	P-168	6層	15.6				外:ヨコナデ、ハケメ、 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良	黄橙	
110-19	77	土師器	甕	P-168	6層	(15.6)				外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙~褐灰	
110-20	77	土師器	甕	P-226	6層	(16.8)				外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙	内外面に赤彩
111-21		土師器	甕		6層	(16.4)			肩部に刺突文	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙	外面に赤彩
111-22	77	土師器	甕	P-310	6層	(13.2)				外:ハケメ、ナデ 内:ハケメ、ナデ	1mm程度の砂粒をわずかに含む	良	浅黄橙	
111-23	77	土師器	甕	P-345	6層	(15.0)	20.0	3.2	底部は平底	外:ハケメ 内:タタキ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙	
111-24	78	土師器	甕	P-165	6層	(13.4)				外:ヨコナデ、ハケメ、タタキ 内:ヨコナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
111-25		土師器	甕		6層	(13.0)				外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
111-26	78	土師器	甕	P-326	6層	(14.0)				外:ヨコナデ、ハケメ、ナデ(風化により不明瞭) ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	黄橙	
111-27	78	土師器	甕	P-336.337	6層	(15.7)	21.0	3.8		外:ヘラガキ(風化により不明瞭) 内:ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	灰黄褐~褐灰	
111-28	78	土師器	壺	P-467	6層	(15.8)				外:ヨコナデ、ハケメ 内:ハケメ、ヘラケズリ、ナデ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良	橙	
112-29	78	土師器	甕	P-155	6層	17.5				外:ナデ、ハケメ 内:ハケメ後ナデ、ハケメ後ヘラケズリ	0.5~2.5mm程度の砂粒を含む	良好	橙~浅黄橙	

挿図 番号	図版 番号	種 別	器 種	取上 No	層位	寸 法 (cm)			形態・文様の特徴	調 整	胎 土	焼成	色 調	備 考
						口径	器高	底径						
112-30		土師器	甃		6層	17.0			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙		
112-31	78	土師器	甃	P-81	6層	13.2			外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ、ヘラケズリ(風化により不明瞭)	1~2mm程度の砂粒を含む	良	にぶい橙		
112-32	78	土師器	壺	P-66	6層	(15.2)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙		
112-33	78	土師器	壺	P-176	6層	16.4			外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ、ヘラケズリ	1~1.5mm程度の砂粒を含む	良好	黄橙		
113-34	79	土師器	壺	P-314	6層	13.0			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良好	橙		
113-35	79	土師器	壺	P-80	6層	16.0			外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙		
114-36	79	土師器	壺	P-98	6層	(13.4)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	にぶい黄橙		
114-37	79	土師器	壺	P-177	6層	14.0			外：ナデ、ハケメ後ヘラミガキ 内：ハケメ後ヘラミガキ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙	外面に赤彩	
114-38	79	土師器	壺	P-322	6層	14.4			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を含む、3~4mm程度の小石をわずかに含む	良	黄橙	外面、内面に一部赤彩	
115-39	79	土師器	(壺)	P-300	6層	10.6	15.6		外：風化により不明瞭(ハケメ?) 内：ナデ(指頭圧痕)、ハケメ	1~2mm程度の砂粒を大量に含む	やや軟	橙~黄橙		
115-40	79	土師器	(壺)	P-311	6層	9.8	16.0		外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂粒を多く含む	良	橙~黄橙		
115-41	79	土師器	(壺)	P-81	6層	10.7	17.4		肩部に波状文 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
115-42	80	土師器	甃	P-320	6層	12.4	14.9		底部は円盤状の粘土を貼り付けか 外：ハケメ 内：ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良好	浅黄橙		
115-43	80	土師器	(壺)	P-178	6層	(14.6)	11.1	1.6	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂粒をわずかに含む	良	橙		
115-44	80	土師器	(壺)	P-303	6層	(9.6)	10.2	3.3	底部は平底 外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ、 内：ハケメ、ナデ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙		
115-45	80	土師器	(壺)	P-180	6層	11.2	11.1		外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、指頭圧痕、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	淡黄	完形	
115-46	80	土師器	(壺)		6層	(10.9)	(12.6)		底部に穿孔 外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
115-47	80	土師器	(壺)	P-179	6層	11.7	9.5	1.6	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
115-48	80	土師器	(壺)	P-182	6層	8.4	14.1		外：ナデ 内：ナデ、一部、風化により不明瞭	1~2mm程度の砂粒を多量に含む	良好	にぶい黄橙		
115-49	80	土師器	甃		6層			3.2	底部中央に穿孔、 底部は平底 外：タタキ 内：ハケメ	1mm程度の砂粒を含む	良好	にぶい黄橙	底部に別の穿孔を試みた痕跡あり	
116-50	81	土師器	高坏	P-359	6層	11.6	10.1	15.6	脚部に円形スカシ(3方向) 外：風化により不明瞭 内：ハケメ	1~2mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
116-51	81	土師器	高坏	P-106	6層	12.1			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1~2mm程度の砂粒を含む	良好	橙		
116-52	81	土師器	高坏		6層	(13.8)			脚部に円形スカシ(4方向) 外：ヨコナデ、ハケメ(風化により不明瞭) 内：ナデ、ヘラケズリ(風化により不明瞭)	1mm程度の砂粒を多く含む	良	橙		
116-53	81	土師器	高坏	P-276	6層	(15.9)	13.3~15	12.0	脚部に円形スカシ(3方向) 外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ(風化により不明瞭)	1mm程度の砂粒、2mm程度の小石を多く含む	良	明黄褐	外面に赤彩、スス付着	
116-54	81	土師器	高坏	P-354	6層	11.80			外：ハケメ後ミガキ 内：ミガキ	0.5~1.3mm程度の砂粒を含む	良好	橙		
116-55	81	土師器	高坏	P-214	6層	12.2	9.5		外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ	1mm程度の砂粒を多く含む	良	浅黄橙		
116-56	81	土師器	高坏	P-361	6層	(20.9)			外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	1mm以下の砂粒を含む	良	橙		
116-57	81	土師器	高坏	P-187	6層	(20.0)	16.9	(13.4)	脚部に円形スカシ(3方向) 外：風化により不明瞭、一部ハケメ 内：ハケメ、ナデ?、ヘラケズリ?	1mm程度の砂粒を含む	良好	橙		
116-58	81	土師器	高坏	P-82	6層	(23.8)			外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良	浅黄		
116-59	82	土師器	高坏	P-111	6層	(23.8)	15.5	(13.0)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒を含む	良	浅黄橙	外面に一部赤彩	

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	取上 No	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
116-60	82	土師器	高坏		6層			11.2	脚部に円形スカン (3方向)	外：ハケメ後ミガキ 内：ナデ、ミガキ?	1mm程度の砂粒 を含む	良	橙	
116-61	82	土師器	高坏		6層			16.4	脚部に円形スカン (4方向?)	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ	0.5~2mm程度の 砂粒を含む	良	橙	
117-62	82	土師器	低脚坏	P-102	6層	(20.2)	4.7	5.8	脚部に円形スカン (2ヶ所)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ	砂粒をほとんど 含まない	良	浅黄橙	
117-63	82	土師器	低脚坏	P-145	6層	(21.2)	6.5	6.4	脚部に円形スカン (1ヶ所)	外：ヨコナデ、ナデ(風化により不明瞭) 内：ヨコナデ、ナデ(風化により不明瞭)	1mm程度の砂粒 を多く含む	良	浅黄橙	
117-64	82	土師器	器台 (鼓形)	P256	6層	(20.2)				外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	浅黄橙	
117-65		土師器	器台 (鼓形)		6層			(18.0)		外：ヨコナデ 内：ナデ、ヘラケズリ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	黄橙	
117-66	82	土師器	器台	P-209	6層			12.3		外：ヘラミガキ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	灰黄	外面の一部に赤 彩
117-67	82	土師器	器台	P-115	6層			9.8	脚部に円形スカン (2方向)	外：ミガキ 内：ハケメ、ナデ	0.5~2mm程度の 砂粒を含む	良好	橙	
117-68	82	土師器	(碗)	P-143	6層	10.2	4.1			外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	浅黄橙	
117-69	82	土師器	(碗)	P-283	6層	10.2	6.1			外：ナデ、ヘラケズリ 内：ナデ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	橙~にぶい橙	
117-70	82	土師器	(碗)	P-325	6層	(13.6)	4.7			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒 を多く含む	良	橙	
117-71	82	土師器	碗	P-45	6層	(13.8)	7.6			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	1~2mm程度の砂粒 を多く含む、3mm程度の含む 小石をわずかに含む	良	にぶい黄橙	
117-72	82	土師器	碗	P-126	6層	15.4	6.6			外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	1~5mm程度の砂 粒、小石を含む	良好	橙	
117-73	83	土師器	碗	P-371	6層	17.2	5.3			外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	1~3mm程度の砂 粒、小石を含む	良好	黄橙	
117-74	83	土師器	碗	P-212	6層	(11.6)	12.0		底部中央に穿孔、 径(5~9mm)	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	橙~明褐	
117-75	83	土師器	碗	P-117	6層	10.3	7.1			外：粗いナデ 内：ナデ	2~4mm程度の小 石をわずかに含む	良	橙	
117-76	83	土師器	鉢 (台付き)	P-90	6層	12.0	7.1			外：ナデ、ハケメ、指頭丘痕 内：ナデ	1~3mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙	
117-77	83	土師器	鉢	P-140	6層	17.40	12.8		底部に穿孔	外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙	外面に赤彩
118-78	83	土師器	壺	P-104	6層	(16.4)			口縁の外側・内面 ともに2段の波状 文	外：ヨコナデ、 内：ナデ	1mm程度の砂粒 を多く含む	良	にぶい黄橙	外面に赤彩
118-79	83	土師器	壺	P-88	6層	(25.0)				外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙	
118-80	84	土師器	壺		6層	(21.6)				外：風化により不明瞭 内：ナデ	1~2mm程度の砂 粒、4~5mm大の 小石を含む	良	明黄褐	
118-81	84	土師器	壺	P-267	6層	(21.0)			口縁外面に波状文、 浮文(1ヶ所)	外：ナデ?(風化により不明瞭) 内：ナデ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	明黄褐	
118-82	84	土師器	壺		6層	(21.6)			口縁端部は平坦面、 口縁外面に2列の 竹管文	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、ナデ	1~2mm程度の砂 粒を含む	良	橙	
118-83	84	土師器	壺	P-304	6層	(14.4)			口縁端部に沈線 口縁外面に円形浮 文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	にぶい黄橙	
118-84	84	土師器	壺		6層	(21.0)			口縁部上段に径3mmの円形 スカン、口縁部中段に径9 mmの円形スカン、口縁部全 体に多数にわたる波状文	外：風化により不明瞭 内：風化により不明瞭	1~3mm程度の砂 粒を含む	やや軟	橙	
118-85	84	土師器	壺	P-271、 273、278、 289	6層	23.7			口縁端部、及び口縁下部 に竹管文、頸部に貼付突 帯文、肩部にクシ描き文	外：ナデ、ヘラミガキ 内：ハケメ後ヘラミガキ、ヘラケズリ	1~3mm程度の砂 粒を含む	良好	橙	
118-86	84	土師器	壺	P-138	6層				肩部に沈線(9条) が2ヶ所、間に波 状文(13条)	外：ヨコナデ 内：ナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	浅黄	外面に赤彩
118-87	84	土師器	壺	P156	6層				肩部に貼付突帯文、 沈線2ヶ所、間に 波状文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒 を多く含む	良	橙	傾きは推定
119-88	84	土師器	壺		6層	(13.2)			口縁部外面に疑凹 線文、楕円形の浮 文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	浅黄橙	
119-89	84	土師器	壺		6層	(25.4)			口縁端部に貼付文	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、タタキ	1mm程度の砂粒 を含む	良	橙	

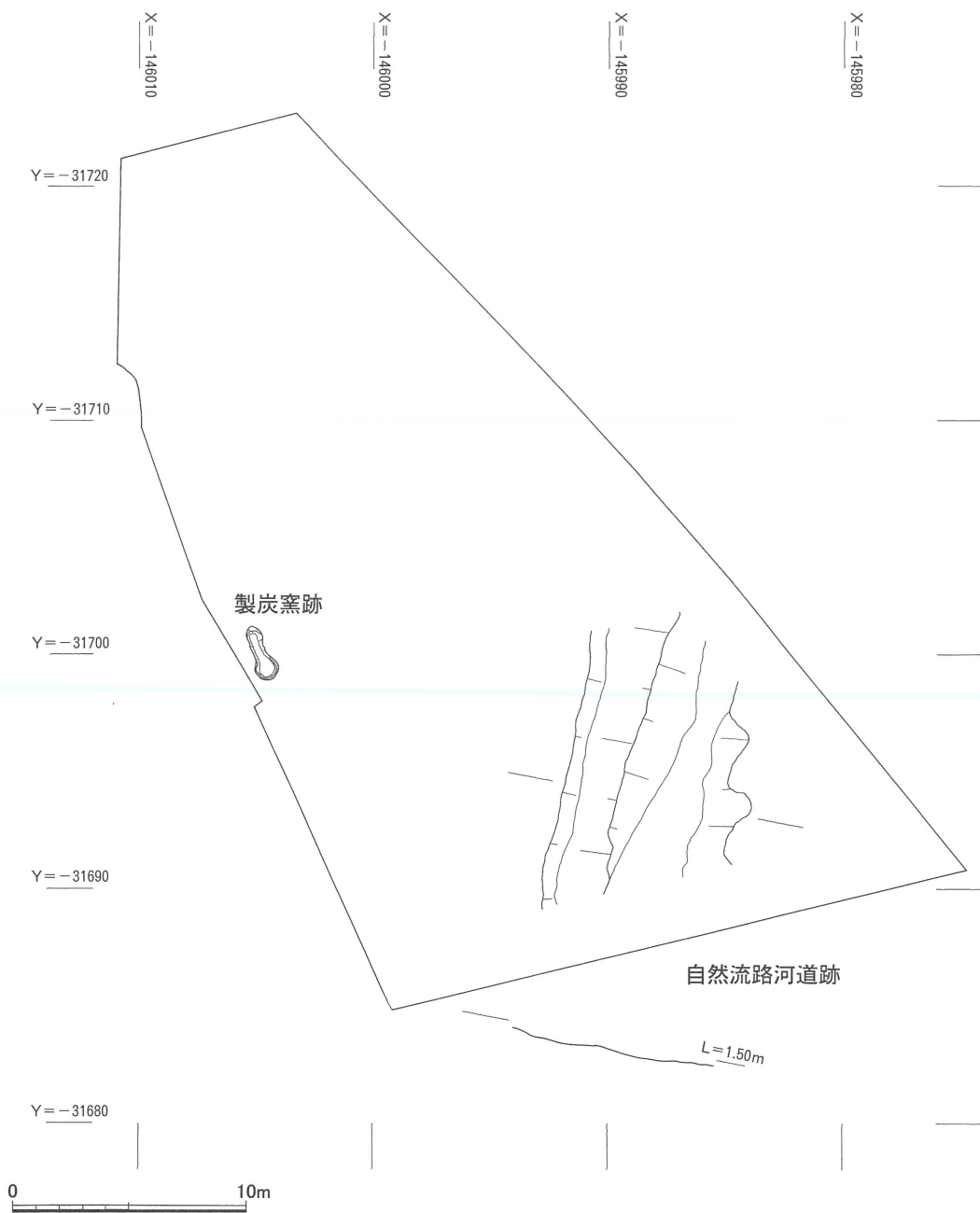
挿図 番号	図版 番号	種別	器種	取上 No	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考	
						口径	器高	底径							
119-90	85	土師器	壺	P-28	6層	(19.8)			口縁端部、頸部に 浮文、口縁部に内面、 外面とも波状文	外：ナデ 内：ナデ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙		
119-91	85	土師器	壺		6層	(17.0)			口縁下部に突帯、 波状文、円形浮文	外：ヘラミガキ 内：ナデ(風化により不明瞭)	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙		
119-92	85	土師器	壺		6層	(19.2)			口縁端部に竹管文、 口縁部外面に円形 浮文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1~4mm程度の砂 粒を含む	良好	橙		
119-93	85	土師器	壺		6層	(22.4)			口縁端部と下部に 竹管文	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙	内面に赤彩	
119-94	85	土師器	壺	P-174	6層				頸部に貼付突帯	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ(風化により不明瞭)	1~2mm程度の砂 粒を多く含む	良	橙		
120-95	85	土師器	土鍾	P-263	6層	現存長 4.3	最大幅 4.8	孔径 0.9				1~2mm程度の砂 粒を含む	良好	橙~にぶい黄橙	
120-96	85	土師器	土鍾	P-75(?)	6層	現存長 4.9	最大幅 4.3	孔径 0.8~1.0				1~2mm程度の砂 粒を含む	良好	浅黄橙~明黄褐	
120-97	85	土師器	土鍾	P-358	6層	現存長 4.9	最大幅 3.3	孔径 0.7				1mm程度の砂粒 をわずかに含む	良好	にぶい黄橙	
120-98	85	土師器	鉢	P-254	6層	(8.4)	3.0	3.7		外：ナデ、ハケメ 内：ナデ、ハケメ	0.5~2mm程 度の砂粒を多く 含む	良好	にぶい黄橙		
120-99	85	土師器	手づくね 土器	P-289	6層	8.2	3.0			外：ナデ、指頭圧痕 内：ナデ、指頭圧痕	1mm程度の砂粒、 3mm程度の小石 を含む	良	にぶい橙		
120-100	85	土師器	手づくね 土器		6層	6.6	2.8	3.0	手づくね成形	外：ナデ、(指頭圧痕) 内：ハケメ	1mm程度の砂粒 を含む	良好	にぶい黄橙	内面に赤彩	
120-101	85	土師器	手づくね 土器	P-186	6層	4.8	4.1	3.2		外：ナデ 内：ハケメ後ナデ	1mm以下の砂粒 を含む	良好	橙~浅黄橙		
120-102	85	土師器	手づくね 土器	P-288	6層	5.0	3.5		手づくね成形	外：ナデ、(指頭圧痕) 内：ナデ、(指頭圧痕)	1mm程度の砂粒 を含む	良好	にぶい橙		
120-103	85	土師器	手づくね 土器	P-285	6層	5.2	3.2		手づくね成形	外：ナデ、(指頭圧痕) 内：ナデ、(指頭圧痕)	1mm程度の砂粒 をわずかに含む	良好	橙		
120-104	85	土師器	手づくね 土器	P-217	6層	2.8	3.1		手づくね成形	外：ナデ 内：ナデ、(指頭圧痕)	1mm程度の砂粒 をわずかに含む	良好	浅黄		
120-105	85	土師器	手づくね 土器	P-230	6層	7.4	3.6	2.7		外：ヘラ状工具によるナデ? 内：ナデ、指頭圧痕	1mm程度の砂粒 を多く含む	良	浅黄橙	内面に赤彩	
120-106	85	土師器	手づくね 土器	P-228	6層	5.7	5.0	2.8	手づくね成形	外：ナデ 内：ナデ、(指頭圧痕?)	1~2mm程度の 砂粒を含む	良好	橙~黄橙		
120-107	85	土師器	手づくね 土器	P-232	6層	4.8	3.6	2.8	手づくね成形	外：ナデ、(指頭圧痕) 内：ナデ、(指頭圧痕)	1mm程度の砂粒 を含む	良好	にぶい黄橙		
120-108	85	土師器	手づくね 土器	P-232	6層	4.0	3.7	2.2	手づくね成形	外：ナデ、(指頭圧痕) 内：ナデ、	1mm程度の砂粒 をわずかに含む	良好	浅黄		
120-109	85	土師器	手づくね 土器	P-241	6層	(3.2)	3.8	2.8	手づくね成形	外：ナデ、(指頭圧痕) 内：ハケメ	1mm程度の砂粒 をわずかに含む	良好	黄橙		

### 第3節 2E区の調査

#### 2E区の概要について

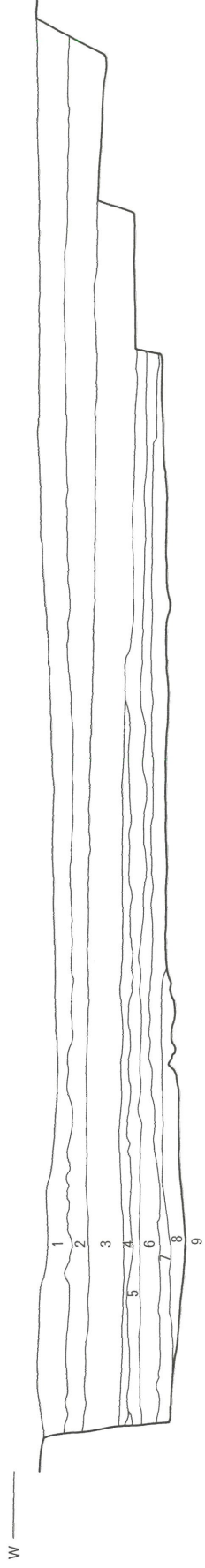
2E区は近年まで畝地として利用されてきたところである。本報告書第7図土層概念図(2区)と照合すると2E1層と基本1層、2E2層と基本2・3層、2E3～4層と基本4層、2E5～7層と基本5層基本6層、2E8層以下と基本7層以下がそれぞれ対応すると思われる。表土から1.7m掘り下げたところで後述する自然流路河道跡の水底面に達する。

遺構は現地地表下80cm以内の比較的上層で29のピットを検出した。これらは概ね中世以後のものともみられ大きいものは近代以後のものである。このほかに、調査区の南側、南壁中央付近の比較的上層(2E2層)で製炭窯1基を検出した。また、調査区の北東隅において、礫層まで掘り進んだ最



第122図 2E区遺構配置図 (S=1/300)

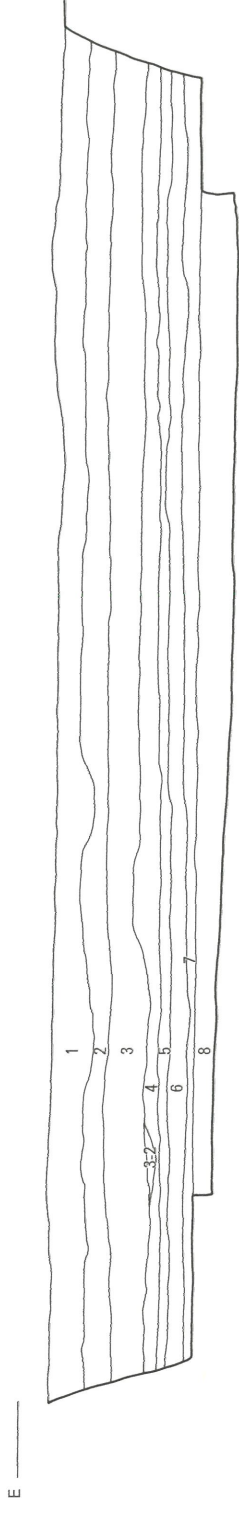
L = 3.00m E



- 1. 暗灰茶色土層 (耕土)
- 2. 暗茶色土層
- 3. 茶色土層
- 4. 灰褐色粗砂層 (円礫少量混じる)
- 5. 明灰色シルト層
- 6. 暗灰色シルト層
- 7. 明灰色シルト層
- 8. 暗灰色シルト層
- 9. 明灰色シルト層 (円礫多量に混じる)

第123図 2 E区北壁土層断面実測図 (S = 1/80)

L = 3.00m W



- 1. 暗灰茶色土層 (耕土)
- 2. 暗茶色土層 (円礫若干混じる)
- 3. 暗灰色砂礫土層 (円礫多く混じる)
- 3-2. 暗黄褐色砂層 (円礫若干混じる)
- 4. 黄褐色砂層
- 5. 明灰色シルト層
- 6. 暗灰色シルト層
- 7. 明灰色シルト層
- 8. 暗灰色シルト・明灰色シルト互層 (円礫多量に混じる)

第124図 2 E区南壁土層断面実測図 (S = 1/80)



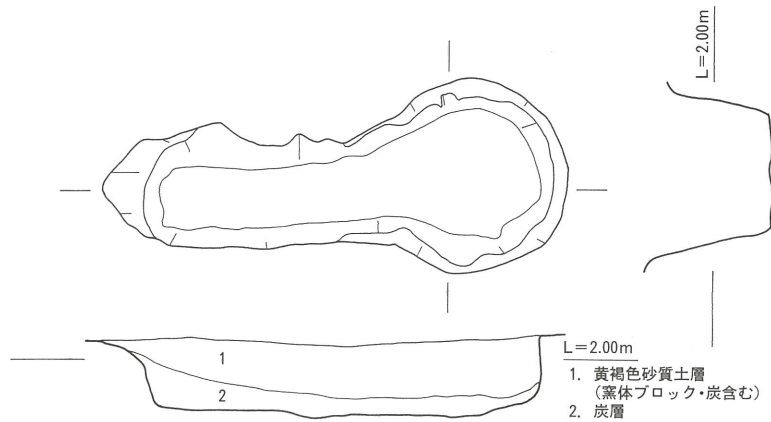
終面で自然河道を検出した。自然河道跡の堆積層中に弥生時代中期（石見Ⅲ様式）の土器片が出土しており、この時期の痕跡である可能性が考えられる。

## 2 E 区の遺構について

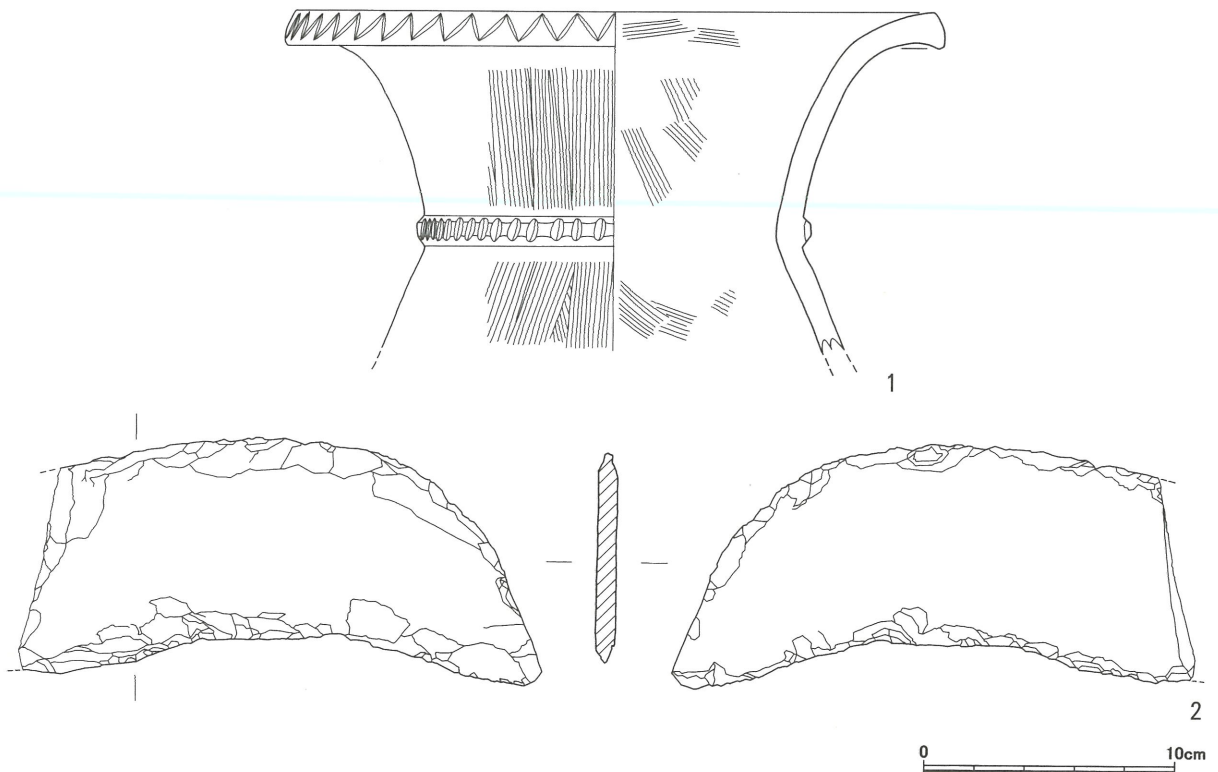
調査区の南側、南壁中央付近の比較的上層（2 E 2 層）で製炭窯 1 基を検出した。

製炭窯の規模は長さ2.45m、幅0.55～1.05m、深さ0.65mをそれぞれ測る。窯の底部には、粗い砂層が堆積していたが、この砂層の検出面に炭材の小口の痕跡が観察できた。

また、調査区の北東隅において、礫層まで掘り進んだ最終面で自然河道を検出した。土層堆積の状況から水流のあった当時の水底は標高約 1 m に満たないものと推測される。調査区内の河道は、長さ12.5m、幅 6～8 m をそれぞれ測り、深さは最深20cm程度であった。自然河道跡の堆積層中に弥生時代中期（石見Ⅲ様式）の土器片が出土しており、この時期の痕跡である可能性が考えられる。なお、この自然流路河道跡は 2 D 区の河道跡とは経路、標高とも合致せず連結していない。また、



第125図 2 E 区製炭窯実測図 (S = 1/40)



第126図 2 E 区出土遺物実測図 1 (S = 1/3) (弥生土器、石鎌)



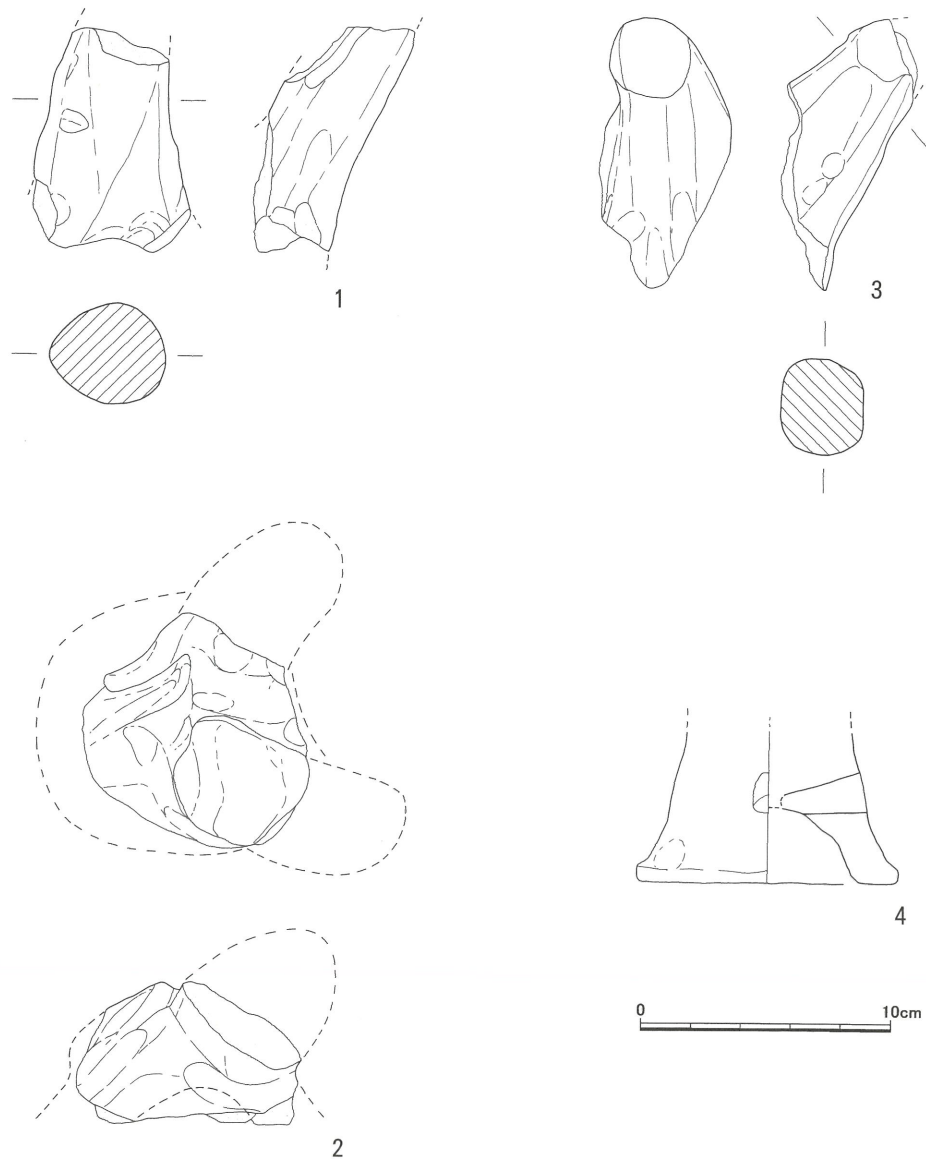


第127図 2 E区出土遺物実測図2 (S=1/3) (甕、壺、高坏)

2 D区堅穴建物跡の掘り込まれた基盤となっている礫層とも標高が合わず連結していない。2 D区堅穴建物跡の掘り込まれた基盤となっている礫層は全体の土層の中でレンズ状に浮遊しているものと考えられる。

### 2 E区の遺物について

**石器** (第126図2 図版90) 第126図2は、弥生時代の石鎌である。全長20.5cmの大形品だが、基部が折れていることから、本来はさらに大形だったと考えられる。厚さは0.7cmと全形のわりには薄く、スレート状の劈開をもつ石材が利用されたと考えられる。刃部・背部には調整剥離が施されるが、大部分は礫面を残している。また、背部先端付近には調整剥離が施されず、平坦な小口面となっている。基部は欠損するが、左図の面ではわずかに調整剥離が施され、欠損後も再利用されたことがわかる。刃部・背部の剥離は、稜線が摩滅しているものと鋭利なままのものがあること



第128図 2 E区出土遺物実測図3 (S=1/3) (土製支脚)

から、鋭利な剥離は再調整されたものと判断される。なお、摩滅した剥離痕は左図の面に多く見られ、また刃部先端部分にとくに顕著である。

**弥生土器** (第126図1 図版90) 第126図1は、Ⅲ-2様式の壺である。口縁部は大きく外反し、端部は肥厚して面を持つ。口縁端部に鋸歯文、頸部に刻目突帯文を施している。

**土師器** (第127図 図版90) 第127図1~4は甕、同5は高杯である。

1は口縁部が外反し、胴部はやや長い器形である。底部は丸底。3も同様な器形だが、口縁部がS字状にカーブを描き、やや長い。ともにていねいに仕上げられているが、1の胴部はハケ目調整が顕著なのに対し、3はハケ目がナデ消されている。1は古墳時代前期までさかのぼるものの可能性がある。3は古墳時代中期のものと考えられる。

2は口縁部が短く外反し、底部は平底気味の丸底である。やや厚く作られており、1・3に比べれば雑な作りである。頸部以下は全面にハケ目調整が施されている。古墳時代後期のものの可能性がある。

4は非常に雑な作りの甕である。頸部の屈曲はわずかで、口縁部は直立気味に内湾している。口縁端部の処理も雑で、上面観は小さく波打っており、上端は水平にならない。胴部はあまり張らず、下半部の凹凸が非常に顕著である。底部は平底で、底面観はドーナツ状を呈している。外面の調整は、頸部から胴部中ほどかけて比較的ていねいなハケ目調整が施され、それ以下の部位には雑なナデ調整が施される。胴部下半は小さな凹凸が顕著で、指頭による成形痕が残っている。内面は口縁部・頸部に指による押圧痕があり、とくに頸部には顕著である。胴部以下は、指による削りと押圧痕がみられる。器壁は比較的均等な厚さで、成形はおもに指によったと思われる。弥生時代後期までさかのぼる可能性があるが、ここでは古墳時代の土器としておく。

5は小形の高杯である。杯部は碗形で、口縁部はあまり開かない。脚部は脚端部が大きく開くが、筒部は円筒にならず粘土が詰まった状態である。脚端部内面は、指等により半球状に挟り込まれ、接地面は幅1cm程度の面を持っている。古墳時代中期頃のものと思われる。

**土製品** (第128図 図版90) 第128図は土製支脚である。1・2が胴部上半から支脚部にかけての破片、3が支脚部、4が底部である。2は内面が半球状にくぼむことから、胴部があまり長くない器形と推定される。支脚は3支に復元される。このような器高の低い土製支脚は島根県江津市に所在する半田浜西遺跡にその類例が求められる<sup>(1)</sup>。半田浜西遺跡の土器溜りから出土した器高の低い土製支脚は前方の2方向に伸びる支脚と後方の鱗状の突起を持つ山陰地域土製支脚分類のⅡC類に分類されるものである<sup>(2)</sup>。当遺跡2E区から出土したこの第128図2の器高の低い土製支脚もこの例に連なるものの可能性がある。後方突起を持つⅡ類の土製支脚は6世紀末～8世紀前半まで使用されたものとされる<sup>(3)</sup>。1は胴部の長い器形である。4は底面を半球状に挟り込まれた底部で、側面に孔が一つ穿たれている。これらの土製支脚は3を除いて小形で華奢である。当遺跡2D区4層で出土している第81図16に挙げた土製支脚(前方2方向突起、胴部に貫通孔)とは様相を異にしているものがあり、出土点数が少ない割にはバラエティーに富んでいるといえるのではないだろうか。これらの土製支脚の使用時期は6世紀末～8世紀前半までとされている<sup>(4)</sup>。当遺跡は2D区4層出土遺物の項目でも述べたように、その使用時期が日本の他地域と異なる際立った特徴を見せる山陰地域土製支脚出土地の西限であると思われる。

#### 註

(1) 島根県教育委員会『一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ(鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窯跡)』1995年

(2) 岩橋孝典「山陰地域古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』No.11 島根県古代文化センター 2003年

(3) 註(2)に同じ

(4) 註(2)に同じ

第7表 2E区出土遺物観察表

挿図 番号	図版 番号	種別	器種	出土 地点	層位	寸法 (cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	焼成	色調	備考
						口径	器高	底径						
126-1	90	弥生土器	広口壺	河道跡 覆土	7層	25.8	13.7		口縁部：鋸歯文状の 刺突文 頸部：突帯を一重巡 らしキザミを施す。	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデの上に一部ハケメ	密、1~2mmの砂 粒を含む	良好	黄橙色	石見Ⅲ-2様式
127-1	90	土師器	甕	包含層	3層	13.8	20		口縁はくの字状に 開く	外：回転ナデ、ナデ、ハケメ、 内：指押圧痕、ナデ、底ハケメ、 ケズリ	精良	良好	赤黄色	外面に煤付着 古墳時代前期
127-2	90	土師器	甕	包含層	3層	14.0	17.8		頸部は肉厚で口縁は低 く直口ぎみであり外： 反しない。平底	外：回転ナデ、ハケメ 内：回転ナデ、粗いミガキ、ケズリ	良	良好	赤褐色	外面に煤付着、 成形が粗雑 古墳時代後期
127-3	90	土師器	甕	包含層	3層	13.6	16.5		口径が比較的大き く、丸底	外：回転ナデ、ナデ、工具痕跡 内：回転ナデ、ケズリ	精良	良好	黄褐色	外面に煤付着 古墳時代中期
127-4	90	土師器	甕	包含層	3層	10.5	10.8	6.2	厚底で高台状を呈 する。	外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ヨコナデ、指押圧痕、ハケ メ、粗いナデ	密、石英、角閃 石を含む	良好	浅い黄色~浅い 黄橙色	粗雑な手捏ね成 形 古墳時代
127-5	90	土師器	高坏	包含層	3層	9.8	9.7	8.9	顕著な歪み	外：粗いヘラミガキの後粗い指ナデ。 上下の接合部に指押圧痕 内：坏部ケズリ、指押圧痕、脚 台部ナデ、ケズリ	1~2mmの砂粒を 多く含む。	良好	淡黄褐色	成形が粗雑で調 整もかなり粗い。 古墳時代中期
128-1	90	土製品	土製支脚	包含層	3層		9		脚柱部が前後に扁 平で華奢	粗いケズリ、ナデ	0.5~1mmの黒色砂 粒を多く含む。2~ 3mmの小石を含む。	良好	浅黄	上下に欠損部分あ り。他の3点と胎土 の違いが際立つ。
128-2	90	土製品	土製支脚	包含層	3層		5.6		低脚で前傾が強い。 脚台部にドーム上 の割り込みあり。	粗いケズリ、ナデ	1mm前後の砂粒 を含み、2~5mm の小礫を含む。	良好	にぶい黄橙色	脚柱部のみ残存。 形態的に石見地方 特有（低脚、強い 前傾）江津半田浜 西遺跡に類似あり。
128-3	90	土製品	土製支脚	包含層	3層		10.8			ケズリ	1~3mmの砂粒を 多く含む。	良好	浅い黄橙色	支持突起部分の み残存
128-4	90	土製品	土製支脚	包含層	3層		6.0	10.4	脚台部にドーム上 の割り込みあり。	ナデ	2~3mmの小石を 多く含む。	良好	にぶい浅黄色~ 橙色	前後に貫通する穿孔 あり。移動のため棒 を差し込む用途か？
126-2	90	石器	石鎌	河道 跡底	7層	現存長 20.8	最大幅 8.0	最大厚 0.8	重量 (g) 267.98	打製、刃部も鋸も打ち搔いて いる。			青灰色	弥生時代中期

## 第7章 総 括

浜寄・地方遺跡は島根県益田市高津に所在する。遺構としては水田跡・溝状遺構・建物跡などが検出されている。また、自然流路河道跡も検出され多量の遺物が出土している。遺物としては弥生時代前期から江戸時代までのものが出土しているが、中でも古墳時代前半期の遺物量が際立って多い。これに相当する時期の遺構としては、古墳時代前期後葉～中期にかけての遺物を伴う堅穴建物跡1棟しか検出しなかったが、周辺には、これら多量の遺物を産出する同時代の集落の拠点があるものと考えられる。また、洪水由来の堆積層から平安時代末の木造仏手（仏像の手）が出土しており、当時の仏教文化の地方における展開のようすが偲ばれる。

### 1区と2区の土層の関係について

浜寄・地方遺跡の土層については、以前に1区と2区それぞれについて記述している<sup>(1)</sup>。前回の報告では土色や土質の違いから、1区を確認のできた深さまでで基本的に8層、2区を以下に遺構・遺物等の存在がないと判断したところまでで7層（但し、今回報告したとおり当初6層とした層は河道跡に伴うと判断しており、実質6層）に分層したが、その段階ではそれぞれの関係がほとんど明らかにできていなかった。今回の調査の結果、主に土層の形成要因や出土遺物の様相からその関係のある程度推測することが可能となっており、はじめにその関係についての考えを示しておく。

結論からいうと、地方1層≒浜寄1層、地方2層≒浜寄2層・3層・4層、地方3層≒浜寄5層である。理由としては、

- ・地方1層≒浜寄1層 …………… 基本的に近世以降の遺物を包含していること
- ・地方2層≒浜寄2層～4層 ……… 地方2層と浜寄4層のどちらも過去の洪水に起因すると考えられる堆積物から形成されること。加えて、若干の違いがあるものの主に同時期の遺物が出土していること（2・3層については4層の土壌化が進んだものと判断）。
- ・地方3層≒浜寄5層 …………… 出土遺物が古墳時代前期～中期までの遺物にほぼ限定されること

といったことがあげられる。

ただ、この考えは調査での状況及び整理段階での検討に基づくものであり、実際とは異なっている可能性も十分考えられるため、以上を以下の考察を行ううえでの一応の前提としてあげておきたい。

### 河道跡について

先述のとおり調査区では東西方向に伸びる河道跡を確認した。主な出土遺物の様相から判断して、弥生時代後期～古墳時代前期にその中心があり、中期以降はほとんど機能しなくなったと判断されるものである。

この河道跡については全体像を把握していないため確実なことはいえないが、西側に広がる低地帯と東側に流れる河川を結んでいたものと考えられる。現在でも調査区の南側には西側の水田地帯

と東の河川（高津川）を結ぶ唯一の水路が存在し、水田地帯からの排水の役割を果たしているが、これらの状況から考えると現在の水路の前身にあたるものと判断され、少なくとも弥生時代後期以降流路を少しずつ変えながらも存在していたと推測される。地形的にみると、調査区付近がちょうど谷状になっており、現在とそれほど相違のない地形利用がされていたものと思われる。

### 古墳時代の様相

今回の調査でも多くの土器が出土しているが、その中心は前期～中期にかけてである。この状況はこれまでの調査で確認できた状況と同じであり、さらに、後期になると遺物量が急激に減少する状況もまた同じである。現時点で集落跡と呼べるほどの建物跡は確認できていないが、前期～中期にかけての比較的規模の大きな集落が展開していた可能性が高い。それにも関わらず後期になると急激に遺物が減少し、中期～後期にかけての時期に大きな変化があったことをうかがわせている。そうした変化がどのような要因によるものなのかは単純に結論付けられるようなものではないだろうが、原因のひとつとして環境の変化があった可能性を指摘しておきたい。

古墳時代前期の遺物（一部に中期の遺物）を含む層は洪水由来による堆積により形成された考えられる地方2層と浜寄4層に覆われている。浜寄側では厚いところで約1mにも及ぶ堆積が認められるほか、河川（おそらく高津川）に由来する多量の礫の存在からすると、その氾濫の規模は大きなものであったと考えられ、この地域に大きな影響があったであろうことは十分想定される。

この層は、出土遺物にやや時期幅があるものの、出土状況などから判断すると、奈良～室町にかけての遺物は堆積後しばらくしてのものであると考えられることから、それよりも以前に形成された可能性が高い。さらに4層中下層の砂層中には中期の遺物を多く含むのに対し、それ以降の遺物は基本的に確認されておらず、そのような状況から判断すると古墳時代中期頃にその時期が求められそうである。このことは前回報告した自然化学分析の結果にもあるように、地方側では弥生時代から古墳時代（中期）にかけての層と判断される3層が「荒地」などであったとされるのに対し、その上の2層については「乾湿を繰り返すような環境であり、時として沼沢地に、時として湿地や完全に干上がる状態になったりしたと考えられる」とされることとも矛盾していない。

こうした点から考えると、大規模な河川の氾濫によりこの付近の環境が生活の上であまり適したものではなくなり、その結果が反映されている可能性もあるといえよう。

### 出土遺物について

今回の調査では繰り返し述べているように古墳時代の土師器が多数出土し資料の蓄積ができたことも大きな成果である。これまでも周辺のいくつかの遺跡において、この時期の土師器が確認されているが、まとまった形で出土したのは今回が初めてとあってよい。今回の報告までに詳細な検討ができておらず、資料を十分に生かしきれていないのが実情であるが、島根県という現在の範囲で見た場合、東部では圧倒的に複合口縁の割合が多いのに対し、今回出土したものは半分以上が単純口縁のものであり異なる様相をみせていること、また、第118・119図に掲載したようにほかのものと比較すると器形や装飾等明らかに異質な土器が存在するという点、そして同器種の中に、例えば甕について見てみると、胴部が球状に近いものや卵のように長楕円気味になる器形が認められるということ、などいくつかの特徴をあげることができる。

今回調査した益田市周辺の古墳時代前期を中心とした時期の土器の様相については、先にも記したように資料の不足もあって明らかにされていない点も多く、どのような器形のものが「在地」の土器といえるかの前提も検討していかねばならないが、どちらかといえば隣接する山口県の様相に類似する点も多いと思われる。文化的にも近い関係がこの時代にまでさかのぼる可能性を考えることのできる資料ともいえる。今後さらに検討を重ねていきたい。

#### 註

- (1) 島根県教育委員会『一般国道9号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2 浜寄・地方遺跡』2006

